

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
(伝)群馬県	群馬県	不明		不明	鏡		不明		2
(伝)群馬県	群馬県内?	不明		不明	鏡・馬具・裝飾付大刀(纒頭大刀)・武器(鉄刀)		不明		70
白飯宮腰2号墳	埼玉県浦和市大字白飯宮腰	円	12.4	粘土槨 (組合式木棺)	鏡・玉類(碧玉勾玉・管玉・ガラス丸玉)・武器(鉄刀・短刀・鉄鏃数本)・石製品(滑石紡錘車)・土製品(紡錘車)	埴輪(円筒・朝顔)	後期		173
どうまん塚古墳	埼玉県川越市大字下小坂	円	24.5	木棺直葬	鏡・玉類・武器(挂甲)・武器(鉄刀2・鉄鏃)・馬具・生産用具(鉄斧・砥石)・その他(鉄製利器)		後期		71
入西石塚古墳(後円部埋葬施設)	埼玉県坂戸市大字善能寺字万海256	前方後円	40.0	木棺直葬	鏡・武器(挂甲・衝角付冑?)・武器(鉄刀・鉄剣2・鉄鏃・鉄鏃25+)		後期		72
新里	埼玉県児玉郡神川町新里	不明		不明	鏡		後期		73
中郷	埼玉県行田市大字須加字中郷	円		不明	鏡・装身具(銅釧)・玉類(管玉3)・武器(鉄刀)・生産用具(鹿角装刀子)		後期?		73
埼玉将軍山古墳	埼玉県行田市埼玉	前方後円	102.0	横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・玉類・武器(冑・横列板鉾留短甲)・裝飾付大刀(銀装大刀・纒頭大刀)・武器(鉄鏃・鉄鏃)・馬具・銅製容器(合子)・須恵器		後期		74
三条塚古墳	千葉県富津市大字下飯野字三条塚	前方後円	123.0	横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・玉類(小玉・土製漆塗小玉・銀製算轆玉形笠玉)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具(鞍金具・雲珠・鑑金具)・須恵器(有蓋高坏・壺蓋)・貝殻		後期		75
瓢塚17号墳	千葉県成田市赤坂2丁目	円	25.0	不明	鏡	(鉄斧?)	中期?		6
請西・大山31号墳第2主体部	千葉県水更津市大字請西字諏訪1496	円	28.0	木棺直葬 (組合木棺?)	鏡・玉類(碧玉管玉・水晶切子玉・ガラス小玉)・武器(短刀・鉄鏃)・生産用具(刀子)		後期		
らちめん古墳(惠泉女子短大構内古墳)	神奈川県伊勢原市三ノ宮1436	古墳		横穴式石室?	鏡・馬具(轡・鞍金具・杏葉2)・生産用具(刀子)		後期		76
下田5号横穴	神奈川県中郡大磯町虫窪下田	横穴		横穴	鏡		終末期		77
村北3号墳	長野市松代町大字豊栄字平林	円		竖穴式石室	鏡・玉類(瑪瑙勾玉・碧玉勾玉・管玉・小玉)		中期		78
川柳將軍塚古墳	長野市篠ノ井上石川	前方後円	93.0	竖穴式石室	鏡2;(伝)鏡6・石製腕飾類(車輪石)・装身具(耳環)・玉類(ガラス小玉・管玉・勾玉・小玉・白玉)・武器(銅鏃)・筒形銅器・石製品(玉杖)		前期		79
県山古墳	長野県更埴市森県山	円	12.0	不明	鏡・装身具(耳環5)・玉類(勾玉・小玉・管玉・霰玉)・武器(鉄刀4・鉄鏃36)・馬具(轡)・生産用具(刀子2・鑿2)・須恵器(越2)	埴輪(円筒)	後期		80
城山古墳	長野県上田市殿城字殿城	円		石棺直葬	鏡・装身具(耳環)・玉類(勾玉・管玉・切子玉・小玉)・武器(鉄鏃)・生産用具(土鏃)・須恵器		後期		81
岩屋堂岩窟古墳(御嶽堂岩窟古墳)	長野県小県郡丸子町大字依田字御嶽堂	曝葬		曝葬	鏡・武器(鉄刀・鉄鏃)・生産用具(紡錘車)・須恵器・土師器		中期		82
桜立古墳	長野県松本市中山字桜立	円	25.0	横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・玉類(翡翠勾玉・管玉)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具(轡・雲珠)		後期		80
平地1号墳(饒頭塚古墳)	長野県飯田市大字座光寺字平地	円		横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・玉類(切子玉)・裝飾付大刀(纒頭大刀)		後期		80

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
新井原7号墳	長野県飯田市大字盛光寺字新井原	円		竪穴式石室?	鏡・装身具(耳環)・玉類(勾玉・切子玉・丸玉・小玉)・武器(短甲)・武器(鉄刀・鉄鏃)・土師器	-	中期		80
下山3号墳埋葬施設?	新潟県南魚沼郡大和町浦佐下山	円	10.0	木棺直葬?	鏡・武器(鉄刀)・須恵器2・土師器(高坏多数)		中期		83
名木沢古墳	新潟県南魚沼郡大和町名木沢	円		不明	鏡・玉類(瑪瑙勾玉2・管玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・白玉)		中期～ 後期		83
蟻子山48号墳	新潟県南魚沼郡六日町余川蟻子山	円	23.0	竪穴式石室	鏡・玉類(管玉2)		中期～ 後期		84
飯綱山10号墳 (女塚)	新潟県南魚沼郡六日町余川飯綱山	円	37.0	不明	鏡2		中期		84
(伝)飯綱山古墳群	新潟県南魚沼郡六日町余川飯綱山	古墳		不明	鏡		中期～ 後期		84
(伝)飯綱山古墳群	新潟県南魚沼郡六日町余川飯綱山	古墳		不明	鏡		中期～ 後期		84
天神堂90号墳 (天神堂27号墳)	新潟県新井市竜町天神堂	円	17.0	不明	鏡・武器(鉄刀・鉄鏃9+)・生産用具(刀子)・その他(朱)		後期		85
和田山5号墳B号粘土 標	石川県能美郡寺井町	前方 後円	63.0	粘土槨	鏡3・装身具(堅簡4)・武器(三角板鋌留短甲)・武器(鉄刀11・鉄剣3・鉄槍2・鉄鏃多数)・生産用具(刀子2・鋤先・鉄斧3・鏃)・その他(不明鉄板)		中期	珠紋鏡?	86
重立山1号墳	福井市重立町	円	24.1	木棺直葬 (割竹形木棺)	鏡・玉類(勾玉・扁平玉)・石製模造品(管玉6・菓玉1)・武器(鉄剣)		中期		87 88
西谷山2号墳2号石棺	福井市西谷町字三味谷	円	23.5	石棺直葬 (角形石棺)	鏡2・武器(衝角付冑・短甲)・武器(鉄刀・鉄剣・鹿角刀装身・槍・鉾・鉄鏃)・生産用具(刀子・鏃・鉄斧2・砥石)・玉類(勾玉3・管玉8・ガラス小玉48)・その他(釘3)		中期		87
三尾野2号墳第1主体 部	福井市三尾野町	方	13.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・武器(鉄剣)・生産用具(刀子)・土器(小型壺・高坏)		中期		89
長泉寺山9号墳	福井県鯖江市西鱒江字西山	円	17.0	木棺直葬	鏡・石製腕飾類(石釧)・玉類(勾玉・管玉ほか)		前期		90
小谷ヶ洞2号墳	福井県敦賀市大字吉川	円	25.0	木棺直葬 (割竹形木棺)	鏡・玉類(管玉)・生産用具(刀子)		前期		87
関門市平賀所在古墳	岐阜県関門市平賀	円	15.0	横穴式石室	鏡・玉類(勾玉3・管玉4・切子玉)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具(馬具片)・須恵器・土師器		後期		91
天神ヶ森古墳	岐阜県可児郡御嵩町中佐渡	円		不明	鏡2・装身具(金環)・玉類(瑪瑙勾玉10・管玉5・ガラス玉6)		後期		92
根本山II-2号墳	静岡県浜松市	古墳		横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・武器(鉄刀・鉄剣・鉄鏃)・馬具(辻金具・飾金具・轡・鉸具)・須恵器(坏蓋2・坏身3)		後期		93
神明社上1号墳2号墳	静岡県浜北市内野台	円	27.0	木棺直葬? (組合式木棺)	鏡・装身具(玉類)・生産用具(鉄斧)		中期		94
於呂	静岡県浜北市於呂	不明		不明	鏡・玉類		不明		95
(伝)鎌田	静岡県磐田市鎌田	不明		不明	鏡		不明		96

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
愛野向山B12号墳第2 主体部	静岡県袋井市愛野大字向山	円	12.0	木棺直葬 (箱形木棺)	鏡・武器(鉄刀2・鉄鏃13+)・馬具(轡・辻金具・釧・杏葉)・生産 用具(刀子)		中期		97
石ノ形古墳西主体部	静岡県袋井市国本字石ノ形	円	27.0	木棺直葬	[棺内] 鏡・武器(横列板鉾留短甲)・武器(鉄刀・鉄剣・蛇行剣・鉄 鏃84+)・馬具(f 字形鏡板付轡・金銅張辻金具3・鉄製楕円形鏡板 付轡・鉄製辻金具2)；[棺外] 武器(鉄刀3・鉄鉾)・馬具・生産用 具(刀子3・鉋3)・玉類(滑石製平玉・ガラス小玉)・須恵器(甕)・ 不明鉄製品(鍬子?)	須恵器(甕・甕) ・埴輪(円筒)	中期	本書	
文殊堂古墳群 (文殊堂山北山林古墳)	静岡県周智郡森町大字園田 字円田	円	10.0	不明	鏡・玉類(勾玉)・武器(鉄刀)		後期		98 174
堀ノ内13号墳	静岡県掛川市下俣～長屋	円 (楕円)	25.0	横穴式木室 (両袖型)	鏡・玉類(ガラス勾玉2・銅製空玉10・琥珀玉9・ガラス玉184)・武 器(短刀・鉄鏃50)・馬具(鞍金具・辻金具・雲珠・杏葉・釧金具)・ 須恵器(高坏2・甕・蓋坏短頸壺・脚付甕・脚付長頸壺・壺)・土師 器	[墳頂] 須恵器 (高坏・有蓋高坏 30・壺・甕)・土 師器(高坏・壺)	後期	99	
中里 K78号墳 (アガリット古墳)	静岡県富士市中里大塚道東 2162	円		横穴式石室？	(伝)鏡・武器(鉄刀3)・馬具(轡・鉸具)・須恵器(埴・甕)		後期		100
陣ヶ沢古墳	静岡県富士市船津	古墳		不明	鏡		不明		98
清水柳北2号墳	静岡県沼津市足高大字尾上	円	10.0	横穴式石室 (箱形石棺)	鏡・玉類(切子玉・算盤玉・管玉・丸玉・ガラス小玉)・武器(鉄鏃・ 鉄刀・短刀)・生産用具(刀子)・須恵器(有蓋短頸壺・坏蓋・甕)・土 師器(埴・坏・甕)		終末期		
白鳥古墳	愛知県名古屋市中区白鳥 町1-2-17	前方 後円		竪穴式石室？	鏡・装身具(双魚形腰佩)・玉類(勾玉・切子玉)・馬具(轡・杏葉・雲 珠)・武器(鉄刀4・鉄鉾)・須恵器		後期		101
松ヶ洞8号墳第1号棺	愛知県名古屋市中区吉根 松ヶ洞3254	方	8.4	粘土槨 (割竹形木棺)	鏡・玉類(勾玉・丸玉91・小玉17+)		中期		102
上条遺跡	愛知県春日井市上条	不明		不明	鏡・石製腕飾類(石剣)		前期？		103
白鳥塚古墳	愛知県丹羽郡大口町大字豊 田字白鳥82	円	19.0	不明	鏡・武器(鉄刀・槍・鉄鏃7)・須恵器(高坏6・坏蓋2・坏身)		後期		104
宇頭王塚古墳	愛知県岡崎市宇頭北町1丁 目	前方 後円	70.0	不明	鏡・武器(鉄刀)・土製模造品(勾玉)		中期		105
豊田大塚古墳	愛知県豊田市市河町1-10	円	38.0	横穴式石室	鏡・装身具(天冠・帯金具・耳環5)・玉類(勾玉3・管玉24・墓玉10・ 丸玉164・小玉107)・武器(鉄刀6・鉄鏃・胡録)・馬具(轡・鉸具・ 雲珠・鞍金具)・生産用具(土製紡錘車)・須恵器・土師器	埴輪	後期		106
寺西1号墳	愛知県豊橋市石巻小野田町 寺西	円	25.0	横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・武器(鉄刀12・鉄剣・石突・鉄鏃)・馬具(轡)・ 生産用具(刀子)・須恵器(台付壺・広口壺・短頸壺・甕・高坏・提瓶)・ 土師器	[前庭部]土師器	後期		107
大塚山古墳	三重県松阪市佐久米町字大 見	前方 後円		不明	鏡3・玉類(硬玉勾玉・滑石勾玉)・武器(短甲・鉄地金銅装小札釦留 眉庇付冑)・武器(鉄刀3・槍・鉄鏃)		中期		108
かまくら1号墳	三重県多気郡明和町大字上 村字かまくら	円	27.0	不明	鏡・玉類(管玉9・切子玉)		不明		108

石ノ形古墳

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
南山古墳	三重県伊勢市鹿海町字南山	円	18.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・装身具(銀鑲2)・玉類(瑪瑙勾玉・碧玉管玉2・埋木裏玉・銀丸玉・ガラス小玉109)・武器(鉄刀)・須恵器(蓋環・高坏・短頸壺)		後期		109
(伝)鳥羽市答志町	三重県鳥羽市答志町	不明		不明	鏡		不明		108
泊古墳	三重県志摩郡大王町大字畔名字泊山	前方 後円	32.4	横穴式石室	鏡・玉類(瑪瑙丸玉)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具(古葉)・須恵器		後期		108
キヲ土古墳	三重県上野市外山	前方 後円	50.0	不明	鏡・馬具(轡・杏葉)		中期		110
久米山6号墳	三重県上野市久米町	古墳		不明	鏡2		不明		108
ハブセ古墳	三重県上野市大字寺田字宮の西	円		横穴式石室	鏡		後期		108
鳴塚古墳	三重県阿山郡大山田村大字鳳凰寺	前方 後円	37.0	横穴式石室 (箱形石棺)	鏡・玉類(勾玉3・管玉5・丸玉7・小玉)・須恵器		後期		1 111
垣竈古墳	滋賀県長浜市垣竈町	前方 後円	50.0	縦穴式石室	鏡・玉類(勾玉・管玉10・粟玉70)・武器(鉄刀・鉄剣・鉄鏃)・その他(花形金具・鉄棒10)		中期		73
安養寺	滋賀県栗太郡栗東町川辺	不明		不明	鏡		不明		
(伝)野洲郡野洲町	滋賀県野洲郡野洲町	不明		不明	鏡		不明		2
山津照神社古墳	滋賀県坂田郡近江町能登瀬	前方 後円	43.0	横穴式石室	鏡3・装身具(金銅冠)・玉類(三輪玉)・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(鹿角装刀子)・須恵器(甕・提瓶・器台・坏身・坏蓋・台付壺)		後期		112
涌出山古墳	滋賀県伊香郡高月町大字唐川	円	12.4	縦穴式石室 (割竹形木棺)	鏡・玉類(勾玉・管玉・ガラス玉)・武器(鉄刀)・生産用具(刀子)		中期		113
桃谷1号墳	京都府中郡峰山町大字新治字桃谷	円		横穴式石室	鏡・装身具(金鑲・耳当)・玉類・裝飾付大刀(圭頭大刀)・武器(鉄鏃)・馬具(轡・辻金具・鞍金具)・生産用具(刀子)・須恵器・土師器多数		後期		114
千原1号墳	京都府与謝郡岩滝町大字岩滝字千原	円		不明	[表面採集] 鏡	須恵器(横瓶)	後期		115
奉安塚古墳	京都府福知山市	円		横穴式石室 (無袖型)	鏡・武器(素鎧頭大刀2・鉄鏃20)・馬具・生産用具(刀子・砥石)・須恵器・その他(鉄釘・軽石)		後期		18
狸谷17号墳	京都府福知山市大字半田字狸谷	方	13.5	木棺直葬 (割竹形木棺)	鏡・土師器(壺・高坏・甕)		前期		18
大島古墳	京都府綾部市栗町大島	円?	0.0	不明	鏡2		不明		18
宮ノ口古墳	京都府船井郡園部町大字上木崎字宮ノ口	円	7.0	不明	鏡		不明		18
保津山古墳(案察使2号墳)	京都府亀岡市保津町大字案察使字火無	円	11.0	石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・玉類(勾玉・管玉)・武器(鉄剣・鉄鏃)・生産用具(鉄斧・鎌・鈍)		中期		18
上大谷13号墳	京都府城陽市久世字上大谷	円 or 方		粘土槨 (組合式木棺)	鏡・生産用具(刀子)・土師器・その他(鉄釘)		前期		18
青塚古墳	京都府城陽市平川字室ノ木	方	49.0	粘土槨 (組合式木棺)	鏡・玉類(勾玉・管玉・裏玉・ガラス小玉)・武器(短甲)・武器(鉄刀・鉄鏃)・生産用具(刀子・鈍)		中期		18

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
青松塚古墳	大阪府茨木市	円	20.0	横穴式石室	鏡2・装身具(銀釧2)・玉類(切子玉7・平玉・小玉7・銀空玉2)・武器(鉄刀2・鉄鉾・鉄鏃62)・馬具(轡2・轡1対・雲珠・辻金具6・沓・馬鐙)・須恵器74・土師器7		後期		116
土保山古墳	大阪府高槻市	円		縦穴式石室 (割竹形木棺)	鏡・装身具(櫛)・玉類(ガラス小玉)・武器(衝角付冑・短甲・盾)・武器(弓・鉄鉾・鉄刀・鞍)・生産用具(鋌・刀子)		中期		117
陶器千塚古墳群	大阪府堺市辻之	不明		不明	鏡		不明		118
高木古墳群(西)	兵庫県三木市別所町大字高木字大山	円		縦穴式石室	鏡・装身具(勾玉2)		不明		120
阿形薮塚古墳	兵庫県小野市阿形町	円		縦穴式石室	鏡・玉類(勾玉2・管玉26・ガラス小玉525)・武器(鉄刀)・須恵器(坏蓋2・小埴)		中期		120
安黒古墳	兵庫県宍粟郡一宮町大字安黒	円		縦穴式石室	鏡		不明		120
西野山5号墳	兵庫県赤穂市上郡町大字西野山	円		不明	鏡・武器(鉄剣)		不明		120
宮田山1号墳	兵庫県多紀郡西紀町宮田	古墳		不明	鏡		不明		
エノ田1号墳	兵庫県豊岡市香住	古墳		不明	鏡		不明		
北浦18号墳	兵庫県豊岡市森尾字北浦	円	20.0	木棺直葬	鏡・生産用具(刀子)・その他(土器転用枕)		前期		121
北浦28-3号墳	兵庫県豊岡市森尾字北浦	古墳		木棺直葬	鏡・玉類(瑪瑙勾玉・ガラス小玉48)		後期		122
ヘタバナ遺跡	兵庫県城崎郡香住町下岡			鏡			不明		
シゲリ谷古墳群	兵庫県城崎郡日高町赤崎	円		横穴式石室	鏡		後期		123
(伝)奈良市山村	奈良県奈良市山村	不明		不明	鏡		後期		124
(伝)生駒郡	奈良県生駒郡	不明		不明	鏡		不明		
千塚山古墳	奈良県天理市柳本町山田	古墳		不明	鏡		不明		
(伝)桜井市阿部	奈良県桜井市阿部	不明		不明	鏡		不明		73
新沢千塚115号墳	奈良県橿原市川西町	円	18.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡2・玉類・武器(三角板鋌留短甲・衝角付冑・肩甲・頸甲)・武器(鉄刀3・剣・鉄鏃48)・生産用具(刀子)	埴輪列(円筒)・埴輪(器財)	中期中 ～後半		125
的場池3号墳東主体部	奈良県北葛城郡当麻町竹内 字的場	円	9.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・生産用具(鎌)		後期		126
寺口和田4号墳北棺	奈良県北葛城郡新庄町寺口 和田	円	16.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・玉類(ガラス玉)・武器(鉄刀)・生産用具(刀子・鋌先・鉄斧・鎌・純)		中期		127
犬飼大師塚古墳	奈良県五条市犬飼町転法輪 寺内	円	12.0	木棺直葬? (割竹形木棺)	鏡・装身具(銅釧)・玉類・武器(鉄鏃・鉄刀・短刀)・馬具(辻金具)・須恵器・土師器・その他(鉄釘)		後期		128
大王山1号墳北棺	奈良県宇陀郡榛原町下井足 後円	前方 後円	26.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・装身具(銀指輪4)・玉類(ガラス小玉223・管玉15・琥珀玉22・滑石白玉12)・武器(鉄刀2)・生産用具(石製紡錘車)・須恵器(坏・甕)		中期		129
フトンダ4号墳第1号 木棺	奈良県宇陀郡榛原町上井足 高田垣内	円	16.0	木棺直葬	鏡・玉類(水晶切子玉・埋木簪玉)・武器(鉄鏃)・須恵器		後期		127
高山1号墳	奈良県宇陀郡榛原町池上	方	23.0	木棺直葬 (割竹形木棺)	鏡・玉類(勾玉2・管玉16・滑石小玉・ガラス玉120)・武器(三角板 革綴短甲2)・武器(鉄刀3・鉄剣4・鉄鏃60・胡鏡)・生産用具(刀子 4・鉄斧4・鎌5・鋌・鑿)・鉄製品(鉄鋌)		中期		127 130

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
(伝)坂田1号墳 (下荒神古墳)	鳥取県八頭郡船岡町大字坂 田字奥土井	方	29.0	不明	鏡・武器(鉄刀?)・土器		不明		131
清水谷1号墳	鳥取県倉吉市大字津原字清 水谷	円		不明	鏡・玉類(瑪瑙勾玉・管玉)・武器(鉄刀2)・生産用具(鉄斧・鎌)		不明		2
(伝)国信神社境内	鳥取県東伯郡東郷町	不明		不明	鏡		不明		2
(伝)淀江町字田川～ 百塚付近	鳥取県西伯郡淀江町	不明		不明	鏡		不明		132
客山古墳	鳥根県松江市新庄町1522	方	12.0	木棺直葬	鏡・装身具(櫛4)・玉類(管玉9・ガラス小玉6)・生産用具(刀子2)・ 土師器(壺)		中期		133
薬師山古墳	鳥根県松江市西川津町前管 974	古墳		石棺直葬? (箱形石棺)	鏡・武器(鉄刀・鉄鏃)・石製模造品(有孔円板)・須恵器(甕2・有蓋 高坏・高坏・坏蓋3・坏身6・小形壺・大形壺2)・土師器(高坏4・ 小形壺)		中期		134
めんぐろ古墳	鳥根県浜田市治和町	円?		横穴式石室	鏡・装身具(鈴釧)・玉類(水晶切子玉・金銅装三輪玉)・裝飾付大刀 (銀装大刀)・武器(槍・石突)・馬具(轡・馬鐙・環鈴・雲珠・杏葉・ 鉸具)・須恵器	埴輪(円筒)	後期		135
鶴ノ鼻50号墳	鳥根県益田市市遠田町4158	方	15.0	横穴式石室	鏡・装身具(金釧2)・武器(鉄刀・鉄鏃)・須恵器(蓋坏ほか)		終末期		
苗田代東方丘陵南古墳	鳥根県隠岐郡五箇村大字小 路	円	13.0	石棺直葬 (箱形石棺)	鏡		中期?		136
本庄	岡山県浅口郡鴨方町大字本 庄	不明		不明	鏡		不明		137
田邑丸山1号墳	岡山県津山市大字下田邑字 平尾	円	37.0	堅穴式石室	鏡・武器(鉄剣)・生産用具(板状鉄斧・袋状鉄斧)・銅製品(車輪石形 銅製品)		中期		
諏訪神社2号墳	岡山県久米郡中央町大字原 田	円	10.0	木棺直葬 (組台式木棺)	鏡・須恵器		不明		
須賀谷1号墳	広島県東区大字温品字須賀 谷	円	14.0	石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・装身具(銅釧)・玉類(煙玉勾玉・碧玉勾玉・管玉15・瑪瑙算盤玉 2・ガラス小玉96)・武器(鉄刀・鉄剣)		中期		138
玉比売塚古墳 (永松古墳)	広島県尾道市西藤町大字馬 場向	古墳		箱形石棺?	鏡・玉類(瑪瑙勾玉2・管玉7)		中期		139
太郎丸古墳	広島県三次市四拾貫町	円	26.6	堅穴式石室	鏡・玉類(ガラス小玉)・武器(鉄刀・鉄剣2・鉄鏃38)・生産用具(刀 子・鈍2)・その他(不明鉄器)		前期		140
八幡山1号墳	広島県双三郡吉舎町大字敷 地	帆立 貝形	45.0	堅穴式石室?	鏡・武器(甲冑)・武器(鉄刀・鉄剣)		中期		141
三玉大塚古墳	広島県双三郡吉舎町大字三 玉字大塚	帆立 貝形	41.0	堅穴式石室	鏡・玉類(水晶勾玉・ガラス勾玉3・滑石勾玉・管玉・ガラス小玉117・ 滑石白玉357)・武器(短甲)・武器(鉄刀2・鉄鏃4・石突)・馬具 (鞍金具・轡)・生産用具(鉄製刺突用具・刀子・鈍)・石製模造品(滑 石有孔円板2・砥石3)		中期		142
新庄町所在の古墳	広島県庄原市新庄町	古墳		不明	鏡		不明		
上越古墳石棺 (上越2号石棺)	山口県下関市大字永田郷字 上越	古墳		石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・玉類(勾玉・小玉25)・土器		不明		143

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
西矢野古墳	徳島市国府町西矢野	古墳		不明	鏡・装身具(金鏤・銀鏤2)・玉類(勾玉・管玉8・切子玉2)・武器(鉄剣6・鉄鏃4・鉄刀)・須恵器(壺2・提瓶・高坏2・坏蓋・坏身)		後期		144
通照院裏山古墳	香川県坂出市高屋町	古墳		不明	鏡		不明		145
大日裏山4号墳	愛媛県周桑郡小松町南川	円		不明	鏡		不明		
(伝)鷹取山西方尾根	愛媛県今治市新谷	不明		不明	鏡		不明		146
弁天山(岩子山)	愛媛県松山市垣生町・別府町	不明		不明	鏡2		不明		147
湯山横谷	愛媛県松山市湯山町	不明		不明	鏡		不明		
西山古墳	愛媛県松山市星ノ岡町	古墳		石室?	鏡・装身具(金鏤・銀鏤・鈴釧・銅釧)・玉類(管玉・小玉)・裝飾付大刀(三累鏃頭大刀)・石製模造品(紡錘車)・須恵器		後期		148
(伝)沖ノ島4号遺跡	福岡県宗像郡大島村大字沖ノ島	祭祀		洞穴	鏡6・装身具(帯金具・釵具)・玉類(ガラス小玉9・滑石白玉114・三輪玉)・武器(鉄剣・鉄刀・鉄鏃8)・馬具(歩留付雲珠・辻金具)・生産用具(鉄斧2・刀子4)・その他(鉄製有孔方形板4・銅製花形鋌留金具7・銅釘3・鉄製鑿状品・櫛形鉄斧・櫛形刀子・金銅製透彫金具・銅鈴2・金銅鐸)		後期		149
(伝)沖ノ島	福岡県宗像郡大島村大字沖ノ島	祭祀		洞穴	鏡		不明		
金毘羅山古墳(宝満神社境内古墳)	福岡県朝倉郡杷木町大字志波	古墳		石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・装身具(貝輪)・武器(短甲)・武器(鉄刀・鉄剣・鉄鏃)・生産用具(鉄斧)		中期		150
釘崎3号墳	福岡県八女市	前方 後円	35.0	横穴式石室	鏡・裝飾付大刀(単龍紋鏃頭大刀)・武器(鉄刀2・鉄鏃56)・馬具(轡3・轡籠・辻金具6・雲珠・釵具2)・生産用具(施・刀子3・砥石)・須恵器(脚付有蓋壺・無蓋高坏・提瓶)・土師器(坏・壺)		後期		151
八女市豊福所在の古墳	福岡県八女市大字豊福	円		横穴式石室?	鏡・裝飾付大刀(鏃頭大刀)・武器(鉄刀)・馬具(轡)・須恵器		後期?		
こうもり塚古墳	福岡県浮羽郡浮羽町朝日字阿弥陀峯	古墳		不明	鏡・生産用具(鉄斧)		後期		
(伝)筑前国	福岡県	不明		不明	鏡		不明		152
竹並A23号横穴	福岡県行橋市大字泉町	横穴		横穴	鏡・玉類(管玉13・ガラス丸玉69・琥珀丸玉・ガラス小玉33)・武器(鉄剣・鉄鏃8)・生産用具(刀子2)・須恵器(甗)	[墓道]土師器 (甗)	中期～ 後期		153
惣社古墳	福岡県京都郡豊津町惣社字杜松	円	28.0	箱形石棺	鏡2・武器(鉄剣4・鉄刀)・生産用具(磨手刀子5・針2)・その他(用途不明金具)		中期		175
花納丸古墳	佐賀市久保泉町大字川久保	古墳		横穴式石室	鏡・装身具(碧玉管玉12)・武器(鉄刀)・馬具(三環鈴)・その他(鉄地金銅張製品)		不明		154
森の上古墳	佐賀県佐賀郡大和町大字久池井字野口	古墳		石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・装身具(鑿櫛10)・武器(鉄剣)・生産用具(鋤先・刀子・施2・櫛)・石製品(琴柱形石製品)		中期		155
丹坂峠古墳	佐賀県小城郡小城町大字栗原字ヒメノ	円	21.0	横穴式石室	鏡・武器(鉄鏃5)・生産用具(針)		後期		154
浜玉玉島古墳	佐賀県東松浦郡浜玉町大字南山字玉島	古墳		横穴式石室	鏡・装身具(金製垂飾付耳飾・金鏤・銀鏤)・玉類(ガラス勾玉・瑪瑙勾玉・水晶勾玉・碧玉管玉38・ガラス小玉279・水晶小玉4・水晶管玉5)・ガラス管玉10・銀空玉4		後期		156

石ノ形古墳

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
杉殿古墳	佐賀県唐津市大字半田字金竹	古墳		竪穴式石室	鏡・武器(短甲)・武器(鉄刀)		中期		154 157
金尾谷古墳(金屋古墳・山本駅前古墳)	佐賀県唐津市大字山本字金尾谷	円		横穴式石室	鏡2・装身具(銅鑲)・玉類(碧玉管玉・ガラス小玉)・武器(鉄刀)		中期		154 157
野田古墳(大野古墳)	佐賀県東松浦郡玄海町大字今村字野田	円		横穴式石室	鏡・生産用具(刀子)		後期		154 158
武雄玉島古墳	佐賀県武雄市大字大日字玉島	円	45.0	横穴式石室	鏡・装身具(鉄剣)・玉類(碧玉管玉2・ガラス小玉8)・武器(短甲片)・生産用具(刀子83・純8)・石製模造品(斧形石製品)・その他(不明鉄器)		中期		154 159
鞍掛塚古墳	熊本県阿蘇郡一の宮町中通字上鞍掛	円		石棺直葬 (箱形石棺)	鏡4・装身具(銀鑲)・玉類(勾玉・管玉・小玉)・武器(鉄剣)		不明		160
(伝)中通古墳群	熊本県阿蘇郡一の宮町中通	円		石棺直葬 (箱形石棺)	鏡		不明		161
妻の鼻3号墳	熊本県本渡市亀場町字亀川字下湯	古墳		板石横石室墓	鏡・玉類(勾玉・小玉・管玉)・武器(鉄剣)		中期		162
日隈2号墳 (神殿南古墳)	大分県日田市大字庄手字中ノ島	古墳		不明	鏡・装身具(鈴釧)・馬具(鉄地金銅張馬具片)		不明		163
姥塚	宮崎県延岡市吉野町大字天下字上ノ原	円	20.0	石棺直葬 (箱形石棺)	武器(鉄刀・鉄剣)	[墳丘]鏡	不明		164
持田13号墳	宮崎県児湯郡高鍋町持田字西ヶ原	円		木棺直葬?	(伝)鏡2・玉類(玻璃勾玉・水晶切子玉・ガラス小玉)		不明		165
西都原265号墳(船塚古墳)	宮崎県西都市大字童子丸字新立	前方 後円	60.0	不明	鏡・玉類(管玉19)・武器(鉄刀3・鉄斧・鉄鏃100+)		後期		1 2
(伝)新田原45号墳	宮崎県児湯郡新富町大字新田字山ノ坊	古墳		不明	鏡・武器(石突2・鉄鏃11)・馬具(金銅張鞍具・雲珠2)・須恵器(坏身)・土師器(坏)		後期		166
トメ塚	宮崎県大字芳土字岩ヶ迫	古墳		不明	鏡		不明		167
六野原10号墳	宮崎県東諸県郡国富町大字八代北俣字六野原	円	20.0	玄室	鏡・武器(鉄刀・鉄剣・鉄鏃7)		中期		168
宗仙寺地下式横穴	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄字宗仙寺	地下 式横 穴		地下式横穴	鏡		不明		167
市の瀬5号地下式横穴	宮崎県東諸県郡国富町大字梁年字市の瀬	地下 式横 穴		地下式横穴	鏡2・装身具(イモガイ貝輪3)・武器(鉄刀・鹿角装鉄剣・鉄鏃23・飾り弓鉈?)・生産用具(刀子3・鉄斧・鋤先)		中期		169
宗仙寺10号(本庄小学校内2号)地下式横穴	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄字宗仙寺	地下 式横 穴		地下式横穴	鏡・玉類(管玉15・ガラス小玉9)・武器(鉄刀)・生産用具(U字形鋤先)		後期		170
不明	宮崎県	不明		不明	鏡		不明	伝世品	54
京都国立博物館蔵	不明	不明		不明			不明		2
五島美術館蔵	不明	不明		不明			不明		2
五島美術館蔵	不明	不明		不明			不明		2

【文献一覧】

- | | | | | |
|----|-----------------|------|--|--------------------|
| 1 | 後藤守一 | 1977 | 『古鏡聚英』上篇 | 東京堂出版 |
| 2 | 樋口隆康 | 1979 | 『古鏡』『古鏡図録』 | 新潮社 |
| 3 | 岡崎敬ほか編 | 1978 | 「日本における古鏡発見地名表 関東地方」 | |
| 4 | 梅原末治 | 1962 | 「日本出土の中国古鏡(1)」『考古學雑誌』第47巻第4号 | 考古學會 |
| 5 | 菅谷浩之 | 1984 | 「武蔵那珂郡秋山村(児玉町秋山)出土の画像鏡拓本について」『児玉町史資料調査報告』古代第1集 | 児玉町教育委員会・児玉町史編纂委員会 |
| 6 | 鈴木伸秋・山田和夫ほか | 1980 | 『房総の古鏡』房総風土記の丘展示図録 8 | 房総風土記の丘友の会 |
| 7 | 杉山晋作・大久保奈奈ほか | 1987 | 「佐原市禅昌寺山古墳の遺物」『古代』第83号 | 早稲田大学考古学会 |
| 8 | 小出義治 | 1985 | 「亀塚古墳」『狛江市史』 | 狛江市史編さん委員会 |
| 9 | 西藤優 | 1988 | 『若狭上中町の古墳』 | 上中町教育委員会 |
| 10 | 宮内庁書陵部 | 1976 | 『古鏡目録』 | 宮内庁書陵部 |
| 11 | 岐阜市 | 1979 | 『岐阜市史』史料編 考古・文化財 | 岐阜市 |
| 12 | 森本六爾 | 1925 | 「美濃に於ける仙人弾琴鏡出土の一古墳」『考古學雑誌』第15巻第11号 | 考古學會 |
| 13 | 中野政樹 | 1972 | 「奈良時代における出土・伝世鏡の基礎資料および同範鏡の分布とその鑄造技術」『東京国立博物館紀要』第8号 | 東京国立博物館 |
| 14 | 原秀三郎編 | 1995 | 『遠江堂山古墳』 | 磐田市教育委員会 |
| 15 | 鈴木博司・西田弘ほか | 1961 | 「新開古墳」『滋賀県史蹟調査報告』第12冊 | 滋賀県教育委員会 |
| 16 | 梅原末治 | 1921 | 「栗太・野洲両郡に於ける二三の古式墳墓の調査報告(近江国に於ける主要古墳の調査録其二)」『考古學雑誌』第12巻第3号 | 考古學會 |
| 17 | 堤圭三郎 | 1970 | 「法王寺・岩滝丸山両古墳発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』1970 | 京都府教育委員会 |
| 18 | 山城郷土資料館・丹後郷土博物館 | 1987 | 『鏡と古墳—景初四年鏡と芝ヶ原古墳』 | 山城郷土資料館・丹後郷土資料館 |
| 19 | 梅原末治 | 1920 | 「飯ノ岡ノ古墳」『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊 | 京都府 |
| 20 | 泉北考古資料館 | 1987 | 『冬季特別展大阪府の古鏡展』泉北考古資料館だより31号 | 泉北考古資料館 |
| 21 | 和泉市久保惣記念美術館 | 1985 | 『和泉市久保惣記念美術館蔵鏡図録』 | 和泉市久保惣記念美術館 |
| 22 | 柏原市教育委員会 | 1996 | 『高井田山古墳』柏原市文化財概報1995-II | 柏原市教育委員会 |
| 23 | 田中琢 | 1977 | 『鐸・剣・鏡』日本原始美術大系 4 | 講談社 |
| 24 | 梅原末治 | 1925 | 「川辺郡塚口池田山古墳」『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2輯 | 兵庫県 |
| 25 | 梅原末治 | 1925 | 「飾磨郡御国野村小山古墳」『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2輯 | 兵庫県 |
| 26 | 小島俊次 | 1959 | 「奈良市佐紀町猫塚古墳」『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報』第12輯 | 奈良県教育委員会 |
| 27 | 橿原考古学研究所編 | 1966 | 『大和天神山古墳』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第22冊 | 奈良県教育委員会 |
| 28 | 梅原末治 | 1973 | 『佐味田及新山古墳研究』 | 名著出版 |
| 29 | 泉森皎 | 1982 | 「広陵町新山古墳群」『奈良県遺跡調査概報1980年度』 | 橿原考古学研究所 |
| 30 | 網干善教 | 1974 | 「宇陀郡榛原町上井足米山の古墳及び出土遺物について」『谷畑古墳』 | 榛原町教育委員会 |
| 31 | 奈良県教育委員会 | 1952 | 「伝都介野古墳出土遺物」『奈良県総合文化調査報告・都介野地区』 | 奈良県教育委員会 |
| 32 | 岡崎敬ほか | 1978 | 「日本における古鏡発見地名表 近畿地方Ⅲ」 | 岡崎敬 |
| 33 | 金谷克己 | 1955 | 『紀伊の古墳』考古学叢書 1 | 綜芸舎 |
| 34 | 山陽町教育委員会 | 1989 | 『正崎 2・4号墳』 | 山陽町教育委員会 |
| 35 | 山陽町教育委員会 | 1975 | 『用木古墳群』 | 山陽町教育委員会 |
| 35 | 島田貞彦 | 1926 | 「周防国富田町竹島御家老屋敷古墳発見遺物」『考古學雑誌』第16巻第1号 | 考古學會 |
| 36 | 梅原末治 | 1923 | 「備前国西高月村の古墳」『歴史と地理』第13巻第4号 | 史學地理學同友會 |
| 37 | 岡山県 | 1986 | 『岡山県史』考古資料 | 岡山県 |
| 38 | 弘津史文 | 1928 | 『防長漢式鏡の研究』 | 山高郷土史研究会 |
| 39 | 西田守夫 | 1980 | 「竹島御家老屋敷古墳出土の□始元年三角縁階段式神獸鏡と三面の鏡」『MUSEUM』357号 | 東京国立博物館 |
| 40 | 正岡睦夫 | 1985 | 「相の谷古墳群調査概報」『遺跡』28号 | 遺跡発行会 |
| 41 | 岡崎敬ほか | 1979 | 「日本における古鏡発見地名表 九州地方Ⅱ」 | |
| 42 | 前原町教育委員会 | 1986 | 『古賀崎古墳』 | 前原町教育委員会 |
| 43 | 鏡山猛・乙益重隆ほか | 1961 | 『続沖ノ島』 | 宗像神社復興期成会 |
| 44 | 大牟田市教育委員会 | 1975 | 『潜塚古墳』 | 大牟田市教育委員会 |
| 45 | 九州大学文学部考古学研究室編 | 1993 | 『番塚古墳』苅田町文化財調査報告第20集 | 苅田町教育委員会 |
| 46 | 弘津史文 | 1928 | 「豊前国発見王氏作画像鏡」『考古學雑誌』第18巻第10号 | 考古學會 |
| 47 | 江田船山古墳編集委員会編 | 1980 | 『江田船山古墳』 | 江田船山古墳編集委員会 |

石ノ形古墳

48	白木原和美	1983	「神人車馬画像鏡(江田船山古墳Ⅳ)」『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英	肥後考古学会
49	入江英親	1953	「鑑堂古墳出土の劉氏作画像鏡」『大分県文化財調査報告』第1集	大分県教育委員会
50	高橋護	1992	「石井入り口遺跡 (E)青銅器」『菅生大地と周辺の遺跡』XV	竹田市教育委員会
51	岡崎敬ほか	1979	「日本における古鏡発見地名表 九州地方Ⅰ」	
52	延岡市	1963	『延岡市史』	延岡市
53	高城町	1989	『高城町史』	高城町
54	石川恒太郎	1968	『宮崎県の考古学』	吉川弘文館
55	山崎五十麿	1923	「鹿児島県の古鏡分布に就て」『考古學雑誌』第14巻第3号	考古學會
56	藤沢敦	1988	「裏町古墳出土の銅鏡について」『年報9』	仙台市教育委員会
57	福島県	1964	『福島県史』6 資料編Ⅰ	福島県
58	後藤守一・斉藤忠ほか	1960	『三味塚古墳』	吉川弘文館
59	田代善吉	1939	『栃木県史』12 考古編	田代善吉・下野史談会
60	栃木県史編纂委員会	1979	『栃木県史』資料編 考古2	栃木県
61	真岡市史編纂委員会	1984	『真岡市史』1 考古資料編	真岡市
62	秋元陽光・斎藤弘	1984	「芳賀郡二宮町大和田富士山古墳について」『栃木県考古学会誌』第8集	栃木県考古学会
63	遺蹟遺物研究会	1930	「八幡原古墳と青梨子古墳の出土品」『上毛及上毛人』161号	
64	群馬県立博物館	1980	『群馬の古鏡』	群馬県立博物館
65	後藤守一・相川龍雄	1936	「田野郡平井村白石稻荷山古墳」『群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査報告』第3輯	群馬県
66	群馬県	1981	『群馬県史』資料編3	群馬県
67	東京国立博物館	1983	『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅱ)	便利堂
68	赤堀村教育委員会	1981	『今居南原遺跡発掘調査概報・南原古墳』	赤堀村教育委員会
69	新田町	1990	『新田町誌』通史編	新田町
70	梅沢重昭	1975	「群馬県における初期古墳の成立(1)(2)」『群馬県史研究』2・3号・76	群馬県
71	埼玉県立博物館	1984	『杖刀人とその時代』	埼玉県立博物館
72	今井堯・橋口尚武	1988	「坂戸市入西石塚と出土遺物」『坂戸市史調査資料 坂戸風土記』	坂戸市教育委員会
73	後藤守一	1926	『漢式鏡』	雄山閣
74	東京国立博物館	1986	『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅲ)	便利堂
75	君津郡市文化財センター	1990	『千葉県富津市三条塚古墳一周溝・石室確認調査報告書』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第51集	富津市教育委員会・君津郡市文化財センター
76	神奈川県	1979	『神奈川県史』資料編20 考古資料	神奈川県
77	大磯町教育委員会	1964	『神奈川県大磯町の横穴』	大磯町教育委員会
78	後藤守一	1920	「鏡を伴ひし古墳」『考古學雑誌』第10巻第2号	考古學會
79	森本六爾	1929	『川柳將軍塚の研究』	岡書院
80	長野県編	1988	『長野県史』考古資料編4(遺構・遺物)	長野県史刊行会
81	八木契三郎・林五策	1902	「信濃国発見の古墳物」『東京人類學會報告』第178号	東京人類學會
82	小山真夫	1932	「信濃国小県郡の岩窟古墳」『考古學雑誌』第22巻第2号	考古學會
83	戸根与八郎	1977	「伊予乃郡の古墳 Ⅳ古墳 8鏡」『南魚沼』	新潟県教育委員会
84	新潟県	1983	『新潟県史』資料編1 原始・古代1 考古編	新潟県
85	中川成夫・岡本勇	1961	「新井市天神堂古墳群」『新潟県頸城古墳群の研究』	立教大学博物館学講座
86	吉岡康暢・河村好光編	1997	『加賀能美古墳群』	寺井町教育委員会
87	福井県立博物館	1985	『第3回特別展 遺跡は語る』	福井県立博物館
88	福井県立博物館	1986	『古鏡の美』	福井県立博物館
89	坂靖	1992	「三尾野古墳群」『第7回発掘調査報告会(資料)』	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
90	中山鎮弘	1990	「長泉寺山古墳群7・8・9号墳」『平成元年度発掘調査報告会(資料)』	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
91	岐阜県	1972	『岐阜県史』通史編 原始	岐阜県
92	岐阜県博物館	1989	『濃尾の古墳時代』	岐阜県博物館
93	浜松市博物館編	1988	『根本山古墳群Ⅱ』	浜松市文化協会
94	浜北市史編纂委員会	1989	『浜北市史』通史編 上巻	浜北市史編纂委員会
95	八木契三郎	1901	「共同備忘録(第13回)(156) 遠江国発見の古鏡と玉類」『東京人類學會雑誌』第16巻178号	東京人類學會
96	岡崎敬	1978	「日本における古鏡発見地名表 東海地方」	岡崎敬
97	松井一明	1994	「遠江・駿河における初期群集墳の成立と展開について」『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』	向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会
98	静岡県編	1930	『静岡県史』1(1972年復刻)	名著出版
99	掛川市教育委員会	1992	『掛川市考古の日記念「出土文化財展」図録』	掛川市教育委員会
100	富士市教育委員会文化体育課編	1988	『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』	富士市教育委員会
101	高坂稔積	1982	「法持寺蔵白鳥御陵出土品写生帖模写」『尾張の遺跡と遺物』27号	
102	名古屋市博物館	1984	『守山の遺跡と遺物』	名古屋市博物館

103	小栗鐵次郎	1929	「尾張高蔵寺付近発見の遺跡遺物」『考古學雑誌』第19巻第9号	考古學會
104	大口町	1979	『大口町史』	大口町
105	新編岡崎市史編纂委員会	1989	『新編岡崎市史』	岡崎市
106	豊田市教育委員会	1966	『豊田市大塚古墳発掘調査報告書』	豊田市教育委員会
107	豊橋市	1973	『豊橋市史』1	豊橋市史
108	三重県埋蔵文化財センター	1991	『三重の古鏡』	三重県埋蔵文化財センター
109	伊勢市教育委員会	1982	『南山古墳発掘調査報告』	伊勢市教育委員会
110	ふるさとの歩み編纂委員会	1980	『ふるさとの歩み阿山町』	阿山町教育委員会
111	三重大学歴史研究会原始古代史部会	1969	「阿山町大山田村鳴塚古墳および多気郡明和町坂本第一号墳について」『ふびと』30号	三重大学歴史研究会
112	島田貞彦	1926	「近江国坂田郡能登瀬の古墳」『歴史と地理』第15巻第3号	史学地理学同攷会
113	滋賀県教育委員会	1982	『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ－高月町涌出山古墳－』	滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
114	樋口隆康	1961	「峰山桃谷古墳」『京都府文化財調査報告』第22冊	京都府教育委員会
115	岩滝町教育委員会	1984	『千原古墳の調査』岩滝町文化財調査報告第6冊	岩滝町教育委員会
116	小林行雄	1962	「青松塚古墳の調査」『大阪府の文化財』	大阪府教育委員会
117	陳顕明	1960	『土保山古墳発掘調査概報』郷土高槻叢書14号	高槻市教育委員会
118	森浩一	1955	「大阪府泉北郡陶器千塚2号墳」『日本考古学年報』3号	日本考古学協会
119	堺市役所	1970	『堺市史』続編1	堺市役所
120	鎌八木三次	1973	『播磨出土漢式鏡の研究』	鎌八木三次
121	豊岡市教育委員会	1980	『北浦古墳群－豊岡中核工業団地予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2』	豊岡市教育委員会
122	豊岡市教育委員会	1987	『北浦古墳群・立石墳墓群－豊岡中核工業団地予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2』	豊岡市教育委員会
123	日高町	1980	『日高町史』資料編	日高町
124	奈良市	1968	『奈良市史』考古編	奈良市
125	橿原考古学研究所編	1981	『新沢千塚古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書第39冊	奈良県教育委員会
126	橿原考古学研究所編	1982	『的場池古墳群』	当麻町教育委員会
127	橿原考古学研究所附属博物館	1992	『大和の古墳の鏡』	橿原考古学研究所附属博物館
128	末永雅雄	1956	「宇智郡阪合部村犬飼 犬飼古墳」『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄録』第9輯	奈良県教育委員会
129	橿原考古学研究所編	1977	『奈良県宇陀郡大王山遺跡』	榛原町教育委員会
130	松本博明	1990	「高山古墳群」『奈良県遺跡調査概報1989年度』	橿原考古学研究所
131	野田久男	1977	「鳥取県内出土の古墳時代銅鏡一覧」『気高町誌』	気高町
132	岡崎敬	1977	「日本における古鏡発見地名表」『考古論集－慶祝松崎寿和先生六十三歳記念論文集－』	松崎寿和先生退官記念事業会
133	島根県教育委員会	1981	『松江・客山古墳群』	島根県教育委員会
134	山本清	1955	「島根大学敷地内薬師山古墳遺物について」『島根大学論集(人文科学)』5号	島根大学
135	山本清	1957	「浜田市めんぐろ古墳遺物について」『島根大学論集(人文科学)』7号	島根大学
136	山本清	1955	『隠岐古墳調査報告』	
137	鴨方町	1990	『鴨方町史』本編	鴨方町
138	本村豪章	1960	「広島県安芸郡温品須賀谷古墳調査報告」『芸備地方史研究』34号	芸備地方史研究
139	村上正名	1961	「備後芦田川下流域の古墳群(Ⅱ)」『古代吉備』第4号	古代吉備研究会
140	本村豪章	1961	「備後三次市太郎丸古墳調査報告」『古代吉備』第4号	古代吉備研究会
141	高田明人・山崎やよい	1979	「双三郡吉舎町八幡山古墳測量雑感」『続トレンヂ』3-1	続トレンヂ編集委員会
142	広島県埋蔵文化財調査センター	1983	『三玉大塚－調査と整備－』	広島県埋蔵文化財調査センター
143	下関市役所	1965	『下関市史』原始－中世	下関市役所
144	徳島市教育委員会	1981	『古墳時代の徳島市－埋蔵文化財資料展』	徳島市教育委員会
145	瀬戸内海歴史民俗資料館	1983	『讃岐青銅器図録』	瀬戸内海歴史民俗資料館
146	長尾町	1986	『改訂長尾町史』上巻	長尾町
147	円養寺遺跡発掘調査団	1971	「高松市円養寺遺跡調査概報」『文化財協会報』10	香川県文化財保護協会
148	観音寺市教育委員会	1972	「観音寺市の文化財」『考古資料シリーズ』創刊号	観音寺市教育委員会
149	鏡山猛・原田大六ほか	1958	『沖ノ島』	宗像神社復興期成会
150	鏡山猛・森貞次郎ほか	1951	『北九州古文化図鑑』2	福岡県高等学校教職員組合
151	小田富士雄・真野和夫	1971	「針崎第3号墳」『菅の谷窯跡群 八女古窯跡群調査報告Ⅲ』	八女市教育委員会
152	東光彦・高木恭二ほか	1983	「参考資料解説」『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英	肥後考古学会
153	佐田茂・赤崎敏男ほか	1979	『竹並遺跡』	東出版寧楽社

石ノ形古墳

154	志佐憚彦	1977	「県内出土の古鏡」『佐賀県立博物館調査研究書』第3集	佐賀県立博物館
155	松尾禎作	1949	「森上古墳」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第8輯	佐賀県教育委員会
156	吉村茂三郎	1936	「名勝鏡山と其附近の古墳に就いて」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』5	佐賀県
157	唐津市	1962	『唐津市史』	唐津市
158	玄海町教育委員会	1984	『先部遺跡』	玄海町教育委員会
159	武雄市教育委員会	1973	『玉島古墳』	武雄市教育委員会
160	高木恭二	1983	「乳紋鏡(鞍掛塚古墳Ⅳ)」『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英	肥後考古学会
161	高木恭二	1983	「乳紋鏡(鞍掛塚古墳Ⅱ・Ⅲ)」『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英	肥後考古学会
162	本渡市教育委員会	1982	『妻ノ鼻古墳群』	本渡市教育委員会
163	賀川光夫	1971	『大分県の考古学』 郷土考古学叢書6	吉川弘文館
164	鳥居龍蔵	1935	『上代の日向延岡』	鳥居人類学研究所
165	梅原末治	1969	『持田古墳群』	宮崎県教育委員会
166	宮崎県総合博物館	1982	『宮崎県総合博物館収蔵資料目録』考古・歴史資料	宮崎県総合博物館
167	喜田貞吉	1929	「日向の古墳墓」『日向国史』上巻	史談出版社
168	宮崎県総合博物館	1979	『日向の古墳展』	宮崎県総合博物館
169	国富町教育委員会	1985	『市の瀬地下式横穴墓群』	国富町教育委員会
170	国富町教育委員会	1980	『本庄小学校内地下式横穴発掘調査報告書』	国富町教育委員会
171	神戸市教育委員会	1995	『西求女塚古墳第5次・第7次発掘調査概報』	神戸市教育委員会
172	吉井町教育委員会	1989	『月岡古墳 国指定重要文化財出土図録』	吉井町教育委員会
173	浦和市遺跡調査会	1989	『白鯨宮腰遺跡発掘調査報告書』	浦和市遺跡調査会
174	森町史編さん委員会編	1998	『森町史』資料編1 考古	森町
175	豊津町教育委員会	1976	『幸木遺跡』	豊津町教育委員会
176	橿原考古学研究所編	1998	『黒塚古墳(奈良県天理市柳本町)』奈良県立橿原考古学研究所リーフレット第5号	学生社
177	富川務	1998	「死者を護る鏡―宇都宮市本村2号古墳出土遺物『乳文鏡』」『栃木県埋蔵文化財センター通信 やまかいどう』No. 18	栃木県埋蔵文化財センター

3 鈴釧の集成

凡例 鈴釧の集成は泉森皎氏の「鈴釧」〔文献1〕、金属製釧を集成した小高幸男氏の「古墳出土釧の基礎的研究」〔文献2〕、静岡県の釧出土遺跡を集成した小野真一・川江秀孝両氏の集成〔文献6・7〕を基礎として、加筆・修正を行ったものである。泉森氏の集成は1973年に公表されたものであることから、集成当時の古墳名および地名が変更されている古墳が多数存在し、出土古墳(地)名が確認できていないものがある。したがって、鈴釧の出土が確認できない古墳に関しては集成表には掲載せず、補記に列記した。

また、上記の文献を基礎として、鏡や馬具等の別の集成表において鈴釧が出土したとされる古墳を含めて、今回集成できた数は59例で、実際に図面・図版等で確認できた鈴釧は少ない。したがって、この他に多数の鈴釧が出土していると考えており、今回の集成数がすべてではないと考えている。

なお、参考資料として、鈴釧を装着したと推測されている人物埴輪出土地を掲載した。確認できた人物埴輪は2例と僅少である。

集成の結果 鈴釧の分布範囲は西は大分県日田市(日隈2号墳)から、東は宮城県伊具郡(台町古墳)までに及んでいる。出土数は全国で59例(未確認15例を除く)であり、鈴鏡の140例と比較するとやや出土数が少ない遺物である。地域別にみると、東北6例、関東25例、北陸1例、中部・東海14例、近畿なし、中国5例、四国1例、九州3例と、ほぼ全国的に出土するが、関東において群を抜いて多く出土しており、東海が続く。それ以外の地域では少ない傾向を窺うことができる。確認できなかった15事例を含めてもこの傾向は変わらない。県別では静岡県の10例を筆頭に、神奈川県7例、埼玉県の5例と続く。したがって、鈴鏡や鈴杏葉のような鈴付の青銅製品と同様に東日本に多く、西日本に少ない。近畿圏では、確認できなかった(伝)河内国出土鈴釧を除いて、現在まで確実な事例は出土していない。

つぎに、出土した遺構をみておくと、和泉浜C遺跡祭祀跡および雷電下遺跡の住居址から出土した各1例、出土遺跡が不明な鈴釧8例を除いて、古墳から49例出土している。古墳では、前方後円墳7例(15%)、帆立貝形古墳3例(6%)、円墳20例(42%)、横穴7例(15%)、墳形が不明な古墳12例である。横穴からの出土は関東・東北に限られている。平均規模は、前方後円墳71.7m、帆立貝形古墳35.0m、円墳21.1mを測る。主体部は竪穴式石室2例、粘土槨・木棺直葬等8例、横穴式石室15基、横穴7例である。

鈴釧には釧部が円環状のもの(以下、環状鈴釧)と、卵形で带状のもの(以下、带状鈴釧)に区分することができる。環状鈴釧はさらに円環状のもの(環状鈴釧)と、環が変形したもの(変形環状鈴釧)に区分することができる。出土数は、環状鈴釧39例、変形環状鈴釧2例、带状鈴釧6例、不明2例を数える。

確認できた範囲での、鈴釧の鈴数は、釧が環状鈴釧では四〜六鈴まで存在し、四鈴1例(3%)、

石ノ形古墳

五鈴15例(38%)、六鈴18例(46%)、鈴数不明 5 例である。環状の鈴釧に関しては、六鈴が約 5 割と最も多く出土している。釧が歪んでいる変形環状鈴釧は七鈴 1 例、八鈴 1 例である。一方、釧が帯状の鈴釧では九～十三鈴まで存在し、九鈴 1 例、十鈴 1 例、十一鈴 1 例、十二鈴 2 例、十三鈴 1 例を数える。鈴数と分布には相関関係は認めることはできないが、確実な例では福井の事例を除いては帯状鈴釧は東日本でのみ出土している。

装着に際し重要な鈴釧の内径であるが、極端に小さい雀宮牛塚古墳例の5.5cm以外は5.8～7.3cmまで存在し、ほぼ6.0～7.0cmの範囲に収まる。詳細には、5.8cm 2 例、5.9cm 3 例、6.0cm 8 例、6.4cm・6.5cm・6.6cm 2 例、6.8cm 2 例、7.0cm 2 例であり、他は各 1 例である。平均径は約6.3cmを測る。

鈴釧の分布状況は散在するのみであり、同一古墳群中の複数の古墳から出土していない。

最後に、1 古墳から出土する鈴釧の数であるが、今回確認した範囲ではすべて 1 古墳 1 事例のみであり、2 点以上出土した古墳は皆無である。この点は金属製の釧として一括に括られているが、同一古墳から複数出土する環状銅釧とは明らかに相異なる。

なお、鈴釧の製作技法は合わせ目等を確認できないことから、環状鈴釧・帯状鈴釧ともにすべて鋳造であると推測する。

[補記]

報告書・図録等、近年に集成された別の副葬品の集成表等でも鈴釧の出土が確認できなかった古墳および遺跡を列挙すると、大志田出土(福島県いわき市)、大槻町出土(福島県郡山市)、高松山出土・八幡出土(福島県相馬市)、黒岩出土(福島県福島市)、旧千代村出土(茨城県千代田町?)、双孔山古墳(群馬県藤岡市)、丸山出土(長野県松本市)、坂城町出土(長野県坂城町)、本郷古銭横穴(静岡県掛川市)、イセヤ塚古墳(静岡県清水市)、狐塚古墳(静岡県浜松市)、(伝)南河内郡美陵町出土(大阪府南河内郡)、漆生古墳(福岡県稲築町)、竹並横穴(福岡県行橋市)の15事例である。

Tab. 9 鈴釧を装着した埴輪出土遺跡集成表

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	人物埴輪	装着状況	鈴数	形態	文献
塚廻り 4 号墳	群馬県太田市竜舞字塚廻り3089ほか	帆立貝形	22.5	箱形石棺 2	埴輪(円筒・朝顔・器財・人物)	「跪く男子」像	大刀を佩き、籠手を身につけている。籠手の上に鈴釧を装着している。	4 鈴	帯状	41
長瀬総合博物館蔵	埼玉県	不明	不明	不明	不明	腕 (2 個体)	2 連の手玉の間に装着している。	4 鈴	環状	2

Tab. 10 鈴釧出土遺跡集成表

遺跡名	所在地	遺構名	規模	埋葬主体	内径 (cm)	鈴数	形態	釧	装着	副葬品 (出土遺物)	備考	文献
炭釜 B 8 号横穴	宮城県柴田町	横穴		横穴	6.0	6 鈴	円形	環状		装身具 (釧)		8
大年寺山 4 号横穴	宮城県仙台市	横穴		横穴	7.0	不明	円形	環状	不明	装身具 (耳環 2)・玉類 (管玉)・武器 (鉄刀鐔)・馬具 (轡・飾金具 2)		9
熊野堂 A 28 号横穴	宮城県名取市	横穴		横穴		5 鈴	円形	環状		装身具 (鈴釧)		9
台町 20 号墳	宮城県伊具郡丸森町	前方後円	30.0	堅穴式石室						鏡・装身具 (耳環 2・銅釧 3)・玉類・武器 (鉄刀)・石製品 (滑石製紡錘車)・須惠器 (甗)		33
弾正作 B 047 号横穴	福島県いわき市好間町 今新田字弾正作	横穴		横穴	6.2	6 鈴	円形	環状				10
(伝)横山古墳群	福島県いわき市上平窪 大字横山・富岡	古墳		不明					不明	鏡・装身具 (耳環)・玉類・武器 (鉄刀)・馬具 (轡)・須惠器 (高坏・坏身・提瓶・広口壺)		33
上野古墳	茨城県関城町上野 19	古墳		不明	6.4	12 鈴	卵形	帯状	不明	鏡・玉類 (碧玉管玉 14・ガラス丸玉 6)・武器 (横刃板鋌留短甲・龍手・脛当)・武器 (鉄刀・鉄剣・鉄鉾・鉄鏃・鉄鏃)・馬具 (環鈴・鐙 3・剣菱形杏葉 4・轡)・生産用具 (施)		42 50
林愛宕塚古墳 (林八幡塚古墳)	茨城県結城市大字林字 上林	前方後円	40.0	磯棚 or 磯床	6.0	5 鈴	円形	環状	不明	鏡・装身具 (釧)・武器 (鉄刀 2・鉄剣 2・鉄鏃 24+)		33
(旧)新治郡高濱村 (現)岡市高浜	茨城県石岡市高浜	不明		不明	7.0	破片	円形	環状	不明	玉類 (水晶切子玉 10・水晶素玉 4・埋木素玉 9)・武器 (鉄鏃 8)・生産用具 (刀子)		42
権現山 1 号墳	栃木県	古墳			5.9	6 鈴	円形	環状	不明	武器 (鉄刀・鉄鏃)・生産用具 (刀子)		2
雀宮牛塚古墳	栃木県宇都宮市新富町	帆立貝形	56.7	不明	5.5	5 鈴	円形	環状	不明	鏡 6・装身具 (金環 2)・玉類 (碧玉勾玉 2・碧玉管玉 7・ガラス小玉 5)・武器 (短甲)・武器 (鉄刀・鉄鏃 3+)・馬具 (轡・鈴杏葉 3・三環鈴)・須惠器 (高坏・甗)・土師器 (高坏 2・甗)		42
真岡鶏塚古墳	栃木県真岡市京泉	円	30.0	横穴式石室 (無袖型)		不明			不明	玉類・武器 (鉄刀・鉄鏃)・馬具		2
助戸十二天塚古墳	栃木県足利市助戸 3 丁目	帆立貝形	30.0	不明	8.4	8 鈴	変形	環状	不明	鏡・武器 (刀装具・鉄刀 8)・馬具 (轡・輪鈴・鈴杏葉 2・三環鈴・鈴 5・轡破片)・生産用具 (鑿頭状鉄製品) ?		11
(伝)総社二子山古墳 (伝)総社町植野出土	群馬県前橋市総社	前方後円	89.8	不明	6.6	6 鈴	円形	環状	不明	装身具 (金環・銀環)・須惠器 (長頸壺)		12
九合村 51 号墳 (新地山古墳)	群馬県太田市東矢島字 原 605・4 他	前方後円	110.0	横穴式石室		6 鈴	円形	環状	不明	装身具 (金環)・玉類 (管玉 3)・武器 (短甲?)・裝飾付大刀 (圭頭大刀)・武器 (鉄刀 2・鐙)・馬具 (環珠・杏葉)		34
雷電下遺跡	埼玉県	住居址		—	6.8	不明	円形	環状	不明			14
(伝)岡部町出土	埼玉県大里郡岡部町	不明		不明	7.8	10 鈴	卵形	帯状	不明	馬具 (馬鐙)		15
諏訪林古墳	埼玉県児玉郡美里町大字中里字諏訪林 139 ほか	円	24.3	横穴式石室 (両袖型)	6.4	6 鈴	円形	環状	不明	装身具 (耳環・銅釧)・玉類・武器 (鉄刀・鉄鏃) ; [大正時代出土] 装身具 (耳環)・玉類 (勾玉)・裝飾付大刀 (頭椎大刀)・馬具 (兵庫鐙) ほか		16
諏訪山 1 号墳第 2 号 粘土槨	埼玉県東松山市大字西本宿	円	16.0	粘土槨	7.3	12 鈴	卵形	帯状	右手	装身具 (垂飾)・武器 (鉄刀・鉄鏃 7)・馬具 ; [槨外] 須惠器		15
大類古墳群 (玉林寺境内) 埋葬施設	埼玉県入間郡毛呂山町大字川角	古墳		不明						鏡・装身具 (耳環 2)・玉類 (管玉・勾玉ほか)・武器 (鐙)・生産用具 (紡錘車)		32
太田法師 7 号墳	千葉市緑区大金沢	古墳								(未公表)		17

遺跡名	所在地	遺構名	規模	埋葬主体	内径 (cm)	鈴数	形態	釧	装着	副葬品 (出土遺物)	備考	文献
請西遺跡群大山台33号墳	千葉県木更津市	円	18.0	木棺直葬	6.0	5 鈴	円形	環状	左手	馬具 (環状鏡板付轡・雲珠)・武器 (鉄刀・鉄鏃)・玉類 (勾玉 7・小玉約120)	銅内に入骨が遺存。	18
狛江亀塚古墳第2主体部 (下部木炭塚)	東京都狛江市元和泉1丁目	帆立貝形	40.0	木炭塚	5.8	6 鈴	円形	環状	左手	〔櫛内〕 鏡・玉類 (管玉・ガラス玉)・武器 (鉄刀)・生産用具 (刀子)；〔櫛外〕 武器 (鉄刀)・馬具 (f 字形鏡板付轡・剣菱形杏葉・鏡・雲珠・鞍) 玉類 (滑石丸玉14・ガラス小玉28)・武器 (鉄刀・鉄鏃・鉄鏃)・生産用具 (滑石紡錘車・刀子・鉋・鉋)・須恵器・土師器・その他 (鍔金鈴)	周辺から玉類出土。	19
和泉浜C遺跡	東京都大島町	祭祀			6.6	6 鈴	円形	環状	不明	玉類 (滑石丸玉14・ガラス小玉28)・武器 (鉄刀・鉄鏃・鉄鏃)・生産用具 (滑石紡錘車・刀子・鉋・鉋)・須恵器・土師器・その他 (鍔金鈴)		45
北高森古墳	神奈川県伊勢原市	古墳				5 鈴	円形	環状				5
佐島横穴	神奈川県横須賀市	横穴		横穴 (両袖型)		不明	円形	環状	不明	装身具 (銀鍔・銅鍔・貝輪)・玉類 (瑪瑙勾玉・碧玉管玉・瑪瑙管玉・ガラス管玉・水晶刀子玉 2・ガラス小玉)・武器 (鉄鏃 2)		5 43
赤田2号墳	神奈川県横浜市区	円	20.0	横穴式石室 (両袖型)	6.1	5 鈴	円形	環状	不明	装身具 (金鏃 2)・玉類 (瑪瑙勾玉12・水晶刀子玉 9・碧玉管玉 5・琥珀環玉 7・ガラス丸玉 8・土玉 3・ガラス小玉550)・武器 (鉄刀 4・刀子・刀装具・鉄鏃63)・生産用具 (刀子 2+)・須恵器 (坏身・通)・土師器 (模倣坏)		20
衣紋原古墳 (飯山小鉢古墳)	神奈川県厚木市飯山字衣紋原2406	古墳		横穴式石室	6.7	4 鈴	円形	環状	不明	装身具 (耳環 4)・玉類 (管玉・丸玉・小玉)・武器 (鉄刀 4・鉄鏃 30)・生産用具 (刀子・砥石)		47
上依知1号墳	神奈川県厚木市上依知	円	20.0	横穴式石室 (無袖型)	5.9	6 鈴	円形	環状	不明	装身具 (耳環 3・銅釧 4)・玉類 (勾玉25・刀子玉 8・丸玉22・白玉 4・ガラス小玉312)・武器 (鉄刀 4・鉄鏃25+)・馬具 (轡・飾金具)・生産用具 (刀子)・須恵器 (坏身 2・平瓶 2・横瓶・甕 2)		5
新宿1号横穴 (新宿5丁目出土, 新宿海岸横穴)	神奈川県逗子市新宿5丁目	横穴		横穴	6.4	6 鈴	円形	環状	不明	装身具 (耳環・銅釧)・玉類 (勾玉・素玉・刀子玉・丸玉・小玉)・武器 (鉄刀・鉄鏃)・生産用具 (刀子)	腕に埋められた状態で出土。ただし、左右どちらか不明。	21
根坂間B 4号横穴	神奈川県平塚市根坂間653	横穴		横穴 (両袖型)	6.8	6 鈴	円形	環状	不明	玉類・武器 (鉄刀・鉄鏃)・生産用具 (刀子)・須恵器 (提瓶)		22 43
道林5号墳 (オエン塚古墳)	山梨県西八代郡三珠町道林	円				不明			不明	(伝) 武具 (甲)・武器 (鉄刀)	鈴釧が出土したとされる。	3
和田山2号墳	石川県能美郡寺井町和田	円	18.4	粘土槨	7.2	9 鈴	卵形	帯状	頭部	鏡・装身具 (櫛11・鈴板)・玉類 (管玉13)・武器 (横柄板鉾留短甲)・武器 (鉄刀 2・鉄釧 2・槍・鉄鏃 2・鉄鏃53)・馬具 (f 字形鏡板付轡・環状鏡板付轡・剣菱形杏葉 3・鋭具)・生産用具 (鉄斧・砥石)	外径15.4×12.0cm, 内径7.2×5.6cm, 高さ5.0cm	23
土岐郡笠原村の古墳	岐阜県土岐郡笠原村	古墳		不明	6.4	6 鈴	円形	環状	不明	不明		48
桑寿園西口古墳	静岡県三島市寿町	円		横穴式石室 (無袖型)	6.5	6 鈴	円形	環状	右手	装身具 (耳環・銅釧)・玉類 (刀子玉・素玉・管玉・ガラス小玉)・武器 (鉄刀)・生産用具 (刀子)・須恵器ほか	周囲からガラス小玉出土。	24 25
願塚古墳	静岡県三島市大宮町	円?		横穴式石室 (無袖型)		5 鈴	円形	環状	不明	装身具 (耳環 4)・武器 (鉄刀・鉄鏃)・須恵器 (甕 3・掛・坏蓋 2・坏身 2・甕・提瓶 2)・土師器 (坏身 5)・その他 (座金具)		24
睦美京塚古墳	静岡県周智郡森町睦美字逆井	円	20.0	粘土槨 or 木棺直葬	6.0	5 鈴	円形	環状	不明	鏡・馬具 (三鈴杏葉 2・馬鐙 2)・生産用具 (鹿角刀子)		26
中山1号墳	静岡県清水市梅ヶ谷中山	円		横穴式石室	5.9	6 鈴	円形	環状	不明	玉類 (碧玉勾玉・水晶勾玉・瑪瑙勾玉 6・瑪瑙刀子玉・水晶刀子玉 3・ガラス管玉・碧玉管玉・ガラス小玉 3)・装飾付大刀 (環頭大刀)・馬具・銅鍔・須恵器 (高坏・坏身 2・坏蓋)		27 28

遺跡名	所在地	遺構名	規模	埋葬主体	内径(cm)	鈴数	形態	釧	装着	副葬品(出土遺物)	備考	文献
惣ヶ谷1号墳	静岡県南沼上	円		横穴式石室		5鈴 (推定)	円形	環状				28
城山出土(用宗古墳?)	静岡県用宗	古墳		横穴式石室						銅腕		6 7
石ノ形古墳東主体部ノ形	静岡県袋井市国本字石ノ形	円	27.0	木棺直葬	6.0	6鈴 (推定)	円形	環状	左手	鏡・玉類(緑泥片岩管玉18・ガラス丸玉75・ガラス小玉206・銀製空玉3)・武器(鉄刀)・生産用具(刀子2)		本書
吉子	静岡県南伊豆町大瀬	不明		不明					不明	装身具(銅釧)		6
下多賀神社境内出土	静岡県熱海市下多賀	不明		不明	6.0	6鈴 (推定)	円形	環状	不明			29
銚子塚古墳群	静岡県磐田市寺谷銚子塚	古墳		不明	6.9	11鈴	卵形	帯状	不明			30
おつくり山古墳	愛知県名古屋瑞穂区瑞穂町井戸田1-78	円	25.0	粘土槨?		7鈴	変形	環状	不明	鏡2・玉類・武器(短甲・挂甲)・武器(鉄刀3・鉄剣3・鉄鉾3・鉄鏃)		31
大須二子山古墳	愛知県名古屋市中区門前町101・102・139	前方後円	75.0	方形石室(木棺)		13鈴	卵形	帯状	不明	鏡・玉類・武器(衝角付冑・挂甲)・武器(鉄刀)・馬具(轡・杏葉・雲珠・辻金具・飾金具)		31
妙蓮寺山古墳	島根県出雲市下古志町	前方後円	49.0	横穴式石室(横穴式冢形石棺)	6.3	不明	円形	環状	不明	玉類(ガラス玉)・装飾付大刀(銀象嵌入口頭大刀)・武器(鉄鏃多数)・馬具(轡・鞍金具・辻金具・杏葉・飾金具)・生産用具(刀子・鉄斧3)・須恵器	金銅張とされるものの金銅は確認されていない。	49
めんぐろ古墳	島根県浜田市市治和町	円?		横穴式石室						鏡・玉類(水晶切子玉・金銅装三輪玉)・装飾付大刀(銀装大刀)・武器(槍・石突)・馬具(轡・馬鐙・環鈴・雲珠・杏葉・鉄具)・須恵器		33 35
上古墳家形石棺	島根県平田市国富町上島	円	15.0	石棺直葬(箱形石棺)	5.8	5鈴	円形	環状	左手	鏡・装身具(銀鏤)・玉類(瑪瑙管玉9・ガラス小玉152・ガラス丸玉22)・武器(鉄刀・金銅製方形飾金具[柄飾])・生産用具(刀子2・針状鉄片2・毛板形鉄器)・須恵器		33 36
二塚古墳	広島県福山市野家町大字法成寺字西組下	円	27.5	横穴式石室						鏡・装身具(耳鐙4)・武器(鉄鉾・石突2・鉄鏃14)・馬具(鞍金具・杏葉・雲珠3・鉄具2)・須恵器(高坏2)・その他(鉄釘)		33 37
上ノ山古墳	山口県下関市大字綾羅木字上ノ山	前方後円	108.0	横穴式石室		5鈴	円形	環状	不明	鏡・装身具(銅釧2)・玉類(水晶管玉11・瑪瑙管玉18・瑪瑙勾玉2)・水晶切子玉5・水晶勾玉10・ガラス小玉71)・武器(甲冑)・武器(鉄鏃1塊・三輪玉金具5)・馬具(轡2)・その他(鉄器片6)		33 38
西山古墳	愛媛県松山市星ノ岡町	古墳		石室?						鏡・装身具(金鏤・銀鏤・銅釧)・玉類(管玉・小玉)・装飾付大刀(三葉鏡頭大刀)・石製模造品(紡錘車)・須恵器		33
小倉古墳	福岡県	円				5鈴	円形	環状		鏡・装身具(釧・金鏤)・玉類(翡翠勾玉・碧玉管玉・ガラス小玉)・武器(鉄刀2・鉄鏃)		
井河1号墳	福岡県筑紫郡那珂川町	円	13.0	竪穴系横口式石室	6.0	5鈴	円形	環状	不明	装身具(銅釧)・玉類・武器(鉄刀・槍・鉄鏃)・生産用具(刀子)・須恵器・土師器		2
日隈2号墳	大分県日田市大字庄手字中ノ島	古墳		不明		不明			不明	鏡・馬具(鉄地金銅張杏葉片?)		33
長瀬博物館所蔵	不明	不明		不明		6鈴	円形	環状	不明			4
関西大学博物館所蔵	不明	不明		不明	6.0	6鈴	円形	環状	不明		[本山考古資料]	1
國學院大學所蔵	不明	不明		不明	6.0	5鈴	円形	環状	不明			46
國學院大學所蔵	不明	不明		不明	6.5	5鈴	円形	環状	不明			46

石ノ形古墳

【文献一覧】

1	泉森皎	1973	「鈴釧」『考古学資料図鑑』	関西大学文学部
		1998	「鈴釧」『博物館資料図録』	関西大学博物館
2	小高幸男	1989	「古墳出土釧の基礎的研究－金属製釧について－」『君津都市文化財センター研究紀要』Ⅲ	君津都市文化財センター
3	山梨県立考古博物館編	1990	『古墳時代が聞こえる』	山梨県立考古博物館
4	埼玉県立博物館	1991	『音のかたち－日本の音を探る－』	埼玉県立博物館
5	神奈川県教育委員会	1977	「当麻遺跡・上依知遺跡」『神奈川県埋蔵文化財調査報告』12 一般国道129号線改良工事に伴う調査	神奈川県教育委員会
6	小野真一編	1972	『駿河東原古墳＝静岡県における古墳時代装身具の研究＝』	加藤学園沼津考古学研究所・中部開発
7	川江秀孝	1992	「釧」『静岡県史』資料編3 考古3	静岡県
8	宮城県文化財保護協会	1978	「六 鈴釧・釧」『宮城の文化財』第38号 宮城県の考古資料(その2)	宮城県文化財保護協会
9	宮城県教育委員会編	1990	『大年寺山横穴群』宮城県文化財調査報告書第136集	宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・宮城県仙台農林事務所
10	いわき市教育文化事業団	1984	「弾正作横穴群」『ふるさとの考古資料』(Ⅱ)－近年発掘調査された重要埋蔵文化財－	いわき市教育文化事業団
11	望月幹夫	1981	「栃木県足利市十二天古墳の再検討」『MUSEUM』361号	東京国立博物館
12	太田区立郷土博物館編	1995	『武蔵国造の乱』考古学で読む『日本書紀』	東京美術
13	埼玉県	1982	『新編埼玉県史』資料編2 原始・古代 弥生・古墳	埼玉県
14	埼玉県教育委員会	1984	『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅸ 雷電下・飯玉東』埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集	埼玉県教育委員会
15	東洋大学考古学研究会編	1970	『埼玉県東松山市高坂諏訪山古墳群(第1次発掘調査報告)』東洋大学考古学研究会発掘調査報告1	考古学資料刊行会
16	埼玉考古学会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立博物館・埼玉県立埋蔵文化財センター	1997	『第30回遺跡発掘調査報告会発表要旨』	埼玉考古学会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立博物館・埼玉県立埋蔵文化財センター
17	千葉県文化財センター	1996	『千葉県文化財センター研究紀要』17	千葉県文化財センター
18	小林理恵	1991	「千葉県木更津市請西遺跡群大山台33号墳出土鈴釧」『立正考古』第30号	立正大学考古学研究会
19	小出義治	1985	「亀塚古墳」『狛江市史』	狛江市史編さん委員会
20	日本窯業史研究所	1990	『横浜市緑区赤田の古墳』	日本窯業史研究所
21	赤星直忠	1926	「逗子町の横穴」『考古學雑誌』第16巻第4号	考古學會
22	平塚市遺跡調査会編	1990	『根坂間横穴墓B支群 根坂間通学路の建設に伴う発掘調査』平塚市埋蔵文化財シリーズ14	平塚市
23	吉岡康暢・河村好光編	1997	『加賀 能美古墳群』	寺井町・寺井町教育委員会
24	三島市誌編纂委員会	1958	『三島市誌』上巻	三島市
25	軽部慈恩編	1959	「静岡県三島市楽寿園西口古墳」『日本考古学年報』8号 昭和30年度	日本考古学協会
26	森町史編さん委員会編	1998	『森町史』資料編1 考古	森町
27	静岡県	1930	『静岡県史』1(1972年復刻)	名著出版
28	登呂博物館	1990	『特別展 静岡・清水平野の古墳時代－新出土品にみるまつりとくらしー』	登呂博物館
29	熱海市誌編纂委員会	1967	「第二篇 原始古代Ⅱ 古代 第一章原史時代の遺跡」『熱海市史』上巻	熱海市役所
30	中嶋郁夫	1992	「古墳時代」『磐田市史』史料編1 考古・古代・中世	磐田市
31	東海埋蔵文化財研究会	1989	『断夫山古墳とその時代』第6回東海埋蔵文化財研究会資料	東海埋蔵文化財研究会
32	埼玉県	1951	『埼玉県史』1	埼玉県
33	国立歴史民俗博物館	1992	『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集 共同研究「日本出土鏡データ集成」2	国立歴史民俗博物館
34	群馬県古墳時代研究会編	1996	『群馬県内出土の馬具・馬形埴輪』群馬県古墳時代研究会資料集第2集	群馬県古墳時代研究会
35	山本清	1957	「浜田市めんぐろ古墳遺物について」『島根大学論集(人文科学)』7号	島根大学
36	池田満雄	1954	「出雲上島古墳調査報告」『古代学研究』10	古代學研究會
37	脇坂光彦	1977	「福山市駅家町二塚古墳について」『芸備』5号	芸備友の会
38	下関市役所	1965	『下関市史』原始～中世	下関市役所
39	賀川光夫	1971	『大分県の考古学』郷土考古学叢書6	吉川弘文館
40	大谷晃二編	1996	『96年特別展 黄金に魅せられた倭人たち』	八雲立つ風土記の丘資料館
41	群馬県教育委員会編	1980	『塚廻り古墳群』	群馬県教育委員会
42	東京国立博物館	1980	『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅰ)	東京国立博物館
43	東京国立博物館編	1986	『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅲ)	便利堂
44	東京国立博物館	1983	『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇(関東Ⅱ)	便利堂
45	大島町史編さん委員会	1998	『東京都大島町史』考古編	大島町

第Ⅵ章 関連資料集成

46	茨城県立歴史館	1995	『音の考古学—音具と鳴器の世界—』	茨城県立歴史館
47	厚木市秘書部市史編さん室編	1998	『厚木市史』古代資料編(2)	厚木市
48	檀原考古学研究所附属博物館編	1982	『音の考古学 古代の響』	檀原考古学研究所附属博物館
49	島根県教育委員会	1964	『妙蓮寺山古墳調査報告』	島根県教育委員会
50	茨城県史編さん原始古代史部会編	1974	『茨城県史料』考古資料編 古墳時代	茨城県

4 蛇行剣の集成

凡例 本集成は、楠元哲夫・本間恵美子・田中茂・上村俊雄・前坂尚志各氏による既往の成果(文献1～5)を基に追加・補正したものである。本集成には、剣の形態をとらず、槍・鉾に相当する利器をも含むが、おのおの類例に乏しく、また比較検討の資料とするため、一括して提示した。

数値は、基本的に各報告中にある記載に拠った。極力実見して正確な情報を確認するよう努めたが、一部未確認のものもある。また、詳細な数値が記述されていない場合は挿図より計測したが、銹化等のため詳細が不明瞭な場合は「—」と記入した。括弧内の数値は遺存長を示す。尺貫法により法量が表示されたものは、1尺=30.3cmで換算した。未公表の事情で詳細が不明なものは空欄のままとした。

所在地名は、極力現地名に変更したが、一部未確認のものも含む。また、宮崎県所在の築池5号・大萩31号・菓子野3号地下式横穴は、『宮崎県史』(文献42)により名称(番号)を改めた。

共伴遺物のうち、副葬品は蛇行剣を確認した主体部に伴うもののみを挙げた。主体部以外からの出土遺物は、古墳の築造に伴うと判断したもののみを挙げ、[] で括るとともに出土位置を明記した。なお、単数出土のものは数値を省略し、「○」と表示したものは、数量不明であるが複数確認されているものである。

集成の結果 蛇行剣の出土は、東は栃木県から南は鹿児島県まで、48地点総数60振を数える⁽¹⁾。すべて古墳または地下式横穴・地下式板石積石室墓からの副葬品として出土している。

この他にも、上記文献の中で類例に数えられていたり、また報告の中で蛇行剣であると記述されているものがあるが、私見ではその認定に躊躇するものがあり、それらについては今回は集成から割愛した。その事例を列举すると、福岡県八女市所在立山山24号墳出土鹿角装剣(文献50)、宮崎県西諸県郡須木村所在上ノ原10号地下式横穴出土鉄剣(文献51)、鹿児島県大口市所在瀬ノ上8号地下式横穴出土鉄剣(文献43)の3例である。逆に、今回は含めなかったが蛇行剣の可能性を有する事例に、大阪府藤井寺市所在珠金塚古墳出土鉄剣(文献53)がある。客観的な基準により区分したわけではないが、第Ⅷ章考察・北山論文にて再び言及するので、参照願いたい。また、Tab. 12では類型欄を設け、私見による蛇行剣の類型化を試みた。これも考察の中で詳論する。

なお、剣または槍・鉾という武器の形状をとらないが、鉄製利器に「蛇行」という加工を施した可能性のある製品に、大阪府富田林市山中田町所在山中田2号墳出土の「鉤状鉄製品」(未公表)がある。これは、鉤の頸部で水平方向に、茎に相当する部分には垂直方向の屈曲が確認でき、はたして「蛇行」という概念に帰属するのか、土圧による2次の所産であるのかは判断できない。一応類似の例として留意しておくが、今後正式報告をまって再考することにする⁽²⁾。

【註】

- 1 ただし、成川遺跡例のみは原書の入手が間に合わなかったため、詳細は確認していない。
- 2 当遺物の実見に際しては、富田林市教育委員会の今西淳氏よりご配慮を賜った。

Tab. 11 蛇行剣出土遺跡集成表

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外部施設	主体部	規模(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
1	桑57号墳 (東 柳: a, 西 柳: b)	栃木県小山市 喜沢	円	32.4	葦石	粘土槨	(4.0)× 0.6	鏡3, 装身具(管玉2, 滑石質白玉3, 小玉391, ガラス小玉113, 銀鏤2, 天冠・歩搖○), 武器(鉄刀2, 鉄剣, 蛇行剣), 生産用具(鹿角装刀子4, 鹿角装鈍, 鹿角装鎌?, 砥石), 青銅製鈴8	[封土中]武器(鉄刀, 鉄剣, 鉄鉞): [墳頂]埴輪(円筒・動物・人物): [墳裾]埴輪(円筒)		6 54
2	フネ古墳 (東 柳: a, 西 柳: b)	長野県諏訪市 神宮寺	方?	20.0?	周溝	粘土槨(割竹形木槨)	木棺 [東柳] 6.0× 0.6; [西柳] 5.5×0.7	[東柳]装身具(鉄釧, 碧玉管玉, 硬玉管玉, ガラス小玉59), 武器(刀剣11, 蛇行剣), 生産用具(刀子5, 鈍), [西柳]鏡2, 装身具(銅釧, 鉄釧2), 武器(刀剣9, 素戔頭大刀, 蛇行剣, 鉄鉞2, 鉄鏤○), 生産用具(刀子5, 鈍4, 鉄斧, 鏝, 曲刃鎌4, 砥石4), 石製品(紡錘車未製品), 青銅板, 青銅製鈴2	[周溝内]土師器壺・小形丸底壺・高坏	副葬品の棺内・棺外は不明瞭, 蛇行剣は両者とも棺外か	7 55
3	和田山5号墳 (B柳)	石川県寺井町 和田・末寺	前方 後円	54.0		粘土槨	4.2×0.7	[棺内]鏡3, 装身具(堅櫛4), 武器(蛇行剣), 武器(三角板鉾留短甲), 生産用具(刀子2, 鉄斧3, U字形刃先, 曲刃鎌), 大形鉄板2, 織維; [棺外]武器(刀剣13, 箱3, 蛇行槓, 鉄鉞2, 鉄鏤91+)	[墳頂]須恵器甕	蛇行剣(b)と蛇行槓(a)あり, 主体部は構築墓壇	10
4	狐塚古墳	石川県加賀市 勅使町	前方 後円	55.8		箱形石棺	2.7×0.7	鏡, 装身具(硬玉勾玉4, 瑪瑙勾玉, 碧玉管玉35, ガラス管玉4, ガラス丸玉20, 金銅装空玉・銀製帯金具○), 武器(鉄剣, 鉄刀6, 蛇行槓, 鉄鉞, 鉄鏤90+), 武器(横剣板鉾留短甲付青, 横剣板鉾留短甲, 籠手, 小札○), 生産用具(刀子5), 青銅製鈴7		蛇行槓, 副葬品の出土位置は不明	11
5	南沼上3号墳	静岡市川合仙 台	円	17.0	周溝	木棺		武器(鉄刀, 鉄鏤2+), 武器(短甲?), 馬具(三環鈴2)			8
6	五ヶ山B-2 号墳	静岡県浅羽町 浅名字五ヶ山	長方	34.0× 29.0	葦石	割竹形木棺	(4.2)× 0.6	[棺内]装身具(漆塗櫛2), 武器(鉄剣5, 鉄刀2), 武器(三角板革綴短甲?, 肩甲, 頸甲, 草摺?), 生産用具(刀子・鎌・鉞・鏝・鉄斧50+, 砥石); [棺外]武器(鉄鉞4, 鉄鏤○), 武器(皮製盾)	[墳頂]埴輪	蛇行鉞	9
7	石ノ形古墳 (西主体部)	静岡県袋井市 国本字石ノ形	円	27.0	周溝・造 り出し	箱形木棺	(2.3)× 0.9	[棺内]鏡, 武器(鉄剣, 鉄刀, 蛇行剣, 鉄鏤84+), 武器(横剣板鉾留短甲), 馬具(f 字形鏡板付轡, 鉄製楕円形鏡板付轡, 金銅張辻金具3, 鉄製辻金具2, 鉸具3); [棺外]武器(鉄刀3, 鉄鉞), 馬具(鉸具2), 生産用具(鉄斧2, 刀子4, 鈍3), 須恵器甕, 滑石製平玉, ガラス製小玉	[墳頂]埴輪(円筒), 須恵器甕・埴; [周溝内]埴輪(円筒)	主体部は2基	本書
8	落合3号墳	三重県伊勢市 津村町口山田	長方	11.0× 10.0	周溝	割竹形木棺	2.1×0.6	[棺内]装身具(瑪瑙勾玉, タブ白玉5), 武器(鉄剣, 鉄刀, 蛇行剣), 生産用具(刀子4); [棺外]武器(鉄剣, 鉄鏤14), 生産用具(曲刃鎌)	[墳頂]須恵器・高坏, 土師器高坏; [周溝内]武器(鉄鉞), 須恵器・坏・コップ形碗・壺・樽形		12
9	興大石2号墳 (SX204)	京都府綾部市 上杉町興大石	方	11.0	掘割	組合式木棺	3.3×0.7	[棺外]武器(蛇行剣, 鉄鏤4), 生産用具(刀子)		主体部は2基	13

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外部施設	主体部	規模(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
10	豊中大塚古墳 (第2主体部 東部)	大阪府豊中市 中塚塚	円	56.0	周溝	粘土槨	7.0×0.7	[棺内]鏡, 装身具(堅籬5), 武器(鉄剣7, 鉄刀10, 蛇行剣), 武器(長方形革綴短甲, 三角板革綴襟付短甲2, 三角板革綴衝角付胃2, 頸甲, 肩甲, 皮製草摺, 皮製盾), 生産用具(刀子3); [棺外]武器(槍3), 武器(皮製盾)	[墳丘・周溝内]埴輪(円筒・形象)	主体部は3基	16
11	七観古墳 (第3槨:S1: a, S2: b)	大阪府堺市旭 が丘	円	50.0		粘土槨	?	[棺内]武器(刀剣130+, 素纒頭破片2, 蛇行剣); [棺外]武器(槍, 鉄鉾3)	[墳丘]埴輪(円筒・形象)	主体部は3基	17
12	北原古墳(南 部)	奈良県宇陀郡 大字陀町大字 野依・平尾	長方	16.0× 14.5	周溝	割竹形木槨	4.6×0.5	[棺内]装身具(堅籬14+, 滑石質白玉147), 武器(鉄剣2, 鉄刀2, 蛇行剣), 生産用具(6)	[周溝内]土師器甕・小形丸底蓋	主体部は2基	56
13	後出3号墳 (第2主体)	奈良県宇陀郡 大字陀町守道	円	13.0	掘割	割竹形木槨	4.1×0.9	[棺内]鏡, 装身具(堅籬○), 武器(鉄刀4, 蛇行剣, 槍, 鉄鉾70+), 武器(三角板横切版併用鉄留短甲)	[墳頂?]土師器高坏; [周溝内]須恵器甕	主体部は2基	14
14	後出7号墳	奈良県宇陀郡 大字陀町守道	円	12.0	掘割	割竹形木槨	3.9×0.6	[棺内]武器(鉄剣6, 鉄刀4, 蛇行剣, 鉄鉾50+), 武器(三角板鉄留短甲); [棺外]武器(槍, 鉄鉾○)	[掘割内]土師器高坏, 須恵器甕		14
15	後出18号墳 (第1主体)	奈良県宇陀郡 大字陀町守道	円	18.0	掘割	割竹形木槨	4.4×0.6	[棺内]武器(鉄剣2, 鉄刀, 蛇行剣), 生産用具(刀子4); [棺外]武器(鉄剣, 鉄刀2, 鉄鉾11), 生産用具(刀子2), 土師器壺	[墳頂]須恵器杯蓋; [掘割内]土師器高坏	主体部は2基	15
16	陵山古墳	和歌山県橋本 市古佐田丸山 公園内	円	46.0	周溝	堅穴系横口式 石室か	?	鏡, 武器(蛇行剣, 鉄鉾), 武器(短甲破片, 頸甲破片, 金銅装小札), 土師器高杯・壺, 須恵器甕・杯・甕	[周溝内]埴輪(円筒・形象)	副葬品の出土 位置は不明	18 19
17	寺内63号墳 (木槨)	和歌山県森小 手穂北谷	円	21.5	葺石	箱形木槨	2.6×0.7	[棺内]装身具(堅籬), 武器(蛇行剣), 生産用具(ミニチュア刀子)	[墳頂]埴輪(円筒・家形), 土師器高坏, 須恵器甕	中心主体の埴 土槨に追葬	20
18	亀山古墳(第 1号室)	兵庫県加西市 笹倉町	円	46?		石蓋土槨		武器(鉄剣, 鉄刀6, 蛇行剣2, 槍, 鉄鉾○), 武器(横切板鉄留短甲, 横切板鉄留肩胛付胃, 籠手), 不明鉄製品	[墳頂・墳裾]埴輪(円筒)		21
19	頭根後谷6号 墳(2号埋葬 施設)	鳥取県倉吉市 谷	長円	18.0× 16.0	周溝	木槨	2.4×0.5	[棺内]武器(蛇行剣), [棺外]装身具(碧玉勾玉, タフ管玉3)		中心主体は箱 式石槨	22
20	藤蔵池頭古墳	岡山県久米郡 久米町里公文	不明			不明		武器(蛇行剣)・生産用具(刀子)		出土位置は不 明	23
21	中小田2号墳	広島県高陽町 大字小田字中 小田	円	15.0	造り出し?	堅穴式石室	3.1×0.8	鏡, 武器(鉄剣2, 鉄刀5, 蛇行剣, 鉄鉾83), 武器(三角板鉄留短甲, 草摺, 横切板鉄留衝角付胃), 生産用具(刀子, 鉄斧, 曲刀鎌2, 手鎌, 鑿2, 有棘越形鉄製品2)	[墳丘]土師器壺, 武器 (鉄鉾)	鏡以外は推定 棺外	24
22	空長1号墳	広島県祇園町 大字西山本字 空長	円	13.0	周溝	堅穴系横口式 石室(組合式 木槨)	2.0×0.6	装身具(ガラス玉11), 武器(鉄剣, 蛇行剣), 石製品(有孔円板), 金銅製三輪玉2, 鉄製鍔6		棺の内外は不 明	25
23	結11号墳	島根県簸川郡 斐川町	長方	14.0× 11.0		磯槨		武器(蛇行剣, 鉄鉾9)・生産用具(刀子3)			26
24	五反田3号墳	島根県安木市 門生町	隅丸 長方	9.2×6.6	周溝	箱形木槨	2.7×1.1	[棺内]生産用具(刀子); [棺外]武器(蛇行剣)	[周溝内]土師器甕		27

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外部施設	主体部	規模(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
25	竹並 A-34号 横穴墓	福岡県行橋市 竹並	横穴	1.2×2.3				武器(蛇行剣, 鉄鉾)			28
26	船石1号墳	佐賀県三養基 郡上峰村大字 堤	不明			竪穴系横口式 石室	2.0×0.7	[棺外]武器(蛇行剣)			29
27	船石2号墳	佐賀県三養基 郡上峰村大字 堤	円	12.0	周溝	竪穴系横口式 石室	2.8×1.6	[玄室内]武器(蛇行剣, 鉄鉾4), 生産用具(刀子, 太 形始刃形石斧, 工具状鉄製品○), 須恵器杯蓋・杯 身・器台; [閉塞石上部]須恵器高坏	[周溝内]袋状鉄斧	棺の内外は不 明	29
28	高島古墳	佐賀県大和町 梅野	円	19.7	不明	組合式石棺? 直葬	1.9×0.8 程度	鏡, 装身具(蛇紋岩?勾玉・管玉・水晶玉・青銅製鈴 ○, 鉄製堅櫛), 武器(鉄剣・鉄刀・蛇行剣?・腕手刀・ 鉄鉾・骨鏃○), 生産用具(刀子・袋状鉄斧・曲刃鎌・ 熊手状鉄製品), 石製品(紡錘車)		出土位置は不 明	30
29	姫塚古墳	大分県日田市 高瀬	円	15.7?	不明	竪穴式石室?	不明	武器(蛇行剣, 鉄鉾○)		出土位置は不 明	31
30	浄土寺山古墳		柄鏡 式	40.0		粘土槨	6.8×1.0	装身具(竹櫛48), 武器(鉄剣9, 鉄刀6, 鉄鉾), 武器 (胄・短甲・盾○), 生産用具(鉄斧)			32
31	児屋根塚古墳	宮崎県西都市 穂北茶臼	前方 後円	110.0	周溝	粘土槨	不明	鏡, 装身具(管玉7, ガラス丸玉853), 武器(鉄剣, 蛇 行剣)	[攪乱坑]形象埴輪(埴 頂部より軋落?)		33
32	鑑古墳	宮崎県児湯郡 新富町身納代	円	11.5	葺石	割竹形木棺?	? × 0.5	武器(蛇行剣, 鉄鉾), 生産用具(刀子)	[埴頂]土師器器台; [埴 裾]土師器破片		34
33	大萩31号地下 式横穴	宮崎県西諸県 郡野尻町大字 三ヶ野山		1.4×0.5				武器(鉄剣, 鉄刀, 蛇行剣), 生産用具(砥石)			35
34	灰ヶ野1号地 下式横穴	宮崎県田野町 灰ヶ野		0.9× 2.0?				武器(蛇行剣, 鉄鉾, 鉄鏃4), 生産用具(刀子, 袋状 鉄斧)			36
35	牧ノ原2号地 下式横穴	宮崎県都城市 下川東4丁目		1.3×2.2				武器(蛇行剣, 鉄鉾7, 骨鏃8)			37
36	築池5号地下 式横穴	宮崎県都城市 下水流町		2.7×1.4				武器(蛇行剣)			38
37	築池92-8号地 下式横穴	宮崎県都城市 下水流町								未公表	5
38	菓子野3号地 下式横穴	宮崎県都城市 菓子野町字鈴 川		2.4×1.7				武器(鉄剣, 蛇行剣, 鉄鉾9), 鉄鐸6			39
39	久見迫3号地 下式横穴	宮崎県えびの 市大字上江字 久見迫		2.4×1.9				武器(蛇行剣), 生産用具(刀子)			40
40	馬頭5号地下 式横穴	宮崎県えびの 市大字上江字 馬頭		2.5×1.5				武器(鉄刀, 蛇行剣, 鉄鉾7), 馬具(楕円形鏡板付轡, 辻金具2), 生産用具(刀子4)			41
41	島内地下式横 穴	宮崎県えびの 市島内								未公表	44

石ノ形古墳

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外部施設	主体部	規模(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
42	日守地下式横穴	宮崎県高原町大字後川内字日守		1.6×1.4				武器(鉄剣, 蛇行剣, 鉄鏃6), 生産用具(刀子, 鉋2)			45
43	瀬ノ上5号地下式横穴	鹿児島県大口市青木		1.6×0.9				武器(蛇行剣, 鉄鏃2)			43
44	前目灰塚3号地下式横穴	鹿児島県伊佐郡菱刈町前目		1.5×0.8				武器(蛇行剣, 鉄鏃12)			46
45	横岡Ⅷ号地下式板石横石室墓	鹿児島県川内市上川内町釜口		1.0×0.7				武器(鉄剣, 鉄刀3, 蛇行剣)			47
46	成川遺跡	鹿児島県揖宿郡山川町成川曲り道	土墳墓							詳細は未確認	52
47	上の原9号地下式横穴	鹿児島県肝属郡高山町前田		不明		軽石製組合式石棺	—	装身具(イモガイ製貝輪2), 武器(蛇行剣), 生産用具(刀子2)			49
48	金城里A号石槨墓	任実郡館村面金城里				堅穴系横口式石槨		武器(鉄刀3, 蛇行剣, 鉄鏃), 馬具(素環鏡板付轡), 生産用具(鉄斧5, 曲刃鎌3), 陶質土器(短頸壺, 長頸壺, 広口壺, 高坏2)	棺の内外は不明		48

Tab. 12 蛇行剣計測値一覧表

番号	資料名	全長 (cm)	身部長 (cm)	茎長 (cm)	身部幅 (cm)	最大厚 (cm)	断面形状	類型	備 考
1	桑57号墳	(73.0)	(58.5)	14.5	4.0	0.60	レンズ状	A I 4	鞘入り
2-a	フネ古墳(東柳)	71.8	55.3	16.5	3.7	0.50	レンズ状	A I 4	鞘入り
2-b	〃 (西柳)	(65.8)	(55.0)	10.8	3.2	0.40	レンズ状	A I 4	鞘入り
3-a	和田山5号墳(槍2)	(48.4)	38.5	(9.9)	4.2	1.00	菱形	蛇行槍	
3-b	和田山5号墳(剣9)	(55.4)	(49.8)	(5.6)	3.8	0.80	菱形	B—4	鞘入り, 鞘金具遺存
4	狐塚古墳	(38.7)	—	—	—	—	—	蛇行槍	
5	南沼上3号墳								未公表
6	五ヶ山B-2号墳	36.2	19.2	17.0	2.5	0.90	菱形	蛇行鉾	未発表
7	石ノ形古墳	47.5	34.5	13.0	3.4	0.80	菱形	A I 5	鞘入り, 木柄装着
8	落合3号墳	34.5	24.8	9.7	3.0	0.35	レンズ状	B I 1	木柄装着
9	奥大石2号墳	70.0	56.0	14.0	3.0	0.60	菱形	B II 3	鞘入り
10	豊中大塚古墳	56.4	44.4	12.0	2.8	0.40	菱形	B II 4	鹿角装柄装着
11-a	七観古墳(S1)	(70.0)	60.0	(10.0)	4.0	0.90	菱形	C II 5	
11-b	七観古墳(S2)	(63.5)	58.5	(5.0)	3.3	0.80	菱形		
12	北原古墳	84.6	69.0	15.6	3.6	0.60	菱形	B II 3	鞘入り, 木柄装着
13	後出3号墳	(51.0)	(40.2)	10.8	3.2	0.75	レンズ状	C II 1	鞘入り, 木柄装着
14	後出7号墳	64.2	48.5	15.7	3.5	0.65	レンズ状	C II 1	鞘入り, 木柄装着
15	後出18号墳	59.2	45.9	13.3	2.9	0.50	レンズ状	C II 1	鞘入り, 木柄装着(柄縁装具遺存)
16	陵山古墳	(40.3)	(40.3)		4.6	0.90	菱形		
17	寺内63号墳	75.2	60.3	14.9	3.3	0.40	レンズ状	B II 3	
18-a	亀山古墳(剣2)	(67.6)	—	—	—	—	—		鞘入り(鞘口装具遺存か), 木柄装着
18-b	亀山古墳(剣7)	—	—	—	—	—	—		
19	頭根後谷6号墳	(44.9)	35.7	(9.2)	3.4	0.60	菱形	C—	鞘入り(鞘口装具遺存か), 木柄装着
20	藤蔵池頭古墳	(55.0)	43.6	(11.4)	3.0	0.70	レンズ状	A II 4	木柄装着
21	中小田2号墳	(48.5)	(38.3)	10.2	5.2	0.70	レンズ状	B II 4	木柄装着
22	空長1号墳	(37.3)	(26.8)	10.5	3.0	0.60	菱形	C II 1	鞘入り, 木柄装着(葛巻)
23	結11号墳	52.7	40.0	12.7	3.3	0.40	レンズ状	C—	鞘入り, 木柄装着
24	五反田3号墳	(27.6)	(19.6)	8.0	3.3	0.40	レンズ状	— I 5	
25	竹並A-34号横穴墓	56.2	42.8	15.4	3.4	0.60	菱形	B II 1	楕円形鐔(9.2×8.5×0.4, 内径2.3)装着
26	船石1号墳	71.5	56.8	14.7	4.1	0.70	変型菱形	A II 1	鎧は片面のみ明瞭, 他方はレンズ状
27	船石2号墳	27.8	19.0	10.3	3.0	0.65	菱形	蛇行鉾	鞘入り
28	高島古墳	(36.4)	—	—	—	—	—		
29	(伝)姫塚古墳	(38.8)	(38.8)		2.6	0.50	レンズ状?		
30	浄土寺山古墳	25.7	—	—	—	—	—		
31	児屋根塚古墳	(71.0)	—	—	—	—	—	C—	実測図未公表
32	鑑古墳	77.8	61.2	16.6	4.2	0.60	レンズ状	C II 1	
33	大萩31号地下室横穴	66.8	55.5	11.3	3.6	0.50	レンズ状	C II—	鞘口は鹿角装, 木柄装着
34	灰ヶ野1号地下式横穴	(51.6)	(51.6)		4.0	0.60	菱形	C—	鞘口装具遺存
35	牧ノ原2号地下式横穴	46.0	35.2	11.2	3.2	0.50	レンズ状	A II—	
36	築池5号地下式横穴	(45.6)	(34.9)	10.7	2.5	4.60	レンズ状	C I 2	鞘入り, 鹿角装柄装着
37	築池92-8号地下式横穴								未公表
38	菓子野3号地下式横穴	(48.7)							数値は文献5による
39	久見迫3号地下式横穴	68.5	57.5	11.0	3.0	0.50	レンズ状	C—	鞘口装具遺存か?
40	馬頭5号地下式横穴	(23.5)							数値は文献42による
41	島内地下式横穴群								9振が出土, 未公表
42	日守地下式横穴	(54.2)	42.9	11.3	2.9	0.4	レンズ状		未公表
43	瀬ノ上5号地下式横穴	(28.1)	26.3	(1.8)	2.3	0.50	レンズ状	C—	鞘口装具遺存か?
44	前目灰塚3号地下式横穴	29.0	24.0	5.0	3.8	0.40	レンズ状	C—	
45	横岡Ⅶ号地下式板石横石室墓	56.6	42.8	13.8	3.0	0.60	菱形	B I 2	布巻, 木柄装着
46	成川遺跡								未確認
47	上の原9号地下式横穴	(38.0)	—	—	—	—	—		数値は概略
48	金城里A号石柳墓	(76.0)	62.0	(14.0)	4.2	—	菱形	B—	数値は概略

石ノ形古墳

【文献一覧】

1	楠元哲夫	1986	『蛇行剣出土地地名表』『宇陀 北原古墳』大字陀町文化財調査報告書第1集	大字陀町・橿原考古学研究所
2	田中茂	1988	「南九州出土の蛇行剣」『宮崎県史研究』第2号	宮崎県
3	上村俊雄	1990	「南九州の考古学」『隼人世界の島々』海と列島文化5	小学館
4	本間恵美子	1988	『古代の女性～女神たちからのメッセージ～』	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
5	前坂尚志	1994	「蛇行剣小考」『考古学と信仰』同志社大学考古学シリーズVI	同志社大学考古学シリーズ刊行会
6	小山市教育委員会	1972	『桑57号墳発掘調査報告書』	小山市教育委員会
7	藤森栄一・宮坂光昭	1965	「諏訪上社フネ古墳」『考古学集刊』第3巻第1号	東京考古学会
8	天石夏美	1995	「南沼上古墳群」『ふちゅへる』No.3 平成5年度静岡市文化財年報	静岡市教育委員会
9	浅羽町	1997	「五ヶ山B-2号墳」『浅羽町史』資料編1 考古・古代・中世	浅羽町
10	吉岡康暢・河村好光編	1997	『加賀 能美古墳群』	寺井町・寺井町教育委員会
11	後藤守一	1937	「加賀國江沼郡勅使村字二子塚所在狐塚古墳」『古墳發掘品調査報告』帝室博物館學報第9冊	帝室博物館
12	三重県教育委員会	1992	『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告一第7分冊一落合古墳群』三重県埋蔵文化財調査報告101-7	三重県埋蔵文化財センター
13	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1990	「奥大石古墳群」『京都府遺跡調査概報』第37冊	京都府埋蔵文化財調査研究センター
14	橿原考古学研究所	1986	「宇陀地方の遺跡調査 後出古墳群I(南部)」『奈良県遺跡調査概報』1985年度	橿原考古学研究所
15	橿原考古学研究所編	1993	『宇陀郡大字陀町 後出古墳群一18号墳一』奈良県文化財調査報告書第69集	奈良県教育委員会
16	豊中市教育委員会	1987	『摂津豊中 大塚古墳』豊中市文化財調査報告第20集	豊中市教育委員会
17	樋口隆康ほか	1961	「和泉国七観古墳調査報告」『古代学研究』27	古代学研究会
18	金谷克巳ほか	1955	『紀伊の古墳』1	紀伊考古学研究会
19	吉田宣夫・仲完治	1974	『和歌山県橋本市陵山古墳発掘調査概報』	橋本市教育委員会
20	関西大学文学部考古学研究室編	1972	「寺内63号墳」『和歌山市における古墳文化』関西大学文学部考古学研究紀要第4冊	和歌山市教育委員会
21	梅原末治	1939	「播磨加西郡龜山の古墳と其の遺物」『考古學論叢』第14輯	考古学研究会
22	倉吉市教育委員会	1991	『立縫遺跡群VI 頭根後谷遺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第61集	倉吉市教育委員会
23	久米開発事業に伴う文化財調査委員会	1980	「付. 藤蔵池頭出土遺物」『橿山遺跡群II』久米開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)	久米開発事業に伴う文化財調査委員会
24	広島大学文学部考古学研究室編	1980	『中小田古墳群一広島市高陽町所在一』広島市の文化財第16集	広島市教育委員会編
25	広島市教育委員会	1978	『空長古墳群発掘調査報告書』広島市の文化財第13集	広島市教育委員会
26	矢道年弘	1985	「結11号墳出土の蛇行状鉄剣」『八雲立つ風土記の丘』No.73	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
27	島根県教育委員会	1998	「門生黒谷III遺跡の調査」『門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡』一般国道9号(安木道路)建設予定地内発掘調査報告書14	建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会
28	竹並遺跡調査会	1979	『竹並遺跡』	竹並遺跡調査会
29	上峰村教育委員会	1983	『船石遺跡』上峰村文化財調査報告書	上峰村教育委員会
30	松尾禎作	1949	「高島古墳」『佐賀縣史跡名勝天然紀年物調査報告』第8輯	佐賀縣教育委員会
31	日田市教育委員会	1988	「姫塚古墳及び周辺」『日田地区遺跡群発掘調査概報』III	日田市教育委員会
32	鳥居龍蔵	1935	『上代の日向延岡』	鳥居人類学研究所
33	日高正晴	1992	「茶臼原の児屋根塚古墳とその出土品」『西都原古墳研究所・年報』第8号	西都市教育委員会
34	新富町教育委員会	1983	「鑑遺跡」『鑑遺跡・藤掛遺跡』新富町文化財調査報告書第2集	新富町教育委員会
35	宮崎県教育委員会	1974	「地下式古墳群」『大萩遺跡(1)』瀬戸ノ口地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	宮崎県教育委員会
36	田中茂	1972	「宮崎郡田野町灰ヶ野地下式横穴」『研究紀要』No.1	宮崎県総合博物館
37	宮崎県	1995	「下川東牧ノ原地下式横穴群」『宮崎県史』資料編 考古2	宮崎県
38	都城市教育委員会	1986	「築池地下式横穴」『菓子野地下式横穴・築池地下式横穴』都城市文化財調査報告書第4集	都城市教育委員会
39	宮崎県	1995	「菓子野地下式横穴群」『宮崎県史』資料編 考古2	宮崎県
40	宮崎県教育委員会	1973	「久見迫遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書』(1)	宮崎県教育委員会
41	宮崎県教育委員会	1973	「馬頭遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書』(1)	宮崎県教育委員会
42	宮崎県	1995	「古墳時代の遺跡解説」『宮崎県史』資料編 考古2	宮崎県
43	大口市教育委員会	1986	『瀬ノ上遺跡・平田遺跡』大口市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	大口市教育委員会
44	中野和浩	1997	「島内地下式横穴群」『発掘された日本列島』新発見考古速報展'97	朝日新聞社
45	高原町教育委員会	1999	『高原町埋蔵文化財発掘調査報告書』	高原町教育委員会

第VI章 関連資料集成

46	菱刈町教育委員会	1986	『前目灰塚遺跡』菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	菱刈町教育委員会
47	鹿児島県教育委員会	1984	『外川江遺跡・横岡古墳』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(30)	鹿児島県教育委員会
48	全榮來	1974	「任實,金城里石槨墓群」『全北遺跡調査報告』第3輯	全羅北道博物館
49	立神次郎	1992	「上ノ原地下式横穴」『鹿児島考古』第26号	鹿児島考古学会
50	八女市教育委員会	1983	『立山山古墳群』福岡県八女市所在立山山古墳群の発掘調査報告 八女市文化財調査報告書第10集	八女市教育委員会
51	宮崎県教育委員会	1981	「上ノ原地下式古墳群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第23集	宮崎県教育委員会
52	弥栄久志	1992	「成川遺跡」『鹿児島考古』第26号	鹿児島考古学会
53	末永雅雄編	1991	『盾塚 鞍塚 珠金塚古墳』	由良大和古代文化研究協会
54	小山市史編さん委員会	1981	「桑57号墳」『小山市史』史料編・原始古代	小山市
55	諏訪市史編纂委員会	1995	「フネ古墳(神宮寺)―蛇行剣を副葬した古墳―」『諏訪市史』	諏訪市
56	楠元哲夫・朴美子編	1986	『宇陀 北原古墳』大宇陀町文化財調査報告書第1集	大宇陀町・橿原考古学研究所

5 静岡県内古墳出土馬具の集成

凡例 本集成は、川江秀孝氏が『静岡県史』〔文献4〕に集成した資料を基礎として、1992年度以降に発掘された資料および遺漏した資料を収集しまとめた。今回の集成においては、馬具が出土した奈良時代から平安時代に比定される遺跡も含めており、備考欄にその旨を記した。

また、馬具の一部と断定できない、金属製鈴、飾金具(帯金具)、鉸具のみを出土した古墳・遺跡も集成している。しかし、最近の発掘調査において袋井市・掛川市・菊川町などで年々増加し続けていることを考慮すると、遺漏している馬具が多数存在すると予想している。

集成の結果 静岡県内において、馬具が出土した遺跡は260遺跡、248古墳(横穴含む)を数える。全国で馬具の集成が完全に行われているわけではないので断言できないが、総数は長野県、福岡県に次ぐ全国第3位の出土数を誇る。

各市町村の出土数は、Tab. 13・14にまとめたとおりであり、石ノ形古墳が所在する遠江地域では127遺跡、駿河・伊豆地域では133遺跡から出土している。県全体では駿河地域の静岡市・藤枝市が29例と最多である。遠江地域では浜松市が27例と最も多い。袋井市域では大門大塚古墳、春岡2号墳をはじめとして12古墳から出土している。

種類別の出土数は表示していないものの、最も多く出土しているのは鉄製環状鏡板付轡である。石ノ形古墳から出土したf字形鏡板付轡、鉄製楕円形鏡板付轡が出土した古墳およびf字形鏡板付轡とセット関係になる剣菱形杏葉・鈴杏葉が出土した古墳を挙げると、石ノ形古墳以外では、f字形鏡板付轡は磐田市甕塚古墳、袋井市大門大塚古墳、森町崇信寺10号墳、藤枝市翁山6号墳、韮山町多田大塚C4号墳の計5基から出土している。

鉄製楕円形鏡板付轡は磐田市甕塚古墳、袋井市愛野向山B12号墳・井守塚5号墳(地藏ヶ谷1号墳)・雲座D1号墳・上石野3号墳・高尾向山3号墳、静岡市上ノ山遺跡の計7遺跡から出土している。この鉄製楕円形鏡板付轡は、遠江地域では中遠地域しか出土しておらず、中遠でも袋井市域、特に原野谷川中流域に多く、石ノ形古墳を含め6基から出土している。袋井市域外では磐田市甕塚古墳でのみ出土しており、磐田原台地東縁から袋井市域の原野谷川流域に集中的に分布する傾向を窺うことができる(第Ⅸ章考察・白澤論文参照)。

つづいて、石ノ形古墳からは出土していないがf字形鏡板付轡、楕円形鏡板付轡と組合わされる可能性が高い馬具について出土した古墳は、金銅張剣菱形杏葉は、磐田市甕塚古墳・二子山古墳、袋井市大門大塚古墳、藤枝市翁山6号墳・八幡2号墳、静岡市中吉田某墳、沼津市荒久城山古墳から出土している。

鈴杏葉は、磐田市甕塚古墳・二子塚古墳、森町崇信寺10号・睦美(逆井)京塚古墳、静岡市大谷某墳から出土している。

鉄製剣菱形杏葉は、袋井市愛野向山B12号墳・金山4号墳から出土している。

石ノ形古墳から出土したf字形鏡板付轡(以下、前者)、鉄製楕円形鏡板付轡(以下、後者)が出土

した古墳の規模・副葬品等を比較しておく。両馬具がともに出土している中遠をみると、前者を副葬する古墳が後者を所有するなど副葬品に関して質・量ともに非常に豊富であり、中遠地域の盟主墳と考えられている。一方、後者を有するのみの古墳は、墳形等から群集墳中の首長墓と考えられているものの、前者と比較すると副葬品も鉄刀や鉄鏃が副葬されても少なく、貧弱であることは否めない。墳丘規模を比較すると、前者を副葬した古墳が25.0m、後者が14.9mを測り(平均値)、規模も前者を副葬する古墳の方が約10m大型である。したがって、墳丘規模・副葬品の格差に階層性が表徴されていると仮定するならば、前者の方が優位にあったと想定できる。

Tab. 13 遠江地域市町村別馬具出土遺跡数

	前方 後円	方	円	横穴	古墳 (不明)	その他	合計
引佐郡細江町			1				1
浜北市	1		1		2		4
浜松市	3		18		1	5	27
磐田市	2		8		1		11
磐田郡豊田町			1				1
磐田郡豊岡村			6				6
天竜市			1				1
袋井市	1		10	1			12
掛川市			4	12			16
周智郡森町			7	1	1		9
小笠郡菊川町				20			20
小笠郡大東町				2			2
小笠郡浜岡町				1			1
榛原郡榛原町			4	2			6
榛原郡相良町			2	1			3
島田市(大井川以西)			6			1	7
遠江地域	7	0	69	40	5	6	127

Tab. 14 駿河・伊豆地域市町村別馬具出土遺跡数

	前方 後円	方	円	横穴	古墳 (不明)	その他	合計
島田市(大井川以东)			3			1	4
藤枝市			26		2	1	29
志太郡岡部町			2				2
焼津市					1		1
静岡市	1	4	13	4	4	3	29
清水市			4		1		5
庵原郡由比町			2				2
庵原郡富士川町		4	1				5
富士市			17				17
富士宮市			2				2
駿東郡長泉町			6			1	7
沼津市			15		1		16
三島市			1	1			2
田方郡菰山町			4				4
田方郡函南町				4	1		5
田方郡伊豆長岡町			1				1
田方郡戸田村			1				1
伊東市			1				1
駿河・伊豆地域	1	8	99	9	10	6	133

Tab. 15 静岡県内馬具出土地集成表

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
赤砂利古墳	細江町下気賀	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		
伊場遺跡	浜松市東伊場	集落			馬具ほか	木製鞍橋・木製壺鑑	歴史時代	90
宇藤坂A 4号墳	浜松市有玉西町	円	17.0	横穴式石室 (片袖型)	玉類(滑石丸玉)・武器(鉄刀・鉄刀装具・鉄鍬4+)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(甕・短頸壺・高坏)・土師器(甕・碗)	金銅張辻金具2・金銅張雲珠・金銅張吊金具・飾金具2・鉸具		91
蛭子森古墳	浜松市豊町	円	23.6	横穴式石室 (片袖型)	装身具(耳環3)・玉類(勾玉・菴玉3・丸玉14・小玉50)・裝飾付大刀(円頭大刀)・武器(鉄刀4・鉄鍬35+)・両頭金具6)・馬具・生産用具(刀子5)・須恵器(坏身5・坏蓋2・高坏・台付短頸壺・台付掛2・水鳥付壺蓋3・壺蓋2・平瓶3・フラスコ形壺)・その他(釘8+)	環状鏡板付轡・鉄製鞍金具・金銅張二脚紙(鞍用)2・鉄製四銚方形飾金具		2 5 6
瓦屋西B 3号墳	浜松市有玉西町	前方後円	28.1	横穴式木室 (両袖型)	武器(鉄刀・鉄鍬13+)・馬具・生産用具(刀子2・鉄斧・鏃)・須恵器(有蓋高坏・提瓶)	銅製鈴(馬鈴?)		2 7
瓦屋西C 6号墳	浜松市有玉西町	円	9.5	横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀・鉄鍬)・馬具・生産用具(鏃)・須恵器(坏蓋・坏身・高坏)・土師器(甕)	轡(引手)・鞍(刺金)		2 91
瓦屋西C25号墳	浜松市有玉西町	円	7.5	横穴式石室	武器(盛矢具・鉄刀・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)	環状鏡板付轡2・轡(引手)・鞍金具(金銅張鞍2・鉸具4)・辻金具・金銅張飾金具		2 91
蛭塚1号墳	浜松市蛭塚4丁目	円	13.0	横穴式石室 (無袖型)?	装身具(耳環2)・玉類・武器(鉄刀2・鉄鍬5?・両頭金具)・馬具・生産用具(刀子3)・須恵器(坏身・坏蓋2・長頸壺・横瓶・平瓶・壺・高坏)	金銅張花形鏡板付轡・金銅張辻金具5・金銅花形座雲珠・花形杏葉2・金銅張飾金具2・金銅張鈴付飾金具5+		8
地蔵平A 62号墳	浜松市有玉西町字地蔵平	円	11.5	横穴式石室 (無袖型)	玉類(碧玉管玉)・武器(刀装具・鉄鍬7+)・馬具・須恵器(短頸掛・脚付長頸壺・提瓶2・甕)；[築道]須恵器(坏蓋)・土師器(甕)	鉸具・壺鑑吊金具・木芯鉄板張壺鑑		9
地蔵平B 12号墳	浜松市有玉西町字地蔵平	円	11.3	横穴式石室 (無袖型)	装身具(金鍬)・玉類(碧玉勾玉・瑪瑙勾玉・碧玉丸玉・碧玉管玉・琥珀・玉・ガラス小玉6)・武器(鉄鍬)・馬具?・生産用具(刀子3)	轡(引手)?		9
下滝遺跡	浜松市	住居		竪穴住居	馬具・土器	轡	歴史時代	79
城内(浜松城内)	浜松市元城町	不明			馬具	雲珠	浜松城内に所在した古墳?	
城山遺跡	浜松市若林町	官衙			馬具ほか	銅製壺鑑	歴史時代	90
神明平1号墳 (穴下古墳)	浜松市有玉西町	円	13.0	横穴式石室 (片袖型)	装身具(耳環3)・裝飾付大刀(御嚙紋環頭大刀)・武器(鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(高坏・甕・平瓶・台付長頸壺)	轡(引手)・鞍・鉸具		10 96
千人塚平C 14号墳	浜松市有玉西町	円?		横穴式石室	武器(短刀・鉄鍬14+)・馬具・須恵器(坏身5・坏蓋3・高坏・短頸壺・壺・壺蓋・甕・平瓶3)・土師器(甕)	金銅張鈴		11
根本山II-2号墳	浜松市	古墳		横穴式石室	鏡・装身具(耳環)・武器(鉄刀・鉄剣・鉄鍬)・馬具・須恵器(坏蓋2・坏身3)	環状鏡板付轡・金銅張花形座辻金具2・鉸具・金銅張飾金具		12
半田山B 5号墳	浜松市半田町	円	10.0	横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀・鐔)・馬具・須恵器(坏蓋4・壺・平瓶・長頸壺2・台付碗・高坏・高台盤)	飾金具2		2 13
半田山C 19号墳	浜松市半田町	円	12.6	横穴式石室	[周溝内]武器(鐔・鉄製鞘尻金具・胡鎗)・馬具；[前溝]須恵器(坏身3・坏蓋3・甕・無蓋高坏・甕・提瓶・甕)・土師器(甕)	金銅張飾金具		2 14
半田山C 24号墳	浜松市半田町	円	12.7	横穴式石室 (両袖型)	玉類・武器(鉄刀・鉄鍬)・馬具・須恵器	鉄製飾金具?・鞍?		2 14

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
半田山C25号墳	浜松市半田町	円	9.1	横穴式石室	玉類(琥珀素玉2・水晶切子玉2・ガラス丸玉・ガラス小玉)・武器(両頭金具・鉄刀鏢・鉄鍬2)・馬具・生産用具(刀子)	兵庫鎖		2 14
半田山C30号墳	浜松市半田町	円	18.8	横穴式石室 (両袖型)	玉類200点弱・武器(鉄鍬13・両頭金具4・鉄刀貴金具2)・馬具・須恵器(坏蓋・台付碗)・土師器(碗)	金銅張辻金具・鞍・金銅張雲珠・飾金具2		2 15
半田山C38号墳	浜松市半田町	円	13.0	横穴式石室	【主体部外】馬具	環状鏡板付轡・辻金具・雲珠・飾金具		2 16
半田山C39号墳	浜松市半田町	円	18.2	横穴式石室	玉類・武器(鉄刀・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)	金銅張金具・飾金具2		2 16
半田山D10号墳	浜松市半田町	円	8.1	横穴式石室	玉類(碧玉管玉3・水晶切子玉4・琥珀素玉・ガラス丸玉・ガラス小玉)・武器(鉄刀・鉄鍬)・生産用具(刀子)；【前溝】馬具・生産用具(鉄鍬)・須恵器(坏身5・坏蓋4・短頸埴2・壺・提瓶)	鞍		2 14
半田山D23号墳	浜松市半田町	前方 後円	29.0	横穴式石室 (両袖型)？	【前溝】馬具・須恵器(壺2・蓋・高坏・埴・提瓶・甕)；【周溝】馬具・須恵器(坏身・坏蓋・埴・埴・高坏)；【その他】すり鉢	鉄製鞍・金銅張飾鉾(雲珠)		2 14
三方原	浜松市	不明			馬具	馬鈴		
三方原学園内1号墳(瓢箪塚古墳)	浜松市初生町	前方 後円	45.0	木炭棚？	【第1木炭棚】武器(鉄刀2)；【第2木炭棚】武器(鉄刀2・鉄鍬)・馬具；【第3木炭棚】なし	金銅張十字紋透精円形鏡板付轡・辻金具		2 11
吉影D3号墳	浜松市郡田町吉影	円	18.0	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀8・鉄鍬)・馬具・須恵器・土師器・その他(鉄釘)	環状鏡板付轡・金銅張十字紋透精円形鏡板付轡 or 杏葉・金銅張辻金具・三角錐形壺蓋・三葉紋透心葉形杏葉・飾金具		1 2
於呂の古墳	浜北市於呂	古墳		(不明)	馬具	轡・鏡		
勝栗山古墳	浜北市根堅	古墳		(不明)	馬具	環状鏡板付轡・兵庫鎖		
興尊寺後古墳 (六所神社古墳)	浜北市宮口	前方 後円	35.0	横穴式石室 (片袖型)	武器(鉄鍬)・馬具・須恵器	金銅張馬具		1 2
権現平山5号墳	浜北市内野	円		(不明)	装身具(耳環)・武器(鉄刀・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	環状雲珠		
寺山の古墳	天竜市船明	円？		横穴式石室	馬具	轡・鏡		
石仏の坪古墳	森町赤根字南谷田	円		横穴式石室	装身具(金環2・銀鍬4)・玉類(瑪瑙勾玉3・碧玉管玉6・ガラス小玉3)・武器(鉄刀4・鏢)・馬具・石製模造品・須恵器(坏身・坏蓋・短頸壺・附付盃・平瓶・甕・高坏・埴)	馬鈴2・金銅張馬具(詳細不明)		19
院内3号墳 (院内乙古墳)	森町飯田字院内	円	11.5	横穴式石室 (両袖型)	装身具(銀鍬2・金鍬3)・玉類(ガラス玉38)・裝飾付大刀(双龍紋銀頭大刀・頭椎大刀)・馬具・生産用具(金銅装鞍付刀子)・須恵器(坏蓋2・坏身4・鉢・高坏・台付鉢・短頸壺・台付長頸壺・提瓶・平瓶・埴2)	環状鏡板付轡・馬鈴		2 19
院内4号墳 (院内甲古墳)	森町飯田字院内	円？		横穴式石室 (疑似両袖型)	裝飾付大刀(御嶺紋銀頭大刀)・馬具・須恵器(甕・坏蓋・フラスコ形壺・短頸壺)	環状鏡板付轡・鞍金具		2 19
観音寺本堂横穴群の 一横穴	森町飯田字本堂	横穴		横穴	装身具(金環2)・玉類(瑪瑙勾玉5・管玉・ガラス小玉8)・裝飾付大刀(双龍紋銀頭大刀・頭椎大刀)・武器(金銅装鞍付刀子)・馬具・須恵器31(坏蓋3・坏身2・高坏2・台付長頸壺ほか)・土師器2(蓋)	雲珠・心葉形杏葉		1 19

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
菖蒲ヶ谷8号墳	森町草ヶ谷字菖蒲ヶ谷	円		横穴式石室	装身具(銅鑲2)・武器(鉄剣・鉄鏃3)・馬具・須恵器(蓋6・高坏3・広口壺・平瓶)	環状鏡板付轡・鉸具		17 19
崇信寺10号墳	森町飯田字峰山2996・天ノヶ谷2539-1	円	22.0	横穴式石室(片袖型)	玉類(碧玉管玉11・埋木槩玉7・ガラス丸玉7・ガラス小玉180)・武器(鉄刀・鉄剣・短刀・鉄鏃12)・馬具	f字形鏡板付轡・三鈴杏葉2・金銅張辻金具5・鉸具		18 19
睦美京塚古墳(逆井京塚古墳)	森町睦美字逆井	円	20.0	木棺直葬 or 粘土槨	鏡・装身具(鈴釧・銅釧2)・玉類(瑪瑙勾玉5・碧玉管玉44・ガラス丸玉15・ガラス小玉19)・馬具・生産用具(鹿角製刀子)	三鈴杏葉3・馬鐸3		19
文殊堂古墳群(文殊堂山古墳)	森町円田字北垣	円	10.0	(不明)	鏡・装身具(耳環)・玉類(碧玉管玉4・グリーンタフ管玉3・碧玉勾玉・瑪瑙勾玉2)・武器(鉄刀)・馬具・須恵器(提瓶)	金銅張辻金具・金銅張体形雲珠・金銅張鐘形杏葉?・飾金具2		19
円明寺3号墳	森町字円明寺	古墳		横穴式石室(無袖型)	武器(鉄刀3・鉄鏃12)・馬具:[義道部] 須恵器(坏身13・坏蓋12・高坏7・平瓶3・長頸壺2・短頸壺2・脚付長頸壺4・長頸壺蓋2・脚付短頸壺・短頸壺蓋)	環状鏡板付轡		19
押越4号墳	豊岡村上神増	円	8.0	横穴式石室(片袖型)	玉類・武器(鉄刀4・鉄鏃25)・馬具・生産用具(刀子2)・須恵器(平瓶・甕・提瓶・甕2・短頸埴・長頸埴2・坏蓋4・坏身4)・土師器(脚付盤4・小皿)	環状鏡板付轡・兵庫鎖・鉸吊金具		20
押越16号墳	豊岡村上神増	円	15.0	横穴式石室	玉類・武器(鉄鏃2+)・馬具・須恵器(甕)	轡(引手)・金銅張辻金具・飾金具		20
上神曾古墳	豊岡村上神増	円		横穴式石室	馬具	馬具(詳細不明)		
上神増E9号墳	豊岡村台代島	円?		木棺直葬?	武器(鉄刀)・馬具	金銅張鞍金具	擾乱坑より出土。	註2 93
新平山A2号墳	豊岡村大字下野部字新平山	円		横穴式石室	装身具(金鏃)・玉類(勾玉7・ガラス丸玉・ガラス小玉)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・馬具・銅鏡ほか			21
新平山A4号墳	豊岡村大字下野部字新平山	円	20.0	横穴式石室(両袖型)?	[擾乱土中] 鏡・玉類(ガラス丸玉・小玉・霽玉・空玉)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・馬具・須恵器(多数)	轡・鞍金具・壺鑑・雲珠・心葉形杏葉・花形杏葉ほか・鞍		21
(伝)上坂上C古墳(豊田7号墳)	豊田町高見丘	前方後円	25.0	木棺直葬?	(伝)玉類(碧玉管玉)・武器(鉄刀2・鉄鏃)・馬具	辻金具ほか		22 23
磐田67(寺谷坂上2)号墳東主体部	磐田市寺谷	円	17.6	木棺直葬	鏡・玉類(ガラス玉333・白玉81・管玉4)・武器(鉄鏃)・馬具?・生産用具(鑄造鉄斧4・刀子2)	馬鈴?		2 23
磐田67(寺谷坂上2)号墳西主体部	磐田市寺谷	円	17.6	木棺直葬	武器(短刀・鉄鏃2)・馬具?・生産用具(鈍)	鉄製帯金具2?		2 23
馬坂上22号墳	磐田市勾坂上	円	10.0	不明	(伝)武器(鉄刀)・馬具・土器	(伝)馬具(詳細不明)		23
大道西F5(藤上原新A5)号墳	磐田市藤上原	円	25.0	木棺直葬?	馬具	馬鐸・馬鈴		2 23
京見塚10号墳	磐田市高町	円	10.0	横穴式石室(無袖型)	装身具(耳環・銅釧)・武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(長頸壺2・平瓶・高坏2・坏身4+・埴)	金銅張鞍金具・前輪金具・壺鑑吊金具		2・20 23
飯塚古墳(飯塚4号墳)	磐田市岩井	円	26.0	横穴式石室(片袖型)	鏡・装身具(耳環)・玉類(切子玉・管玉・ガラス玉・丸玉)・武器(挂甲・堅別広板革綴胃)・武器(鈴付三輪玉・鉄刀・鉄鏃・鉄鉾・石突)・馬具・須恵器(坏身45・高坏11・埴2・脚付長頸壺2・脚付短頸壺・短頸壺2・壺蓋3・提瓶2・甕3)・土師器(高坏5)	f字形鏡板付轡2種3組・十字紋透槽円形鏡板付轡・鉄製槽円形鏡板付轡・環状鏡板付轡・辻金具・鞍金具・鞍・木芯鉄板張刀子形壺・三鈴杏葉4・劍菱形杏葉3・三葉紋透槽円形杏葉3・飾金具		2 23

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
権現山2号墳	磐田市向笠竹之内	前方 後円	18.0	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀4・鉄鏃42+)・馬具・生産用具(刀子6)・須恵器(坏蓋2・坏身3・壺2・台付長頸壺2・提瓶)	環状鏡板付轡・鞍・金銅張雲珠・ 鈎具・飾金具		2 23
二子塚(ニツ山)古墳	磐田市三ヶ野	前方 後円	55.0	磯棚?	鏡・玉類(碧玉管玉5)・馬具	劍菱形杏葉2・五鈴杏葉5・三環 鈴・馬鐸4		23 94
御厨(御料地)堂山古墳(鎌田御料地堂山古墳)	磐田市鎌田	古墳	34.0	横穴式石室? (組合式箱形石棺)?	鏡・装身具(金環・銀環・銅釧)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具片・須恵器(脚付長頸壺・壺・盤・提瓶・坏身・盤・高坏・蓋)	馬具(詳細不明)		1 2 95
明ヶ島4号墳	磐田市明ヶ島	円?	20.0	横穴式石室 (片袖型)?	武器(鉄刀・鉾付両頭金具)・馬具・須恵器(坏身2・坏蓋3・提瓶・フラスコ形壺・高坏)・その他(六葉形座金具)	環状鏡板付轡・辻金具		2・23 25
米塚3(寺谷9)号墳	磐田市寺谷	円(造 出付)	20.0	(不明)	馬具	環状鏡板付轡		23
愛野向山B12号墳第2主体部	袋井市愛野大字向山	円	12.0	木棺直葬 (箱形木棺)	鏡・武器(鉄刀2・鉄鏃13+)・馬具・生産用具(刀子)	鉄製楕円形鏡板付轡・辻金具・木 芯鉄板張輪籠・鉄製劍菱形杏葉・ 三環鈴		2 26
石ノ形古墳西主体部	袋井市国本字石ノ形	円	27.0	木棺直葬 (箱形木棺)	[棺内] 鏡・武器(横剣板鋌留短甲)・武器(鉄刀・鉄劍・蛇行剣・鉄鏃多数)・馬具; [棺外] 武器(鉄刀3・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子3・純3)・玉(滑石製平玉・ガラス小玉)・須恵器(随・甕)・不明鉄製品(銅子?)	f 字形鏡板付轡・鉄製楕円形鏡板 付轡・鉄製辻金具2・金銅張辻金 具3・鈎具5		本書
井守塚5号墳(地藏ヶ谷1号墳第2主体部)	袋井市愛野地藏ヶ谷	前方 後円	12.5	粘土竈 or 木棺直葬	武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)	鉄製楕円形鏡板付轡・金銅張辻金 具		27 31
雲座D1号墳	袋井市豊沢雲座	円	13.0	磯棚	武器(鉄鏃5)・馬具・生産用具(刀子2)	鉄製楕円形鏡板付轡・鉄製辻金具 3		2・ 26 27・28
金山4号墳	袋井市愛野・豊沢	円	9.0	木棺直葬	武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)	環状鏡板付轡・鉄製劍菱形杏葉		29
上石野3号墳	袋井市愛野	円	9.0	木棺直葬	武器(鉄刀・鉄鏃9)・馬具・須恵器(高坏)・土師器片	鉄製楕円形鏡板付轡		30
大門大塚古墳	袋井市高尾字大門	円	26.0	横穴式石室 (無袖型)	鏡2・装身具(銀鏃2)・玉類(鎮製空玉8・純鈴玉8・管玉13・ガラス玉106)・武器(鉄刀・鉄劍2・鉄鏃3)・馬具・生産用具(刀子・紡錘車)・須恵器(坏蓋9・坏身11・高坏・平瓶・有蓋脚付短頸壺・器台)・土師器(坏蓋2・坏身2)	金銅張楕円形鏡板付轡・f 字形鏡 板付轡・辻金具5・鈎金具・金銅 張劍菱形杏葉5・鈎具		1 2 31
高尾向山3号墳	袋井市高尾	円	10.0	木棺直葬	玉類(滑石丸玉5・滑石小玉3)・武器(鉄刀・鉄鏃27)・馬具・生産用具(刀子2)・その他(鍔2)	鉄製楕円形鏡板付轡・金銅張板状 辻金具2・金銅張脚付鉄製環状雲 珠・鈎具2・有機質杏葉?		33
団子塚6号墳第1主体部	袋井市高尾	円	12.3	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須恵器(坏身・坏蓋・提瓶・台付長頸壺・高坏)	鈎具		34
団子塚9号墳	袋井市高尾	円	17.0	木棺直葬	装身具(金製三角飾板・銀鏃2)・玉類・武器(挂甲)・裝飾付大刀(銀装振鏃頭大刀)・武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)	環状鏡板付轡・辻金具4・鈎具		34
八幡山3号横穴	袋井市堀越・八幡ヶ谷	横穴		横穴 (疑似両袖型 or 両袖型)	装身具(銀鏃)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身・高坏・台付盤・平瓶)・土師器(手捏埴)・その他(鉄釘)	環状鏡板付轡	現存する遺物と、 先掲当初の遺物 の種類が若干異 なる。	35 92

石ノ形古墳

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
春岡2号墳	袋井市春岡	円	17.0	横穴式石室	裝飾付大刀(鳳凰紋鏝頭大刀)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	金銅張楕円形鏡板付轡・辻金具2・鞍金具・壹鏡・雲珠・杏葉		36
赤瀬1号墳	掛川市家代字赤瀬	円	11.0	木棺直葬 (鞘竹形木棺)	玉類(ガラス小玉4)・馬具・生産用具(鉄斧)	環状鏡板付轡2		37
字洞ヶ谷横穴	掛川市下俣字洞ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	[棺内] 鏡・装身具(金鏃)・玉類(鍬製空玉4・ガラス丸玉4・蜻蛉玉)・裝飾付大刀(単鳳紋鏝頭大刀・円頭大刀)；[棺外] 武器239点(鉄刀・鉄鏃・鉄鏃)・馬具・須恵器46点(坏身・坏蓋・有蓋高坏・無蓋高坏・台付長頸壺・長頸壺蓋・器台・甕)・土師器(坏・高坏・台付長頸壺)	環状鏡板付轡・金銅張十字紋透心葉形鏡板付轡・金銅張辻金具・鞍金具組・木心鉄板張三角錐形壺・雲珠・金銅張心葉形透杏葉・金銅張馬鈴6	2	
岡津B6号横穴	掛川市大字岡津	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(金鏃)・裝飾付大刀(圭頭大刀)・馬具・生産用具(刀子6)・須恵器(坏身3・坏蓋・高坏3・平瓶2・長頸埴・広口埴)・土師器	馬鈴・銅製飾金具		2 38
山麓山横穴	掛川市下俣	横穴		横穴 (両袖型)	武器(鉄鏃13)・馬具・生産用具(鹿角装刀子)・須恵器(坏身・高坏蓋2・高坏6・長頸壺・壺蓋・短頸壺・広口壺・甕)・土師器(甕)	環状鏡板付轡・環状辻金具・鉄地金銅張鞍轡・壹鏡・雲珠・三葉紋透楕円形杏葉3・変形楕円形杏葉3	2	
茶屋辻A5号横穴	掛川市杉谷1丁目	横穴		横穴 (両袖型)	武器(鉄鏃)・馬具・須恵器(特殊扁壺ほか)・土師器	馬具		39
茶屋辻B1号横穴	掛川市杉谷1丁目	横穴		横穴 (複室両袖型)	装身具(耳環・玉類)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器・土師器	馬具		39
長福寺境内1号墳	掛川市本郷	円		横穴式石室	馬具・須恵器ほか	轡		
原7号横穴	掛川市上屋敷	横穴		横穴 (両袖型)	馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏3・広口壺・提瓶・長頸壺・平瓶・甕)	環状鏡板付轡？		註1
堀ノ内13号墳	掛川市下俣～長谷	円 (楕円)	25.0	横穴式木室 (両袖型)	鏡・玉類(ガラス勾玉2・銀製空玉10・琥珀玉9・ガラス玉184)・武器(短刀・鉄鏃50)・馬具・須恵器(高坏2・甕・蓋坏・短頸壺・脚付甕・脚付長頸壺・壺)・土師器	辻金具・黒漆塗鞍・鞍・雲珠・双龍紋透心葉形杏葉2・飾金具		40 41 42
堀ノ内D1号横穴	掛川市下俣～長谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環)・裝飾付大刀(銀象嵌鍔・鞘金具)・馬具・須恵器(高坏)	二条引手十字紋透楕円形鏡板付轡・鏡・金銅張心葉形杏葉		註1 40
堀ノ内E1号横穴	掛川市下俣～長谷	横穴		横穴 (造付石棺)	武器(鉄刀・鉄鏃)・玉類・馬具・須恵器(坏蓋4・坏身4・短頸壺・広口壺・甕)・土師器(坏2・壺)	轡・飾金具		註1 40
本村A4号横穴	掛川市須家字屋敷 腰805-1・2	横穴		横穴 (両袖型)	身具(耳環8)・玉類・武器(鉄鏃)・馬具・須恵器(坏25・高坏・提瓶3)・土師器(高坏2・坏)	雲珠		2 38
本村E3号横穴	掛川市高御所	横穴		横穴 (両袖型)	馬具・須恵器(坏身5・平瓶・甕)	雲珠・杏葉・飾金具		註1
南坪14-B号横穴	掛川市高御所	横穴		横穴 (両袖型)	武器(鉄鏃・両頭金具)・馬具	鍔金具・鈎具		註1
六ノ坪3号墳	掛川市秋葉路	円	15.0	木棺直葬	玉類(管玉)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具	環状鏡板付轡		42
大谷横穴群	掛川市	横穴			馬具(轡)	環状鏡板付轡		註2
岩清水ヶ谷3号横穴	大東町	横穴		横穴	玉類(瑪瑙勾玉2・水晶切子玉2・水晶丸玉・碧玉管玉12・霰玉・滑石白玉2・ガラス大玉16・ガラス小玉76+)・馬具・須恵器(坏蓋6・坏身6・有蓋高坏蓋6・有蓋高坏5・短頸壺2・甕・提瓶)	環状鏡板付轡・環状金具		43
玉体1号横穴	大東町中芳	横穴		横穴	馬具	環状鏡板付轡・兵庫鎮		

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
宇藤A1号横穴	菊川町東横地	横穴		横穴 (両袖型)	玉類(碧玉管玉6)・武器(鉄刀6・鉄鏃13・両頭金具)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身14・坏身11・蓋・高坏2・短頸埴・甕・平瓶3・広口短頸壺2・甕)・土師器(坏身3・高坏6)	轡(引手)・兵庫鎖2・飾金具・鉸 具2		44
大淵ヶ谷OB-1号横穴	菊川町西方・大淵ヶ谷	横穴		横穴 (疑似両袖型)	武器(鉄刀・鉄鏃6)・馬具・須恵器(坏蓋4・坏身4・提瓶・長頸壺・甕)・土師器(甕)	環状鏡板付轡		2 45
大淵ヶ谷OB-6号横穴	菊川町西方・大淵ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環6)・玉類・武器(鉄刀2・鉄鏃11・両頭金具)・馬具・生産用具(刀子3)	鉸具付環状鏡板付轡		2 45
大淵ヶ谷OC-5号横穴	菊川町西方・大淵ヶ谷	横穴		横穴 (疑似両袖型)	武器(鉄刀1+・鉄鏃)・馬具・その他(鉄釘)	環状鏡板付轡		2 45
大淵ヶ谷OC-13号横穴	菊川町西方・大淵ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環2)・玉類・武器(鉄刀4+・鉄鏃4)・馬具・生産用具(刀子2)・須恵器(坏身12・坏蓋9・高坏4・短頸壺・甕2・広口壺・長頸壺・平瓶)・土師器(脚付皿4)	環状鏡板付轡		2 45
大淵ヶ谷OC-16号横穴	菊川町西方・大淵ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環)・裝飾付大刀(単鳳式銀頭大刀)・武器(鉄鏃5+)・馬具・須恵器(台付長頸壺・坏身)	轡(環状鏡板付轡?)・鉸金具2・ 鉸具		2 45
篠ヶ谷SA-3号横穴	菊川町篠ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(銅釧・耳環3)・玉類・武器(鉄刀鐔・両頭金具)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(長頸壺・平瓶2・壺口縁)	鞍・吊金具		45
篠ヶ谷SA-6号横穴	菊川町篠ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)?	装身具(耳環5)・玉類・武器(鉄刀2[1振金銅製鐔]・鉄鏃)・馬具?・須恵器(長頸壺)・その他(鍬3+)	環状鏡板付轡?		45
篠ヶ谷SA-8号横穴	菊川町篠ヶ谷	横穴		横穴 (片袖型)	装身具(耳環3)・玉類・裝飾付大刀(銀装大刀)・武器(鉄鏃4+)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏蓋18・坏身14・甕・高坏・碗・平瓶・直口壺・広口壺・壺)	環状鏡板付轡2+		45
篠ヶ谷SA-9号横穴	菊川町篠ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環4)・玉類・武器(鉄鏃10+)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身・坏蓋)・その他(鉄鏃)	轡・飾金具ほか		45
篠ヶ谷SB-5号横穴	菊川町篠ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	武器(短刀2・鉄鏃)・馬具?・須恵器(坏身4)	変形環状鏡板付轡?		45
下本所1号横穴	菊川町下本所	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環4)・玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・その他(不明鉄器3)	環状鏡板付轡		2・46
下本所5号横穴	菊川町下本所	横穴		横穴 (両袖型)	[1号棺]装身具(耳環)・玉類・須恵器;[2号棺]玉類・武器(鉄鏃);[横穴内]装身具(耳環)・玉類・武器(鉄鏃16+)・馬具	引手(環状鏡板付轡?)・十字形辻 金具・飾金具		2 46
下本所10号横穴	菊川町下本所	横穴		横穴 (両袖型)	玉類・武器(鉄刀3・鉄鏃11)・馬具・須恵器(坏身15・坏蓋11・蓋付埴・蓋・埴3・甕2・高坏・提瓶)・土師器(広口壺・碗)	板状立間付環状鏡板付轡・飾金 具・鉸具		2 46
杉森10号横穴	菊川町中内田杉森	横穴		横穴	武器(鉄刀鐔・足金具・両頭金具3)・馬具・生産用具(刀子)	鉸具・鞍2		47
杉森11号横穴	菊川町中内田杉森	横穴		横穴	装身具(耳環2)・馬具	轡(引手)・鉸具		47
杉森横穴群	菊川町中内田杉森	横穴		横穴	装身具(耳環2)・馬具・その他(環状鉄製品)	鞍2ほか		47
西宮浦1号横穴	菊川町西宮浦	横穴		横穴 (両袖型)	武器(鉄刀・鉄鏃8+)・馬具・須恵器(坏蓋4・坏身6・高坏・提瓶2)	鉸具付環状鏡板付轡・轡・飾金具		45
藤谷横穴群	菊川町東横地	横穴		横穴	装身具(耳環4)・玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子9)・須恵器(坏身・坏蓋・高坏)	雲珠・杏葉2		註3
平尾横穴群	菊川町	横穴		横穴	馬具	環状鏡板付轡		47

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
薩田ヶ谷1号横穴	浜岡町宮内	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳環)・玉類(ガラス丸玉34・ガラス小玉32)・馬具・武器(鉄刀・鉄鏃)・生産用具(刀子・砥石)・須恵器(坏・埴)	鞍金具・兵庫鎖		2 38
小堤山1号横穴	相良町波津・小堤	横穴		横穴 (両袖型)	玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏蓋・坏身・高坏・長頸壺・甕・提瓶)・土師器(坏身・台付埴)	轡		2 38
柳田1号墳	相良町大江字柳田 1757-6	円		横穴式石室	玉類(管玉)・武器(鉄刀)・馬具・須恵器	轡		48
柳田2号墳	相良町大江字柳田 1757-6	円		(未調査)	玉類(管玉)・武器(鉄刀)・馬具・須恵器	馬具？(詳細不明)	柳田1号墳のま ちがい？	48
大ヶ谷I-1号横穴 (大ヶ谷2-2号横 穴)	榛原町勝間	横穴		横穴	装身具(耳環4)・玉類(環玉・勾玉2・管玉)・裝飾付大刀(三稜環頭 大刀)・武器(鉄鏃・鉄鏃29)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身 7・高坏4・蓋2・埴・埴・壺2)	十字紋透精円形鏡板付轡・辻金 具・鞍金具・兵庫鎖・十字紋透精 円形杏葉		2 49
大ヶ谷I-2号横穴 (大ヶ谷2-3号横 穴)	榛原町勝間	横穴		横穴	装身具(耳環2)・玉類(管玉4・小玉)・武器(鉄刀)・馬具・生産用 具(刀子6)・須恵器(坏身23・高坏3・埴2・甕2・提瓶)	馬具		49
背戸山古墳 (背戸山1号墳)	榛原町勝間背戸山	円		横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環8)・玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具？・須恵器(坏身・ 坏蓋・提瓶・フラスコ形壺・広口壺・甕)	馬具？(詳細不明)		50
鍋坂3号墳	榛原町静波	円		横穴式石室	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀・鉄鏃多数)・馬具・須恵器(坏身2・ 坏蓋3・高坏5・フラスコ形壺・甕)	棘葉形杏葉・飾金具8		50
仁田山ノ崎古墳	榛原町仁田	円		横穴式石室 (片袖型 or 両袖型)	装身具(耳環4)・玉類・武器(鉄刀)・裝飾付大刀(双龍紋環頭大刀1 + 1?)・馬具・生産用具(刀子2)・須恵器(坏蓋2・坏身・甕)・その 他(釘2)	唐草紋透心葉形鏡板付轡・十字紋 透精円形鏡板付轡・辻金具・磯金 具・雲珠・小型鐘形杏葉・棘葉形 杏葉・飾金具5		50
竜眼山2号	埴原町細江竜眼	円		横穴式石室	馬具・須恵器	轡		
居倉遺跡	島田市野田	官衙			馬具ほか	木製鞍橋・木製半舌状轡	歴史時代	90
大津古墳群駒形1号 墳	島田市倉前	円	10.0	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	環状鏡板付轡		51
高根森2号墳	島田市色尾	円	18.0	横穴式石室	鏡・装身具(金鐺5・銀鐺2)・玉類・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器 (鉄刀)・馬具・須恵器(坏身3・坏蓋・平瓶2・脚付埴・提瓶2)	金銅張磯金具・鞍・鉄製宝珠付雲 珠・十字紋透心葉形杏葉・馬鐙2・ 馬鈴5		2 52
高根森8号墳	島田市坂本	円		横穴式石室 (片袖型)	裝飾付大刀(単龍紋環頭大刀・圭頭大刀)・馬具・武器(鉄鏃)・生産 用具(刀子)・装身具(耳環7)・玉類・須恵器(横瓶・脚付埴・甕・長 頸壺・平瓶・短頸壺・高坏2・坏身15・坏蓋13・脚付埴・埴・甕)	棒状鏡板付轡・環状鏡板付轡・鉄 地金銅張磯金具・鞍具・鉄製無脚 鉢形雲珠		2
東昌(品・照)寺古墳	島田市阿知ヶ谷	円		横穴式石室 (片袖型)	馬具	環状鏡板付轡・鞍金具		
波田1号墳	島田市阿知ヶ谷	円		横穴式石室	装身具(耳環)・武器(鉄刀)・馬具・須恵器ほか	環状鏡板付轡・鞍金具		
御小屋原古墳	島田市吹木	円	10.0	横穴式石室 (無袖型)	馬具・須恵器(坏蓋・甕)	唐草紋透心葉形鏡板付轡・唐草紋 透心葉形杏葉2・雲珠		2
谷口原10号墳	島田市坂本谷口原	円	13.0	横穴式石室 (疑似両袖型)	[第1グループ] 装身具(耳環2)・武器(挂甲)・武器(鉄刀・鉄鏃)・ 馬具・須恵器(長頸壺・高坏7)；[第2グループ] 装身具(耳環2)・ 裝飾付大刀(方頭大刀・柄頭)・武器(鉄鏃)・須恵器(高坏)；[第3グ ループ] 義通] 馬具片・須恵器(短頸壺・横瓶・坏)	環状鏡板付轡・鞍・鞍金具・鏡・ 飾金具・鞍具		2 52
谷口原18号墳	島田市谷口	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		2

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
谷口森下古墳	島田市谷口	円	9.0	横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀5・鉄鏃3)・馬具・生産用具(刀子・鉄斧)・須恵器(埴 提瓶・高坏・坏身蓋4)・土師器(高坏・埴)	環状鏡板付轡・鍔金具		
湯日	島田市湯日	不明			馬具	辻金具		
岩田山20号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		
翁山6号墳	藤枝市原字翁山	円		竪穴式石室	馬具	f 字形鏡板付轡・変形剣菱形杏葉		
瀬戸1号墳	藤枝市瀬戸	円	13.0	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・武器(鉄刀5・鉄鏃23・短刀・鉄針2・石突2)・馬 具・生産用具(刀子4)・須恵器(坏身35・坏蓋31・高坏4・台付碗3・ 壺7・蓋蓋1・フラスコ形壺2・平瓶7・提瓶・甗4・甗)・土師器 (坏3・高坏)	金銅張雲珠(花形座雲珠)?・飾金 具・鍔具	54	
瀬戸2号墳	藤枝市瀬戸	円	9.0	横穴式石室 (両袖型)	武器(鉄刀3)・馬具・須恵器(坏蓋4・坏身6・高坏・碗・直口壺・ 大甗・横瓶)	轡(弓 手?)・鞍		54
瀬戸3号墳	藤枝市瀬戸	円	10.0	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀10・鉄鏃6)・馬具・生産用具(刀子 5)・須恵器(坏蓋26・坏身30・無蓋高坏3・有蓋高坏4・脚付碗・ 壺2・短頸壺・フラスコ形壺2・平瓶3・甗3)・土師器(坏)	轡(弓 手 or 銜)・鞍・鍔具2・蓋鍔 吊金具3	54	
瀬戸7号墳	藤枝市瀬戸	円	10.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄鏃)・馬具・須恵器(坏蓋・台付皿2)・ その他(目釘状金具)	鉄製飾金具		54
瀬戸B1号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		
瀬戸B20号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡・花形杏葉		
瀬戸C6号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		
瀬戸E9号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	裝飾付大刀(双龍紋鍔頭大刀・円頭大刀)・武器(鉄刀)・馬具・須恵 器	環状鏡板付轡・辻金具・鍔金具・ 兵車鎖・雲珠・杏葉・馬鈴		
瀬戸I1号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	装身具(耳環・銅釧)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄刀)・馬具・ 玉類・裝飾付須恵器	環状鏡板付轡・鍔金具・雲珠・杏 葉・馬鈴		53
瀬戸I2号墳	藤枝市瀬戸	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		53
釣瓶落2号墳	藤枝市若王子字釣 瓶落	円	9.0	竪穴式石室	玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須恵器・土師器	環状鏡板付轡		55
釣瓶落7号墳	藤枝市若王子字釣 瓶落	円	14.0	横穴式石室 (無袖型)	玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	環状鏡板付轡・辻金具		2 55
若王子29号墳	藤枝市若王子・上 ノ平	円	14.0	横穴式石室	装身具(耳環)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須恵器・[石棺内] 装身具 (耳環)・武器(鉄刀)・馬具	環状鏡板付轡		2 55
原古墳群越ヶ谷B2 号墳	藤枝市越ヶ谷	円	6.5	横穴式石室 (疑似両袖型)	[第1面:石棺] 馬具・須恵器(坏蓋・坏身・高坏・台付短頸壺・甗・ 平瓶)	環状鏡板付轡・鍔具・金銅張飾金 具		56
原古墳群越ヶ谷B11 号墳	藤枝市越ヶ谷	古墳	6.5	横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏蓋21・坏身17・碗5・ 高坏5・短頸壺蓋5・長頸壺5・長頸壺・長頸壺蓋・平瓶・蓋付横 瓶)	鏡?		56
原古墳群白砂ヶ谷C 1号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	13.0	横穴式石室 (疑似両袖型)	武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏蓋・坏身・平瓶・フ ラスコ形壺・甗・蓋付長頸壺・蓋付短頸壺)・土師器(甗・高坏)	金銅張鍔形辻金具・飾金具		57

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
原古墳群白砂ヶ谷C 2号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	13.0	横穴式石室 (両袖型)	武器(鉄刀・短刀・鉄鏃)・裝飾付大刀(方頭大刀)・馬具・須恵器(坏 身・坏蓋・高坏・甕・フラスコ形蓋・平瓶・長頸蓋・蓋付長頸蓋)	環状鏡板付轡・鉄製輪蓋・鉸具(轡 用)		57
原古墳群白砂ヶ谷D 2号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	12.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器 (坏身・坏蓋・高坏・甕・長頸蓋)・土師器(坏)・その他(釘)	金銅張方形鏡板付轡		57
原古墳群白砂ヶ谷D 10号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	5.5	横穴式石室 (無袖型)	玉類・馬具・武器(鉄刀・鉄鏃5)・須恵器(坏身11・坏蓋10・高坏2・ 平瓶2・甕3・長頸蓋11・蓋蓋8・脚付蓋)	鏡(兵庫鎖)		57
原古墳群谷稻葉高草 5号墳	藤枝市	円	10.8	横穴式石室 (両袖型)	武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須恵器(坏蓋9・坏身8・フラスコ形蓋・ 平瓶)・土師器(坏)	環状鏡板付轡・鞍2・鉄製鍔金具・ 鉸具(轡用)		2 58
西宮1号墳	藤枝市志太	円		木棺直葬	馬具	棒状鏡板付轡		
南新屋古墳群南新屋 H3号墳	藤枝市南新屋	円		横穴式石室	裝飾付大刀(頭椎大刀拵)・馬具	環状鏡板付轡・鉄製鍔		
南新屋古墳群萩ヶ谷 A3号墳	藤枝市南新屋	円	11.5	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環6)・玉類・馬具・生産用具(鏢・刀子2)・須恵器(坏蓋 2・坏身3・高坏・甕・蓋付短頸蓋・短頸蓋・壺2)	環状鏡板付轡		59
女池ヶ谷2号墳	藤枝市下藪田字女 池ヶ谷	円		横穴式石室	玉類(勾玉・棗玉・管玉・丸玉)・裝飾付大刀(銀製円頭大刀)・武器 (鉄鏃)・馬具・須恵器(坏蓋16・坏身8・高坏・長頸蓋6・短頸蓋・ 短頸蓋4・平瓶2・脚付盤2・甕2)・土師器(坏3・盤4・脚付 盤4・盤6)	鍔(兵庫鎖)		60
女池ヶ谷9号墳	藤枝市下藪田字女 池ヶ谷	古墳		横穴式石室	馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏蓋9・坏身4・短頸蓋20・短頸 蓋19・台付長頸蓋・平瓶8・脚付盤)・その他(鉄釘)	環状鏡板付轡		60
八幡2号墳	藤枝市八幡	古墳		横穴式石室 (無袖型)	玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器・土師器	環状鏡板付轡2・金銅張辻金具 8・金銅張鞍・木芯鉄板張三角帷 形蓋鍔・金銅張鉢形雲珠・変形剣 菱形杏葉5・馬鈴・馬鈴5		
御子ヶ谷遺跡	藤枝市南新屋	官衙			馬具ほか	木製鍔蓋	歴史時代	90
向沢1号墳	岡部町桂沢字向沢	円		横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄鏃)・馬具・須恵器・土師器・その他(鉄釘)	環状鏡板付轡(ハート形環)		
横添古墳群板沢9号 墳	岡部町横添	円	12.1	横穴式石室 (両袖型)	装身具(耳環2)・玉類・武器(鉄鏃11)・馬具・生産用具(刀子)・須 恵器(平瓶・壺)・土師器(坏4)	環状鏡板付轡・鉸具		2 61
坂本の古墳	焼津市坂本	古墳		不明	鍔・装身具(金鏃)・玉類(勾玉3・管玉6・小玉・白玉)・裝飾付大 刀(頭椎大刀拵)・馬具・土師器(拵)・その他(金具)	鉄製辻金具2・金銅張雲珠		1
池田山2号墳	静岡市	円		横穴式石室	装身具(耳環2)・玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須恵 器(拵2・坏身・横瓶)	三葉紋透心葉形鏡板付轡・辻金具 8・鞍金具(鞍)2・雲珠・三葉紋 透心葉形杏葉2・飾金具6		2 62 63
伊庄谷北谷A2号横 穴	静岡市伊庄谷	横穴		横穴	馬具ほか	馬具? (環状鏡板付轡の破片?)		64

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
伊庄谷南谷6号横穴	静岡市伊庄谷	横穴		横穴 (両袖型)	[A木棺内] 装身具(耳鐙2)・玉類・武器(鉄刀3)・馬具；[B木棺内] 装身具(耳鐙2)・玉類・武器(鉄刀2)；[横穴内] 須恵器(提瓶2・長頸壺2・器台?・高坏4・蓋付高坏1・坏蓋3・坏身3)・土師器(高坏3・碗3・坏4・盃)	環状鏡板付轡・鉢形雲珠・飾金具		2 65
伊庄谷南谷8号横穴	静岡市伊庄谷	横穴		横穴 (両袖型)	装身具(耳鐙4)・玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・その他(不明鉄器3)	轡(引手)		66
伊庄谷南谷23号横穴	静岡市伊庄谷	横穴		横穴	馬具ほか	環状鏡板付轡		66
上ノ山遺跡3号土壇	静岡市大谷	古墳		木棺直葬?	馬具	鉄製楕円形鏡板付轡・辻金具・鞍具		67
大谷某墳	静岡市大谷	古墳		(不明)	馬具	鈴杏葉・馬鐙		1
金山1号墳(谷田1支群11号墳)	静岡市谷田	円		横穴式石室	馬具	轡		62
川合遺跡川合地区	静岡市川合			Ⅳ層	馬具	轡(引手)	歴史時代?	98
上中林古墳	静岡市谷田	円		横穴式石室	馬具	馬具(詳細不明)		62
楠ヶ沢3号墳	静岡市	方	17.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳鐙)・玉類・馬具・須恵器(坏蓋10・坏身10・高坏4・台付長頸壺7・蓋付短頸壺3・平瓶2・甕3・盃・冑・甕4)・土師器(冑)・その他(釘7)	金銅張飾金具		68
佐渡山2号墳	静岡市	方	28.0	横穴式石室	鏡・装身具(耳鐙)・馬具・武器(大刀・鉄鏃)・生産用具(刀子)・須恵器(小長頸壺付子持器台・坏身・高坏・甕)	轡(引手)・鍔金具・飾金具		69
静岡大学構内3号墳	静岡市大谷片山	古墳		横穴式石室	装身具(耳鐙)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器・土師器	馬具(詳細不明)		62
賤機山古墳 (賤機山3号墳)	静岡市宮ヶ崎町浅間神社	円	32.0	横穴式石室 (両袖型) (冑形石棺)	[冑形石棺内] 装身具(金銅製冠帽・步揺付飾金具)・玉類(金銅製空玉)・裝飾付大刀(唐草紋透鞘金具)；[玄室内] 鏡・装身具(耳鐙)・玉類(勾玉・ガラス玉)・武器(挂甲)・武器(鉄刀・鉄鏃・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身・坏蓋・高坏・甕・横瓶・平瓶・提瓶)・土師器(坏・壺)；[装道部]装身具(金環)・玉類(ガラス玉)・武器(挂甲)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・銅碗(碗・盃・脚)・須恵器(坏身・坏蓋・高坏・甕・提瓶)	環状鏡板付轡・環状鏡板付轡・花形鏡板付轡・環状鏡板付轡・金銅張唐草紋透心葉形鏡板付轡・金銅張辻金具・鞍7・木芯鉄板張三角鍔形鍔蓋3・雲珠・棘葉形杏葉4・花形杏葉2・飾金具15・馬鈴15ほか		2 70 71 72
下中林古墳	静岡市谷田	円	10.0	横穴式石室	鏡・装身具(金環)・玉類・武器(鉄鏃・鉄剣)・馬具	轡		62
高松某墳	静岡市高松	古墳		(不明)	馬具	馬鐙		1
田ヶ谷古墳 (タガヤ古墳)	静岡市慈悲尾田ヶ谷	円		横穴式石室	装身具(耳鐙)・武器(鉄鏃)・馬具・土師器	環状鏡板付轡・兵庫鎖		
桃源寺丸山古墳	静岡市	円?		(不明)	武器(甲冑)・武器(鉄刀)・馬具?	馬鈴?		
徳願寺山1号墳	静岡市向屋敷	前方後円	30.0	埴輪棺	装身具(耳鐙)・馬具・須恵器	馬具?(詳細不明)		48
中吉田某墳	静岡市中吉田	円		横穴式石室	馬具	剣菱形杏葉		
平兵衛奥古墳	静岡市幸庵新田半兵衛奥	古墳		横穴式石室	裝飾付大刀(方頭大刀)・武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	f字形棒状鏡板付轡・金属製刀子形鍔蓋・飾金具12・鞍具		

石ノ形古墳

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
堀ノ内山4号墳	静岡市小堀ノ内山	円	12.0	横穴式石室(両袖型)	装身具(耳環11)・玉類・武器(鉄鏃4)・馬具・須惠器(小型短頸壺2・平瓶・長頸壺・甕)	鞍2		2 73
堀ノ内山6号墳(小 鹿山神古墳)	静岡市小堀ノ内山	円		横穴式石室(組合式箱形石棺5)	玉類・武器(鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)・須惠器	轡・変形唐草紋透心葉形杏葉		2 62 73
牧ヶ谷2号墳	静岡市牧ヶ谷	円		横穴式石室(無袖型)	[1号棺] 装身具(耳環2)・武器(鉄鏃)・生産用具(刀子2)・須惠器(甕)・土師器(碗)・[棺外] 馬具・須惠器(壺・坏身2)・[2号棺] 装身具(耳環2)・武器(鉄刀・鉄鏃)・生産用具(刀子)・[棺外] 武器(鉄刀)・[3号棺]・[棺外] 裝飾付大刀(金銅装鉄刀)・[2-3間] 須惠器	鑑金具・飾金具・鞍金具		2 74
牧ヶ谷某墳	静岡市牧ヶ谷	円		横穴式石室	馬具	轡		
宮川1号墳 (駿河丸山古墳)	静岡市大谷宮川	方	18.0	横穴式石室(両袖型)	[組合式冢形石棺内] 装身具(耳環5)・玉類・生産用具(刀子)・須惠器(坏身3・坏蓋)・その他(朱)・[冢形石棺内] 生産用具(刀子2)・[石室内] 装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀4・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須惠器(坏身・坏蓋・壺・高坏・甕・横瓶・平瓶・提瓶)	鞍・鑑金具		2 62
宮川7号墳 (アサオサン古墳)	静岡市宮川	方		横穴式石室	武器(鉄刀・装身具・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須惠器	飾金具		2
神明原元宮川遺跡	静岡市大谷ほか				馬具ほか	木製半舌鑑	歴史時代	90
南沼上3号墳	静岡市川台仙台	円	16.0	木棺直葬	武器(短甲?破片)・武器(鉄刀1・蛇行剣・鉄鏃2+)・馬具	三環鈴2		100
神明(山)4号墳	清水市袖師	円		横穴式石室(両袖型)	装身具(耳環9)・玉類(勾玉・ガラス丸玉・ガラス蜻蛉玉・ガラス小玉)・武器(挂甲小札)・裝飾付大刀(双龍紋銀頭大刀・圭頭大刀・方頭大刀)・武器(鉄刀5・鉄鏃20+)・馬具・須惠器(提瓶3・横瓶3・瓶3)	轡(弓手)・金銅張鉢形辻金具・鞍金具(鞍)・金銅張鉢形雲珠・飾金具・大型馬鈴		2
東護古墳	清水市草薙	円		横穴式石室	鏡・装身具(耳環5)・玉類・武器(甲冑)・武器(槍・鉄刀)・馬具・須惠器(高坏・提瓶・瓶・甕)	轡・辻金具		
殿沢古墳	清水市	円		横穴式石室	装身具(耳環)・玉類・武器(甲冑)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須惠器	馬具(詳細不明)		
中山1号墳	清水市梅ヶ谷中山	円		横穴式石室	装身具(鈴釧)・玉類(碧玉勾玉・水晶勾玉・瑪瑙勾玉6・瑪瑙切子玉・水晶切子玉3・ガラス管玉・碧玉管玉・ガラス小玉3)・裝飾付大刀(鐵頭大刀)・馬具・銅鏡・須惠器(高坏・坏身2・坏蓋)	馬具(雲珠?)		1
東久佐奈岐3号墳	清水市山切	古墳		横穴式石室(無袖型)	装身具(銅釧)・耳環4)・玉類・裝飾付大刀(銀象嵌鐙付大刀3)・武器(鉄鏃31)・馬具・生産用具(刀子12)・須惠器(坏蓋2・坏身・高坏6・盆・平瓶・壺)	環状鏡板付轡・鞍金具(鞍2)・壺鑑金具・飾金具9		2 75
室ヶ谷1号墳 (本光寺古墳)	由比町由比・室ヶ谷	円		横穴式石室	装身具(銅釧2)・耳環5)・玉類(勾玉12・切子玉3・管玉・褰玉・ガラス丸玉20・ガラス小玉14)・裝飾付大刀(単龍紋銀頭大刀・頭椎大刀)・武器(鉄鏃・鉄刀・両頭金具)・馬具・生産用具(刀子)	十字紋透精円形鏡板付轡・辻金具・鞍金具(鞍)・兵庫鎖・雲珠・飾金具・鈴		2 76
室ヶ谷3号墳	由比町由比・室ヶ谷	円	16.0	横穴式石室(疑似両袖型)	装身具(耳環4)・玉類(切子玉・褰玉・管玉・丸玉)・裝飾付大刀(圭頭大刀)・武器(鉄鏃・金銅装花形飾付両頭金具)・馬具・生産用具(刀子)・土器(高坏)	環状鏡板付轡・金銅鈴・鞍		2 76

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
室野坂A 1-1号墳	富士川町	方?		横穴式石室 (無袖型)	馬具?・須恵器	轡(引手)?		77
室野坂A 3-1号墳	富士川町	方?		横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀・鞘金具・鉄鏃)・馬具?	轡(引手)?		77
室野坂B 3-1号墳	富士川町	方?		横穴式石室 (無袖型)	馬具?	轡(引手)?		77
室野坂B 4号墳	富士川町	方		横穴式石室 (無袖型)	武器(鉄刀・責金具・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	轡(引手)?		77
谷津原7号墳	富士川町岩淵・木島	円		横穴式石室	装身具(耳環)・玉類(勾玉・白玉・ガラス小玉)・武器(石突・鉄鏃)・馬具	鞍		101
一色D 31号墳	富士市今泉神田ヶ沢2875-26ほか	円		横穴式石室	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀・鐔・柄頭・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(埴・長頸壺・横瓶・平瓶・臙)	轡・鉸具		78
鶴無ヶ淵・間門E 5号墳(間門大塚古墳)	富士市鶴無ヶ淵	円	15.0	横穴式石室 (無袖型)	馬具	轡		78
鴻ノ巣古墳	富士市比奈	円		横穴式石室	馬具	轡		78
須津(神谷)J 30号墳(神谷大塚古墳)	富士市中里(飛び地)	円		横穴式石室	装身具(金環・銀鏃)・玉類(勾玉・管玉・切子玉・小玉・琥珀玉)・武器(甲冑)・武器(鉄刀・金銅製鐔)・馬具・須恵器(高坏・臙・提瓶) ; (伝)馬具・須恵器(埴)	辻金具・雲珠・杏葉		78
伝法A 1号墳(伊勢塚古墳)	富士市伝法中村3103-1ほか	円	54.0	(未調査)	武器(鉄刀)・馬具?・須恵器(埴)	金銅張鏡板付轡		2 78
伝法A 3号墳(九郎林塚古墳)	富士市伝法中村3132	円		横穴式石室	武器(鉄刀)・馬具・須恵器(埴)	金銅張鏡板付轡		78
中里K 76号墳(中里先陣塚古墳)	富士市中里三枚畑愛鷹1751-4ほか	円		横穴式石室?	(伝)武器(鉄刀)・馬具・須恵器(長頸埴・坏・横瓶・提瓶) など	馬具(詳細不明)		78
中里K 78号墳(アガリツト古墳)	富士市中里大塚道東2162	円		横穴式石室?	(伝)鏃・武器(鉄刀3)・馬具・須恵器(埴・臙)	轡・鉸具		78
中里K 95号墳(中里大久保古墳)	富士市中里字大久保1658-1	円	12.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環6)・玉類(切子玉・丸玉19・小玉7)・裝飾付大刀(方頭大刀)・武器(刀装具9・鉄鏃44)・馬具・須恵器(平瓶・臙・提瓶)・土師器(坏)	環状鏡板付轡・壺鑑2+・鉸具2		2 78
中里K 98号墳	富士市中里大塚道東2150ほか	円		横穴式石室	装身具(耳環)・武器(鉄刀2・刀装具・鉄鏃16)・馬具・生産用具(刀子2)・須恵器(提瓶)	環状鏡板付轡・辻金具・飾金具・鉸具		78
中里K 99号墳	富士市中里道東2149	円		横穴式石室	装身具(耳環4)・玉類(切子玉4・丸玉14・小玉4)・武器(鉄刀6・刀装具6・鉄鏃21)・馬具・生産用具(刀子3)・須恵器(坏身4・坏蓋4・横瓶・提瓶2)・土師器(高坏4・坏2)	環状鏡板付轡・鉸具・飾金具		78
中原4号墳	富士市伝法寺中原	円	11.0	横穴式石室 (無袖型)	玉類・裝飾付大刀(銀象嵌剣・銀象嵌大刀)・武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(鏃・鉄斧・刀子・鑿・鋤先・鉄鉋)・須恵器(坏身・坏蓋・横瓶・提瓶・臙・短頸壺・把手付碗)・土師器(坏身)	環状鏡板付轡・兵庫鎖付環状鏡板付轡・鑑(兵庫鎖)・鉸具		79
東平1号墳	富士市伝法・東平	円	12.0	横穴式石室 (高袖型)	裝飾付大刀(円頭大刀・銀象嵌鐔)・武器(鉄刀2・丁字形利器・鉄鏃多数)・馬具	金銅張環状鏡板付轡・金銅張方形鏡板付轡・金銅張壺鑑2・飾金具・鉸具		2 4 10
比奈G 40号墳(かぐや姫古墳)	富士市比奈蘇夜姫	円 (楕円)	15.0	横穴式石室 (無袖型)	玉類・武器(鉄鏃20)・馬具・生産用具(刀子5・紡錘車)・須恵器(坏身)・土師器	環状鏡板付轡・木芯金屬張三角锥形壺鑑・飾金具4		2 10

通跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
船津Ⅰ62号墳	富士市船津春山沢東661	円		横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環2)・玉類(碧玉・管玉2・ガラス丸玉27)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)	環状鏡板付轡・辻金具3・飾金具7・鉸具		78 80
船津Ⅰ129号墳 (上の段古墳)	富士市船津上ノ段650ほか	円		横穴式石室	武器(金銅装肩庇付胃)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・馬具	杏葉		78
横沢古墳	富士市大洲	円	16.0	横穴式石室 (無袖型)	[築造時] 武器(鉄鏃)・馬具・須惠器(高坏・隠・提瓶)；[2次床面] 武器(鉄刀・鉄鏃)・須惠器(坏蓋・坏身)	環状鏡板付轡・雲珠(金銅張花形飾鉸2)・金銅張鈴5		2 78
神祖3号墳	富士宮市小泉	円		横穴式石室	馬具	馬具(詳細不明)		
別所1号墳	富士宮市安居山字別所	円		横穴式石室	玉類・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄刀3・鉄鏃)・馬具	三葉紋透心葉形鏡板付轡・辻金具・雲珠4・三葉紋透心葉形杏葉3・花形杏葉2・飾金具		2
荒久城山古墳	沼津市石川	円		(不明)	馬具	十字紋透精円形鏡板付轡・辻金具・剣菱形杏葉3		2
石川Ⅰ119号墳	沼津市石川	円		横穴式石室	馬具	馬鈴		2
石川Ⅰ4号墳	沼津市石川	円		横穴式石室	馬具	鞍金具		2
石川Ⅰ5号墳1号棺	沼津市石川	円		横穴式石室 (組合式箱形石棺)	装身具(耳環)・玉類(ガラス玉・碧玉)・裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須惠器	環状鏡板付轡・環状鏡板付轡		2
井出二子塚古墳 (二ツ塚)	沼津市井出	円		横穴式石室?	裝飾付大刀(単鳳紋鏃頭大刀)・馬具・須惠器	馬具(詳細不明)		
原新田某墳	沼津市原	円		横穴式石室	馬具	轡		
東原1号墳	沼津市東原	円	15.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環6)・玉類・武器(鉄鏃21・鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)	環状鏡板付轡・鞍・雲珠・飾金具・鉸具		81
東原2号墳	沼津市東原	円	13.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環・銅釧2)・武器(鉄鏃9)・馬具・須惠器(壺)	環状鏡板付轡・環状鏡板付轡		81
東本郷3号墳	沼津市上香貫東本郷	円		横穴式石室 (無袖型) (組合式箱形石棺)	装身具(耳環8)・玉類(勾玉・丸玉7)・裝飾付大刀(単鳳紋鏃頭大刀)・武器(鉄刀7・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子2)・須惠器・土師器	轡・鞍金具		
平沢1号墳	沼津市平沢	円		横穴式石室	馬具	馬鐸		
平沢2号墳	沼津市平沢	円		(不明)	馬具	馬鐸		
平沢3号墳	沼津市平沢	古墳		(不明)	馬具	轡		
宮原1号墳	沼津市上香貫	円		横穴式石室	武器(丁字形利器)・馬具・須惠器(提瓶2・長頸壺・平瓶2・高坏・隠2・蓋坏2)	環状鏡板付轡・鉄製壺蓋		
宮原2号墳	沼津市上香貫	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		
室下古墳 (中石田古墳)	沼津市中石田	円		横穴式石室	馬具・銅鏡(蓋付銅鏡・銅鏡・水瓶・台付銅鏡)	心葉形杏葉		
八重古墳	沼津市下香貫	円		横穴式石室	馬具	心葉形杏葉		
藍壺古墳	長泉町下土狩	円		横穴式石室	馬具	馬具(詳細不明)		
上ノ段古墳(上ノ段 2号墳・長泉8号墳)	長泉町本宿上ノ段	円		横穴式石室 (組合式石棺2)	装身具(耳環)・玉類(切子玉・勾玉・碧玉・丸玉・管玉)・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・須惠器・土師器	轡・飾金具・壺蓋		82

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土馬具	備考	文献
大平遺跡	長泉町南一色	不明		Ⅳ層	馬具	環状鏡板付轡 2	古墳時代？	99
上出口 1 号墳	長泉町下土狩	円		横穴式石室	馬具	環状鏡板付轡		82
下土狩西 1 号墳	長泉町下土狩	円	20.0	横穴式石室 (無袖型) (冢形石棺)	[冢形石棺内] 装身具(金釧 3・銀釧)・玉類・裝飾付大刀(銀装大刀・頭椎大刀柄部)；[下層] 武器(鉄鏃・短刀 2)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(フラスコ形壺 2・壺 2・高坏・碗)・土師器(坏・碗)；[中層] 裝飾付大刀(頭椎大刀)・武器(鉄鏃)・須恵器(台付碗・高坏・平瓶 2)	環状鏡板付轡・環状鏡板付轡・木芯金属張杓子形壺釦・銚金具		2 82
御蔵上 3 号墳	長泉町下土狩	円		横穴式石室	装身具(金釧・銀釧)・玉類(金銅装勾玉)・馬具・生産用具(刀子)・銅碗・その他(金銅製裝飾具)・土器(瓶 3・提瓶・甕 2・坏 2・坏蓋 4)ほか	方形鏡板付轡		82
麦原塚古墳	長泉町下土狩	円		横穴式石室	武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・土師器	馬具(詳細不明)		1 82
徳倉寺門横穴	三島市徳倉	横穴		横穴	馬具	馬具(詳細不明)		2
夏梅木 6 号墳	三島市谷田字源平	円	15.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(金釧 4)・武器(鉄刀 4・鉄鏃 14)・馬具・生産用具(刀子 4)・須恵器(提瓶 2・高坏)	馬具		83
柏谷 D15 号横穴	函南町柏谷	横穴		横穴	武器(鉄鏃)・馬具・須恵器(長頸壺)	環状鏡板付轡・銚金具・銚具・鉄製杏葉？		2 84
柏谷 D22 号横穴	函南町柏谷	横穴		横穴	馬具	環状鏡板付轡・轡(引手)・鎧(兵庫鎧)		2 84
柏谷 D24 号横穴	函南町柏谷	横穴		横穴	武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)	銚金具		2 84
藤明古墳	函南町上沢字藤明	古墳		(不明)	馬具	鉄製杓子形壺釦 2		
八重窪 2 号横穴	函南町大竹	横穴		横穴	馬具	環状鏡板付轡・兵庫鎧		
芋ヶ窪 2 号墳(多田大塚 A 2 号墳)	韭山町多田	円		横穴式石室 (両袖型)	装身具(銅釧)・玉類・武器(鉄鏃・鉄刀)・馬具・須恵器(平瓶・提瓶・坏)	花形杏葉 2・辻金具・鞍		2 85
芋ヶ窪 3 号墳(多田大塚 A 3 号墳)	韭山町多田・妹ヶ窪	円		横穴式石室	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀)・馬具・須恵器(平瓶・提瓶)	環状鏡板付轡・銚具		2 81
大塚 4 号墳(多田大塚 C 4 号墳)	韭山町多田・妹ヶ窪	円	24.0	竪穴式石室 (割竹形木棺)	[棺内] 鏡・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)；[棺外] 武器(短甲)・須恵器(壺・器台・高坏)	f 字形鏡板付轡・辻金具		2 85・86
大塚 6 号墳 (伊勢平古墳)	韭山町多田・妹ヶ窪	円(造出付)	20.0	(不明)	馬具	馬鐙		86
駒形 1 号墳	伊豆長岡町	円	25.0	横穴式石室？	装身具(耳環)・裝飾付大刀(円頭大刀)・武器(廠手刀・鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	馬具(詳細不明)		2 87
松江 7 号墳	戸田村井田	円	12.0	横穴式石室？	装身具(耳環 18)・武器(鉄鏃・鉄刀)・馬具・生産用具(刀子 3)・須恵器	環状鏡板付轡		2 88・89
塚畑古墳	伊東市新井	円	18.0	横穴式石室 (無袖型)	装身具(耳環)・玉類・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	金銅張鈴		

石ノ形古墳

【文献一覧】

1	静岡縣編	1930	『静岡縣史』1 (1972年復刻)	名著出版
2	静岡県編	1992	「古墳時代の重要遺跡の解説」『静岡県史』資料編2 考古2	静岡県
3	川江秀孝	1986	「出土の馬具について」(文献50所収)	榛原町教育委員会
4	川江秀孝	1992	「馬具」『静岡県史』資料編3 考古3	静岡県
5	鈴木謹一・向坂鋼二	1964	『蛭子森古墳』市立郷土博物館叢書4	浜松市教育委員会
6	浜松市教育委員会編	1995	『浜松市指定文化財—古墳— 石室を見学できる古墳』	浜松市教育委員会
7	浜松市博物館編	1991	『静岡県浜松市瓦屋西古墳群』	浜松市教育委員会
8	浜松市博物館編	1985	『蜷塚遺跡Ⅴ・Ⅵ』	浜松市教育委員会
9	浜松市博物館編	1992	『有玉西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』下巻 地蔵平A・B古墳群・瓦屋西Ⅱ・地蔵平遺跡	浜松市文化協会
10	川江秀孝	1994	「潰された飾大刀について—飾大刀を副葬する静岡県の後期古墳—」 『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』	向坂鋼二先生還暦記念 論集刊行会
11	浜松市博物館編	1998	『千人塚古墳, 千人塚平・宇藤坂古墳群』	浜松市教育委員会
12	浜松市博物館編	1988	『根本山古墳群Ⅱ』	浜松市文化協会
13	浜松市郷土博物館編	1971	『浜松市半田山古墳群(B群)調査記録』	浜松市博物館友の会
14	浜松市博物館編	1988	『半田山古墳群(Ⅳ中支群)—浜松医科大学内』	浜松市教育委員会
15	浜松市教育委員会編	1984	『半田山遺跡発掘調査報告書』	浜松市教育委員会
16	浜松市博物館編	1987	『浜松市半田山遺跡(Ⅴ)発掘調査報告書』	浜松市教育委員会
17	森町教育委員会編	1992	『葛蒲ヶ谷古墳群(8号墳)発掘調査報告書』	森町教育委員会
18	森町教育委員会編	1996	『静岡県森町飯田の遺跡—葛城ゴルフ倶楽部地内遺跡群調査報告書—』	森町教育委員会
19	森町史編さん委員会編	1998	『森町史』資料編1 考古	森町
20	豊岡村教育委員会編	1983	「押越古墳群」『押越・社山古墳群調査報告書』	豊岡村教育委員会
21	柴田稔	1993	「考古編」『豊岡村史』資料編Ⅲ 考古・民俗	豊岡村
22	渡瀬治・竹内直文ほか	1998	「原始編」『豊田町誌』資料編Ⅳ	豊田町
23	中嶋郁夫	1992	「古墳時代」『磐田市史』資料編1 考古・古代・中世	磐田市
24	小林ゆり・山崎克己ほか	1979	「京見塚遺跡群発掘調査概報」『静岡県考古学研究』5号	静岡県考古学会
25	柴田稔	1983	「横穴式木芯粘土土室の基礎的考察—磐田市内発見の横穴式木芯粘土 室—」『考古学雑誌』第68巻第4号	日本考古學會
26	松井一明	1994	「遠江・駿河における初期群集墳の成立と展開について」『向坂鋼二先 生還暦記念論集 地域と考古学』	向坂鋼二先生還暦記念 論集刊行会
27	松井一明	1996	「原野谷川中流域における初期群集墳の終末と後期群集墳(横穴群)の 成立について」(文献29所収)	袋井市教育委員会
28	袋井市教育委員会編	1972	『袋井市雲座古墳群D単位群発掘調査概報』	袋井市教育委員会
29	袋井市教育委員会編	1996	『金山古墳群・金山横穴群Ⅰ・Ⅱ—袋井の群集墳と横穴群を考える(1)—』	袋井市教育委員会
30	静岡県埋蔵文化財調査 研究所編	1998	『小笠山総合運動公園内遺跡群 平成6・7・8年度小笠山総合運動公 園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 居村古墳群・居村遺跡・若 作古墳群(F地区)・上石野古墳群』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査 報告第95集	静岡県埋蔵文化財調査 研究所
31	平野和男・山村宏ほか	1965	「地蔵ヶ谷古墳及び横穴」『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書』	静岡県教育委員会
32	袋井市教育委員会編	1987	『大門大塚古墳—昭和61年度基礎資料収集調査報告書』	袋井市教育委員会
33	袋井市教育委員会編	1996	『高尾向山遺跡Ⅱ』	袋井市教育委員会
34	袋井市教育委員会編	1992	『団子塚遺跡—遺構編—』	袋井市教育委員会
35	袋井市教育委員会編	1997	『八幡山横穴群—袋井の群集墳と横穴群を考える(2)—』袋井市考古資 料集第3集	袋井市教育委員会
36	袋井市教育委員会編	1998	『見えてきた昔の春岡 はるおか遺跡群』	袋井市教育委員会
37	掛川市教育委員会編	1992	『赤淵遺跡・中川原古墳発掘調査報告書』	掛川市教育委員会
38	静岡県教育委員会編	1983	『遠江の横穴群』	静岡県教育委員会
39	井村広巳	1998	「壁にやじりが刺さっていた横穴—茶屋辻横穴群—」『静岡の原像をさ ぐる 発掘調査報告会』	静岡県埋蔵文化財調査 研究所
40	前田庄一	1992	「素賀国造一族の墓所? 発見—堀ノ内古墳群—」『静岡の原像をさ ぐる! —平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告会—』	静岡県埋蔵文化財調査 研究所
41	川江秀孝	1993	「浜松・静岡地域の古墳」『新版古代の日本』7 中部	角川書店
42	掛川市史編さん委員会 編	1997	『掛川市史』上巻	掛川市
43	大東町教育委員会編	1988	『岩滑清水ヶ谷横穴群・岩滑松ヶ谷横穴発掘調査報告書』	大東町教育委員会
44	菊川町教育委員会編	1997	『宇藤遺跡群 宇藤古墳群・宇藤横穴群・宇藤遺跡』共立菊川総合病院 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	菊川町教育委員会
45	明星大学考古学研究会 編	1983	『大淵ヶ谷 篠ヶ谷 西宮浦 —静岡県菊川流域の横穴墓群調査報告』	菊川町教育委員会
46	内藤晃・藤田等	1968	「小笠郡菊川町下本所横穴古墳群発掘調査概報」『東名高速道路(静岡 県内工事)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』	日本道路公団
47	菊川町教育委員会編	1989	『杉森横穴群D群発掘調査報告書 写真図版編』	菊川町教育委員会
48	静岡県教育委員会編	1979	『静岡県遺跡地名表』	静岡県教育委員会
49	榛原町教育委員会編	1992	『大ヶ谷横穴群詳細分布調査報告書』	榛原町教育委員会

50	榛原町教育委員会編	1985	『静岡県榛原町仁田山ノ崎古墳―出土品保存処理報告―』	榛原町教育委員会
51	望月董弘	1978	『第三節 古墳文化と国々』『島田市史』上巻	島田市役所
52	山村宏	1965	『谷口原古墳群』『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』	静岡県教育委員会
53	望月董弘	1980	『第三節 古墳時代』『藤枝市史』上巻	藤枝市
54	西駿考古学研究会編	1968	『静岡県藤枝市瀬戸古墳群第1次調査瀬戸地区その1』西駿考古学研究会調査報告第1集	西駿考古学研究会
55	藤枝市教育委員会	1983	『若王子・釣瓶落古墳群』	藤枝市教育委員会
56	藤枝市教育委員会	1977	『藤枝市原古墳群越ヶ谷支群B地区発掘調査報告書』藤枝市文化財調査報告1	藤枝市教育委員会
57	藤枝市埋蔵文化財調査事務所編	1980	『原古墳群白砂ヶ谷支群』国道1号藤枝バイパス(藤枝地区)埋蔵文化財発掘調査報告書第3冊	建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・藤枝市教育委員会
58	藤枝市埋蔵文化財調査事務所編	1981	『原古墳群谷稲葉支群高草地区』国道1号藤枝バイパス(藤枝地区)埋蔵文化財発掘調査報告書第5冊	建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・藤枝市教育委員会
59	藤枝市埋蔵文化財調査事務所編	1980	『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―古墳時代編―南新屋古墳群秋合支群・萩ヶ谷支群』	藤枝市土地開発公社・藤枝市教育委員会
60	藤枝市郷土博物館編	1990	『女池ヶ谷古墳群―藤枝市下敷田女池ヶ谷地先の宅地造成に伴う発掘調査報告書―』	藤枝市教育委員会
61	岡部町教育委員会	1982	『静岡県志太郡岡部町横添古墳群板沢支群発掘調査報告書』	岡部町教育委員会・東海大学工業高等学校考古学研究所・静岡鉄道静岡市役所
62	静岡市役所	1981	『静岡市史』原始・古代・中世	静岡英和女学院
63	望月董弘編	1968	『駿河池田山古墳』	登呂博物館
64	登呂博物館	1990	『特別展 静岡・清水平野の古墳時代―新出土品にみるまつりとくらし―』	静岡考古館
65	静岡市教育委員会編	1963	『駿河伊庄谷横穴墳』静岡考古館研究報告2	静岡市教育委員会
66	静岡市教育委員会編	1984	『駿河伊庄谷横穴群―南谷支群第4次発掘調査―』	上ノ山遺跡発掘調査団・静岡市教育委員会
67	上ノ山遺跡発掘調査団編	1974	『上ノ山遺跡発掘調査(第1次)概報Ⅰ(遺構編)』	静岡市教育委員会
68	静岡市教育委員会編	1986	『駿河楠ヶ沢古墳群―楠ヶ沢2・3・7号墳発掘調査報告書』	建設省中部地方建設局・西宮神社・静岡市教育委員会
69	静岡市教育委員会編	1984	『佐渡山2号墳発掘調査報告書』	静岡県教育委員会
70	後藤守一・斉藤忠	1953	『静岡賤機山古墳』	さきたま資料館
71	さきたま資料館	1997	『古墳時代の馬の装い―さきたまに馬がやってきた―』	静岡市教育委員会
72	静岡市教育委員会編	1997	『史跡賤機山古墳保存整備完成記念 甦る賤機山古墳』	静岡市教育委員会
73	静岡市教育委員会編	1967	『駿河堀ノ内山古墳群』	静岡市教育委員会
74	静岡市教育委員会編	1983	『駿河牧ヶ谷古墳』	清水市教育委員会・清水市郷土研究会
75	清水市教育委員会編	1984	『東久佐奈岐古墳群(3・4・6号墳)・宮平Ⅰ遺跡発掘調査報告書』	由比町教育委員会
76	由比町教育委員会編	1986	『室ヶ谷遺跡群(室ヶ谷遺跡・室ヶ谷3号墳)発掘調査報告書』	富士川町教育委員会
77	富士川町教育委員会編	1994	『室野坂古墳群』	富士市教育委員会
78	富士市教育委員会編	1988	『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』	富士市教育委員会
79	富士市教育委員会編	1994	『中原第3号墳・第4号墳発掘調査概要報告書』	富士市教育委員会
80	富士市教育委員会編	1991	『船津L62号墳発掘調査概報』	加藤学園沼津考古学研究所・中部開発
81	小野真一編	1972	『駿河東原古墳―静岡県における古墳時代装身具の研究―』	長泉町教育委員会
82	長泉郷土誌編集委員会編	1965	『古代社会 第1節古墳文化』『長泉郷土誌』	三島市教育委員会
83	三島市教育委員会編	1991	『静岡県三島市夏梅木遺跡群 三島市夏梅木地区宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』	静岡県教育委員会・函南育委員会
84	静岡県教育委員会編	1975	『伊豆柏谷百穴』	三島市教育委員会
85	斎藤弘	1995	『第三編 古代 第一章』『韭山町史』10巻	三島市教育委員会
86	原茂光	1990	『伊豆国首長墓の発見―大塚古墳群―』『静岡の原像をさぐる―平成2年度埋蔵文化財発掘調査報告会―』	静岡県埋蔵文化財調査研究所
87	三木文雄	1948	『伊豆長岡駒形古墳発掘の記』『考古学雑誌』第35巻第3号	考古學會
88	戸田村教育委員会編	1994	『静岡県田方郡戸田村井田松江古墳群』戸田村文化財調査報告書第1集	戸田村教育委員会
89	戸田村教育委員会編	1997	『井田松江古墳群―平成7・8年度調査整備事業の概要―』戸田村文化財調査報告書第2集	戸田村教育委員会
90	辰巳均・佐野五十三	1992	『歴史時代の遺跡の概観』『静岡県史』資料編3 考古3	静岡県
91	浜松市博物館編	1998	『宇藤坂古墳群』	浜松市文化協会
92	袋井商業高校社会部古代歴史班	1966	『袋井市八幡山横穴略報告』『曙』3号	袋井商業高校社会部
93	静岡県埋蔵文化財調査研究所編	1998	『研究所報』No. 77	静岡県埋蔵文化財調査研究所

石ノ形古墳

94	木村弘之	1998	「二子塚古墳出土飾馬形埴輪について」『遠江埋蔵文化財研究会1998年10月例会資料』	遠江埋蔵文化財研究会
95	竹内直文	1998	「御厨堂山古墳調査のあらまし」『遠江埋蔵文化財研究会1998年9月例会資料』	遠江埋蔵文化財研究会
96	川江秀孝	1997	「神明平1号墳発掘調査報告」『浜松氏博物館報』IX	浜松市博物館
97	浜松市博物館	1998	「奈良時代の馬具 下滝遺跡」『浜松市博物館情報』第79号	浜松市博物館
98	静岡県埋蔵文化財調査研究所	1990・92	『川合遺跡 昭和63年度静岡バイパス(川合地区)埋蔵文化財発掘調査報告書(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第21集 『川合遺跡 平成3年度静岡バイパス(川合地区)埋蔵文化財発掘調査報告書(遺物編2)』石製品・金属製品 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第22集	静岡県埋蔵文化財調査研究所
99	静岡県埋蔵文化財調査研究所	1998	『大平遺跡 平成7・8年度東駿河湾環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第98集	静岡県埋蔵文化財調査研究所
100	天石夏美	1995	「南沼上古墳群」『ふちゅへる』No.3 平成5年度静岡市文化財年報	静岡市教育委員会
101	井鍋誉之	1998	「今、甦る 縄文の祈り―富士川SA関連遺跡―」『静岡の原像をさぐる 発掘調査報告会』	静岡県埋蔵文化財調査研究所

【註】

- 1 掛川市教育委員会のご教示による。
- 2 静岡県埋蔵文化財調査研究所が98年度現在発掘調査中。
- 3 菊川町教育委員会のご教示による。

第Ⅶ章 自然科学的分析

1 石ノ形古墳出土金属遺物の修復について

東京国立文化財研究所 青木繁夫・犬竹 和

1 はじめに

石ノ形古墳から出土した金属製品の保存修復処置については、袋井市教育委員会の依頼により、発掘調査時の応急処理から発掘調査後の修復処置までを一貫して実施した。基本的な遺物整理調査が終了したあとに遺物が引き渡され、平成6年から7年にかけて東および西主体部から発見された銅鏡、鈴釧、短甲、轡、蛇行剣、直刀などの修復処置を行った。修復処置を行った遺物は約30数点におよび、特に蛇行剣などについては修復時に剣身の一部から金属部分を採取し、分析(第Ⅶ章赤沼報告参照)を行っている。

修復報告を書くにあたっては、本来ならば修復を行った遺物の考古学的特徴などを正確に記載しなければならないが、本書の遺物報告の部分と重複するため、ここでは第Ⅴ章にゆずることにし、修復処置方法の報告だけに留めることにする。

2 古墳における保存処理について

この古墳では、発掘調査前から短甲の一部が発見されていた。その破片を調べたところ著しく錆が進行して脆弱になっていた。この状態で調査を行えば短甲が崩れるなど、その取り扱いに問題がでることが予想された。また発掘前の事前調査でこの古墳が粘土を用いた主体部を有することが判明していた。通常、粘土を用いた主体部から発見される鉄製遺物は、かなり錆が進行して非常に脆弱化している状態にあることが多く、そのため調査時における遺物の取り扱いには充分注意する必要があることが以前から指摘されている。このようなことから発掘中より応急的保存処理をおこなうことになった。

(1) 短甲以外の脆弱遺物の取り上げ

脆弱化が進んで調査中に崩れてしまう可能性があった轡や鉤などについては、パラロイド B-72の5%キシレン溶液を浸透させ強化してから、実測図作成などを行った。調査後、取り上げに困難をきたす遺物には、ガーゼをパラロイド B-72の10%キシレン溶液で貼ってから取り上げた。

(2) 短甲の取り上げ

短甲は、破片が移動しないようにパラロイド B-72の5%キシレン溶液を浸透させながら周辺の土を取り除いた(Fig.67)。出土状態を記録した後にパラロイド B-72の10%キシレン溶液でガーゼを貼り(Fig.68)、その樹脂が乾燥したのち脱脂綿で包み、その上からウレタンキャストイングテープ(Fig.69)を全体に巻き付けて取り上げ可能にした。短甲下部と土の間にパレットナイフを入れて縁を切り取り上げた(Fig.70)。その後、短甲が破損しないように内部に残っている土を丁寧に取りだした。

3 遺物の修復処置について

まず最初に、それぞれの遺物の考古学的特徴や腐食状態を知るためにX線透視撮影を行った。これらの調査をもとに直刀(64・457・71・70) および蛇行剣(Fig.74)については、腐食していない金属部分から分析試料を採取して化学組成分析(第Ⅶ章赤沼報告参照)を行った。試料は分析終了後返却してもらい採取した位置に戻して修復を行った。

(1) 銅製品

銅製品は、画像鏡、珠文鏡、鈴釧(Fig.71)などが発見されているが、いずれも腐食が著しく粉状や痘痕状になった白緑色した部分が多く認められ、今までの経験からして、いわゆるブロンズ病が存在するものと見られた。これらの錆の一部を採取してX線回折分析を行ったところアタカマイト(塩基性塩化銅)の存在が確認された。

◎クリーニング

文様などを明瞭にすることを目的として、銅製品に付着している泥や粉状に浮いている錆を蒸留水をしみこませた綿棒でぬぐい取って除去した。画像鏡の鏡面に錆着している布の痕跡については表面の泥を軽く拭っただけの処置に止どめた。

◎錆の安定化処理

脱塩処理にあたって画像鏡に付着している赤色顔料や布への影響を防ぐために、それらにパラロイド B-72の5%キシレン溶液をしみこませ強化してから、錆の中に含まれている塩化物を除去するために脱塩処理を行った。脱塩処理は80℃前後に加熱した純水を2時間毎に交換することによって行い、その水を交換するたびに、その水に溶出した塩素量をイオンクロマト分析によって測定した。27回の洗浄を行い塩素が検出されないことを確認して脱塩処理を完了した。

脱塩処理後、ベンゾトリアゾール3%アルコール溶液の中に銅製品を10日間浸漬して銅の安定化処理を行った。

◎強化処理

ベンゾトリアゾールを溶かしたアクリル樹脂溶液(インクラック)に遺物を浸漬して、減圧タ

ンクの中で樹脂を減圧含浸して遺物の強化と表面コーティング処理を行った。

(2) 鉄製品

◎クリーニング

形状を明瞭にさせることを目的に、表面の泥は噴射圧力 $60\text{kg}/\text{cm}^2$ に調整したエアブラッシュノズルからカーボランダム粉末を吹きつけて取り除き、錆瘤などはニッパなどの工具を使用して機械的に除去した。

短甲(Fig.72・73)については、カッターでウレタンキャストイングテープを切断して取り除き、破片の位置を記録しながらパラロイド B-72で貼ったガーゼをアセトンで溶かして取り除いた。その後に各破片をエアブラッシュを使用してクリーニングした。

◎錆の安定化处理

遺物をプラズマ処理装置(Fig.77)の中に入れ、水素、窒素、アルゴンプラズマによる処理を2時間行った後に銅製品と同じ方法で脱塩処理装置に遺物を入れ、処理を行った。

脱塩処理が終了した遺物を乾燥させ、チタネートシラン2%キシレン溶液に浸漬し、水酸化鉄の水酸基と反応させた。

◎強化処理

遺物を減圧タンクに入れ、 $30\text{mm}/\text{Hg}$ まで減圧にしてアクリル樹脂エマルジョン(プライマル MV-1)を浸透させた。含浸後タンク内を常圧に戻したあと遺物を樹脂溶液から取り出し、表面の過剰な樹脂をガーゼでふき取ってから乾燥させた。

◎接合および補修

折損していた部分で接合面積が小さいものについてはエポキシ樹脂(ハイスーパーセメダイン)あるいはシアノアクリレート樹脂(アロンアルファ)で接着した。接着面積が比較的大きく接合面は合う場合には繊維素系接着剤(セメンダインC)を使用して接着した。欠失部分は面積や加重の掛かりかたによってエポキシ樹脂にガラス繊維を混ぜたFRPで補修し、小さな部分についてエポキシ樹脂にフェノール樹脂マイクロバルーンを混入して粘土状の樹脂を調合して盛りつけ、硬化後彫刻刀などで整形補修した。

補修部分は、整形後アクリル絵具で補彩した。

4 最後に

石ノ形古墳から出土した金属遺物、とくに鉄製品の修復処理については、通常の鉄製品に比べて塩素の含まれる量が多く(Fig.78・79)、その脱塩処理に長時間を要し問題があったため研究を進めていた新しい脱塩防錆方法であるジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩(ダイカン)法を直刀の一部に実施した。この方法の効果を確認するために遺物の観察を継続していくが、今までの実験結

石ノ形古墳

果を見ると効果が期待できるものと考えられる。ジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩法については、稿を改めて報告をする予定である。

この修復にあたって静岡県埋蔵文化財調査研究所西尾太加二氏、袋井市教育委員会生涯学習課文化財係吉岡伸夫氏、白澤崇氏にはご迷惑をおかけしました。記して感謝いたします。

【参照文献】

青木繁夫「青銅製品の保存修復」『MUSEUM』381号、東京国立博物館、昭和57年12月

青木繁夫「出土鉄製品の安定化处理」『国立歴史民俗博物館報告』第38集、国立民俗博物館 平成4年6月

青木繁夫・犬竹 和「ジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩法による脱塩・防錆効果について」『考古資料保存研究会講演要旨』平成10年6月



Fig. 67 短甲取り上げ作業 1 (パラロイド B-72 の塗布)

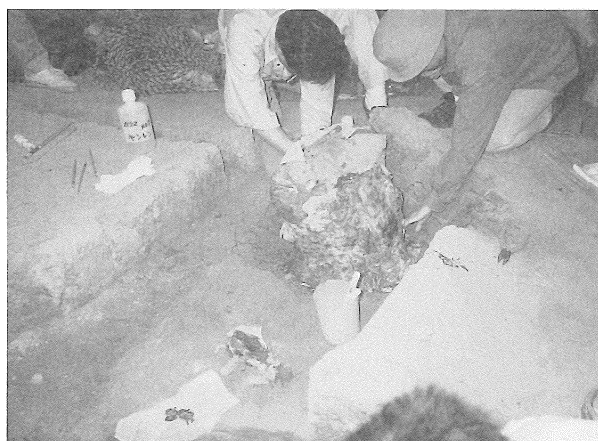


Fig. 68 短甲取り上げ作業 2 (ガーゼによる補強)

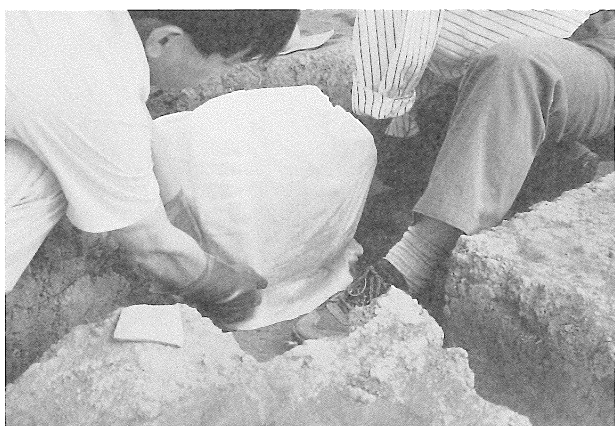


Fig. 69 短甲取り上げ作業 3
(ウレタンキャストテープの巻き付け)



Fig. 70 短甲取り上げ作業 4 (底部の切り離し)

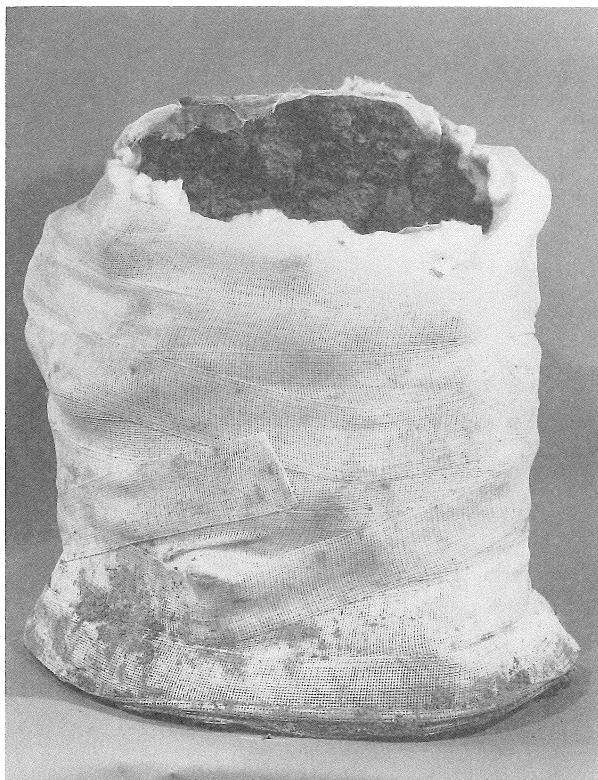
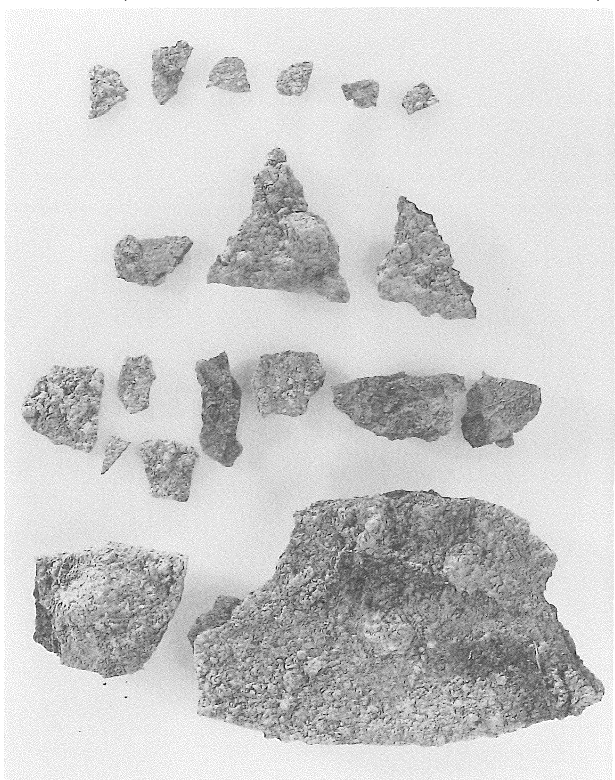


Fig. 72 短甲 (処理前)

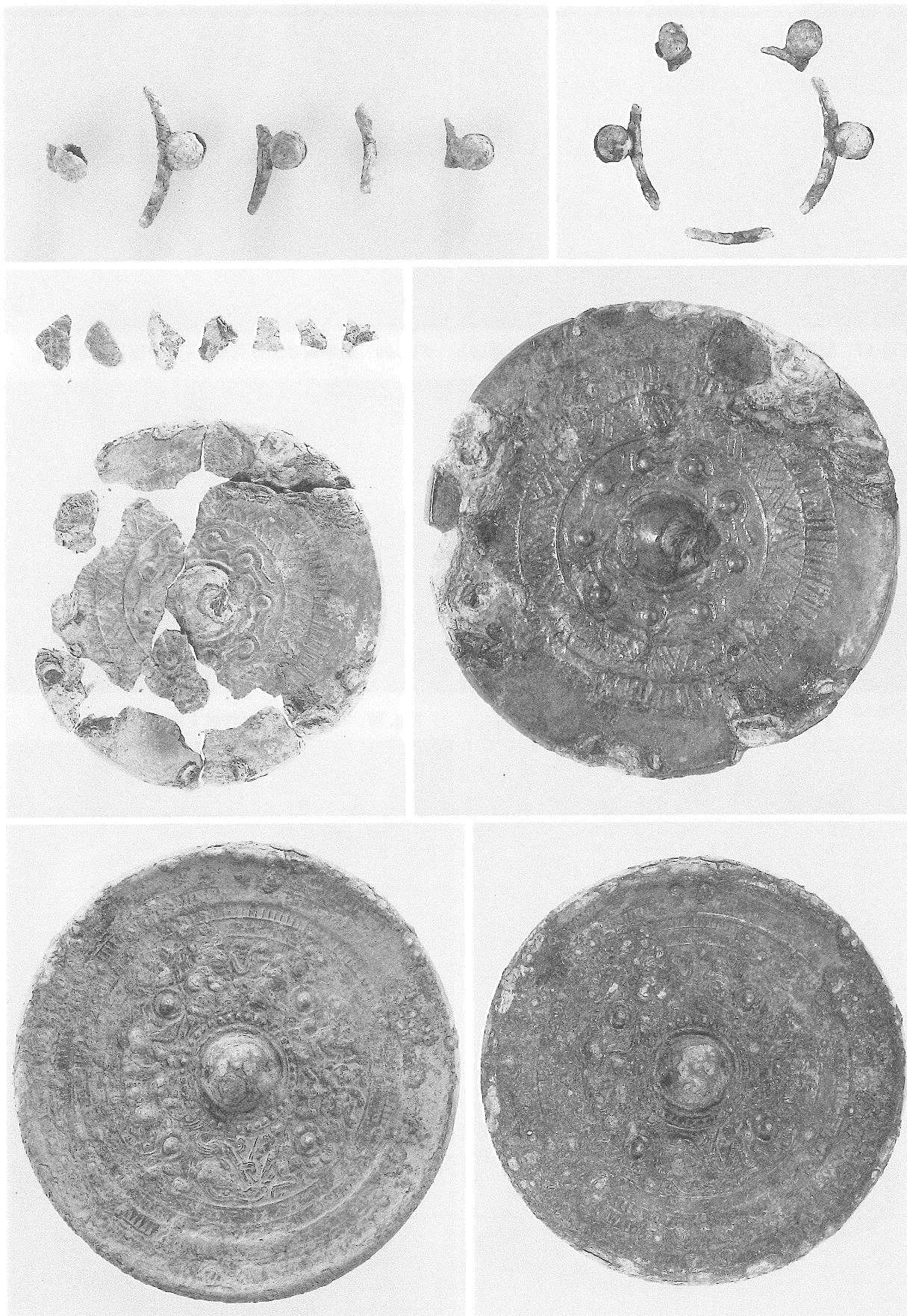


Fig. 71 鈴釧・乳紋鏡・画像鏡(左:処理前,右:処理後)



Fig. 73 短甲(处理後)

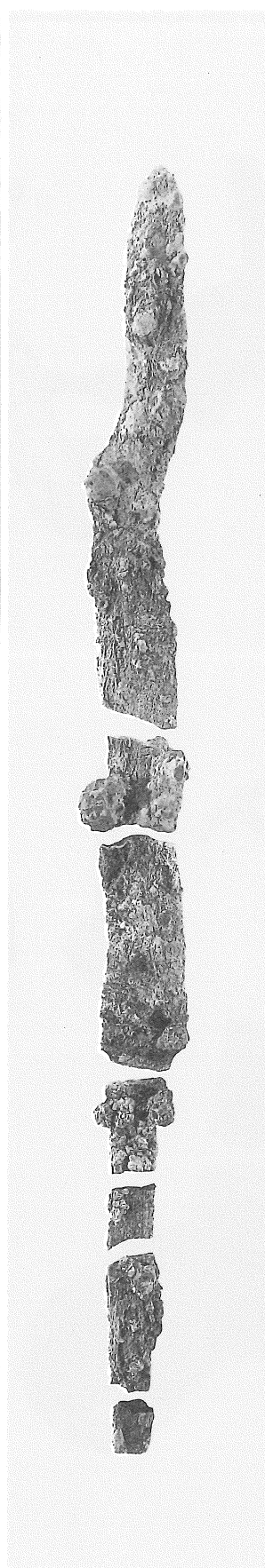


Fig. 74 蛇行劍(左:处理前,右:处理後)

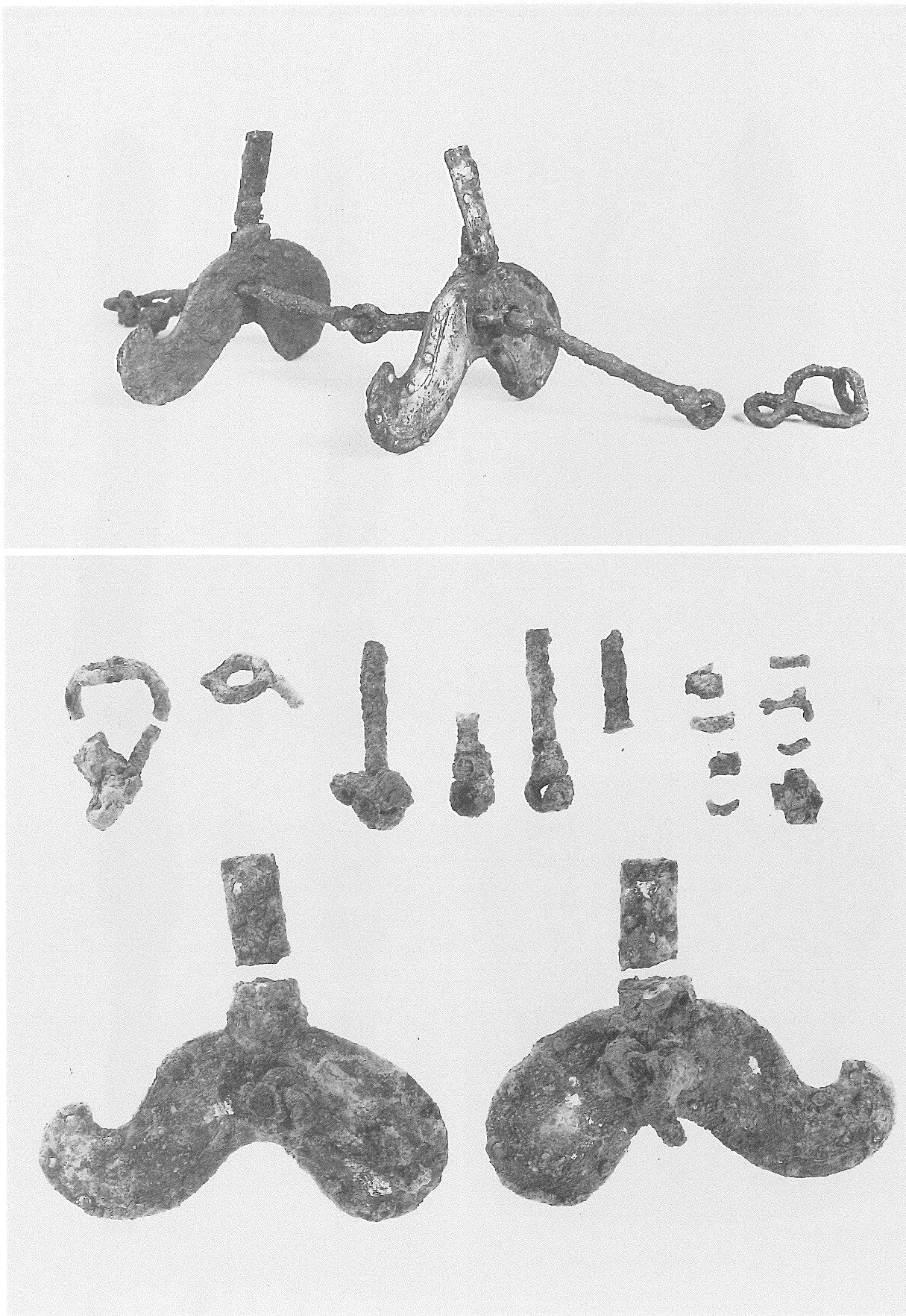


Fig. 75 f 字形鏡板付轡(上:処理後,下:処理前)

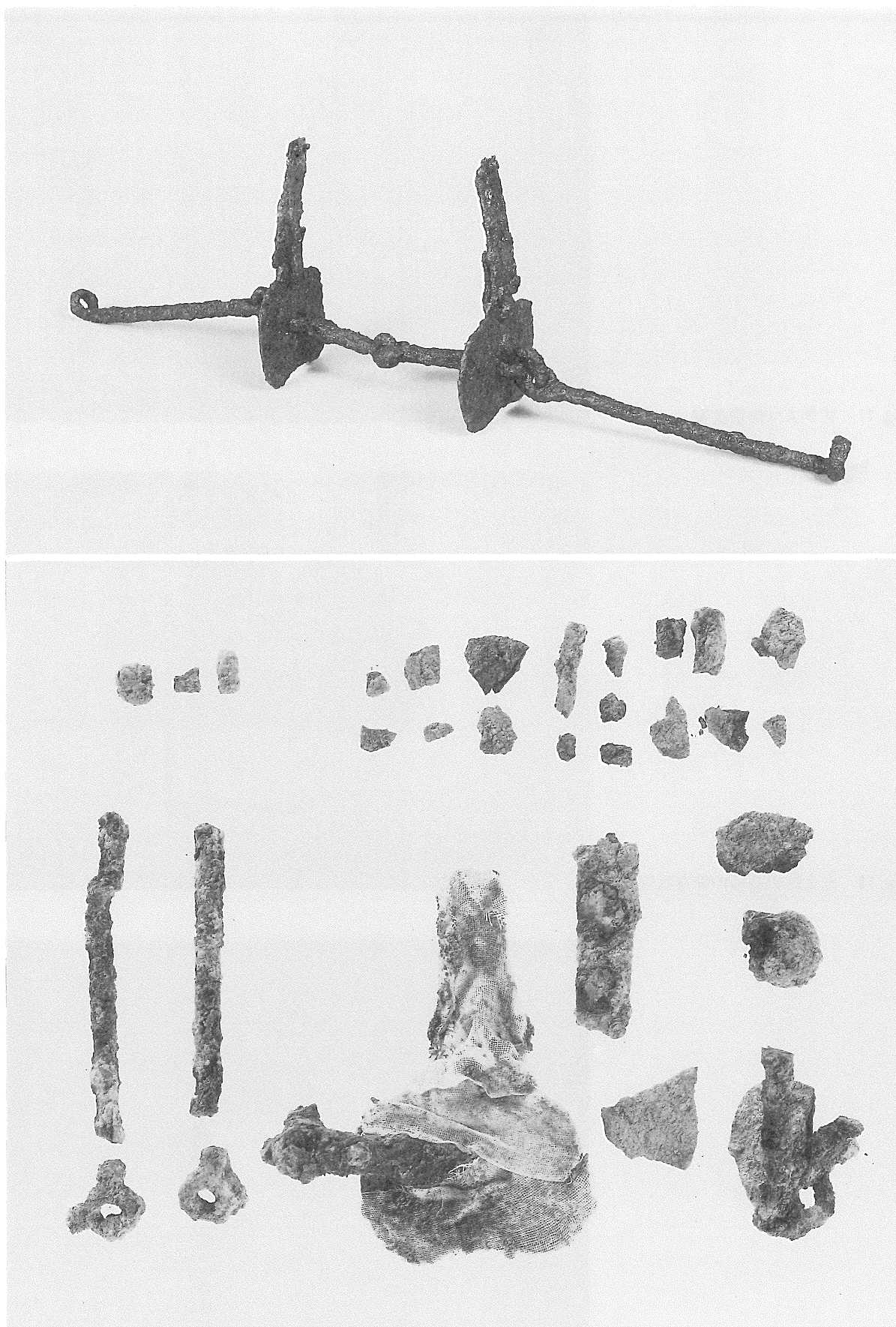


Fig. 76 鉄製精円形鏡板付轡(上:処理後,下:処理前)

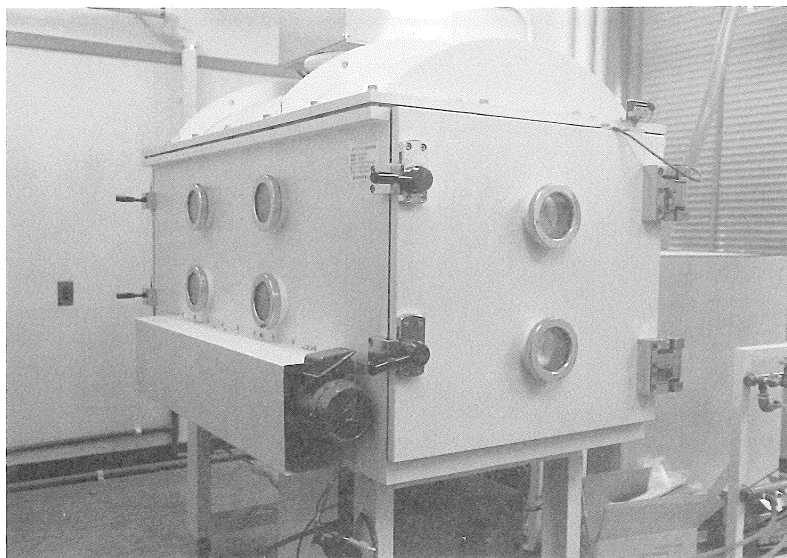


Fig. 77 プラズマ処理装置



Fig. 78 出土時の遺物の保存状況

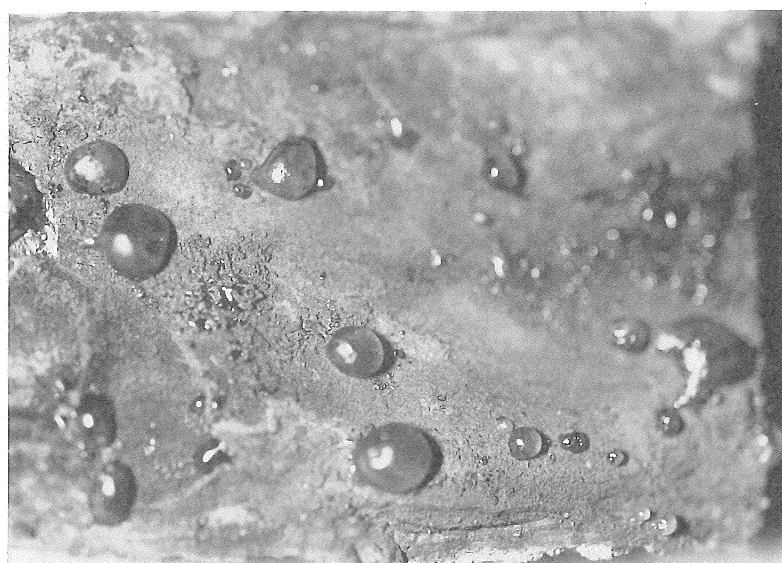


Fig. 79 処理中(錆汁が出ている状況)

2 石ノ形古墳の探査

奈良国立文化財研究所 西村 康

1 はじめに

本古墳における探査の目的は、発掘調査に先立って主体部等の詳細を知ることにあった。探査を計画した当時、われわれは文部省科学研究費補助金による重点領域研究『遺跡探査』を開始したところであり、ここでの探査はその研究に役立つ基礎資料を収集できる貴重な実験的機会として位置づけ、参加することにした。探査に際して各種便宜を図っていただいた袋井市教育委員会当局に御礼を申し上げる次第である。

ここで採用した探査の方法は、地中レーダー探査、磁気探査、電気探査である。このうち、レーダー探査では平面図を作成する Time Slice の方法の有効性を確認すること、磁気探査では新たに開発した 3 軸グラジオメーターによるデータ収集と、その能力を市販の既存装置と比較することを大きな課題とした。電気探査では、そのころ主として検討していた 2 極法による測定の有効性を確認することが関心にあった。なお、これら探査に加えて、やはり開発中であった FM-CW レーダー試作器を使用した実験測定も実施している。

以下では 3 種類の方法によって得た成果を比較しながら、探査結果を報告することにする。

2 測定装置と方法

地中レーダー探査 使用したのは一般的なパルスレーダー方式の装置で、これはアンテナから地中へ向けて圧縮電波を放射、それが再び地上へ戻ってきたものを受信する。受信した電波波形にもとづき色を付けたり白黒の濃淡で表示すると、擬似的な断面画像を得ることができる。

使用するアンテナには各種ある。周波数の高いものは分解能に優れているが、深い層位の情報をとることができない。低いと深い層まで到達するが、分解能に欠けるので小さな対象物は判別できない、という特徴と限界がある。したがって、もし必要探査深度に関する情報がない場合には、低い周波数のアンテナを用いた測定をまず実施して、土層の状況を確認する作業が必要となる。しかし、目標とする対象の存在する深さが判明しておれば、それに合わせてアンテナを選択できる。

ここでは、現地形の状態や試掘調査の結果をふまえ、1 m よりも浅い層位の探査で効果があると思われたので、500MHz と 900MHz のアンテナを使用することにした。これらはアメリカ G. S. S. I. 社製でコントロールユニットは SIR-8 型を用いた。

探査結果の解析では、通常の擬似的断面画像をもとにする方法だけではなく、ある一定の深さ

における電波の反射、屈折、減衰などの様子を示す平面図として整理した。これは、断面からデータを切り出し表示するところから、Time Slice と呼ばれる。

磁気探査 現在、世界的に考古学調査に応用される装置には2種類ある。プロトン型とフラックスゲート型である。そしてこれらでは、地磁気的全磁力と鉛直成分を求める装置が多い。ここでは、市販の装置としてはイギリス Geoscan 社製フラックスゲート型 FM18を使用した。

また、試作器である3軸グラジオメーターを実験的に用いたが、これもフラックスゲート型である。この装置は地磁気を東西(x)、南北(y)と鉛直(z)の三成分に分離して観測できるもので、遺跡で簡便に測定できる装置としては、世界で最初のものである。この方式により、従来知ることのできなかった磁気情報を収集して、遺構、遺物の特定に役立てることを目的としている。

磁気探査は、わが国では以前より窯跡など熱残留磁気を帯びる対象に多く使用されてきているが、住居跡や溝など微細な土壌を判別する必要がある遺跡では実績に乏しい。したがって、本古墳でも主体部の位置や形態を求めることには、有効でない可能性があると思われた。しかし、古墳であるので鉄製の副葬品があれば、それは大きな磁気異常を示すので、探査で捉えられる対象となるはずである。

電気探査 この探査方法では、地中へ電流を送り込み、その比抵抗の差から土層判別をしたり、周囲と大きく異なる抵抗を示す対象を限定するのが基本である。電流を流す方法と電位を測る方法すなわち電極配列には各種あるが、考古学に応用されるものとしては2極法やウェンナー法がよく知られている。

ここでは、測定の対象とした範囲が狭いので、できるだけ広い面積を探査することを目的に、移動電極が2で良い2極法を採用した。これは当時関心を持って応用研究していた配列でもある。他の4電極を用いる方法では、電極を十分に展開できないために、実際の測定面積は限定される。

3 測定の結果

測定に際しては予め東西6m、南北6.5mの範囲を設定したが、実際に探査した面積や測定点の密度は、方法によって若干異なる。

地中レーダー探査 これでは先に述べたように2種類のアンテナを用いて測定している。500MHzと900MHzである。設定した東西6m、南北5.5mの範囲を、500MHzでは東西と南北の両方ともに0.5m間隔でアンテナを走査(scan)した。しかし、中央部北辺の小さな祠がある位置では、それを避けたために1m四方の範囲で測定できていない。900MHzでは東西方向に南北0.5m間隔で走査したが、小祠の位置よりも北側では遺構の存在は考えられないので1m間隔に広げている。

測定に際しては、データの収録時間を500MHzでは40ns(ナノ秒)、900MHzでは30nsに設定した。これらによれば、電波の土中伝搬速度を6cmに仮定した場合には、探査した深さとしては、

それぞれ1.2mと0.9m程度となる。

結果はある深さに対応する電波の挙動を表す平面図(Time Slice)として整理している。

500MHz のアンテナを用いた測定では、12～16、16～20ns すなわち深さにして60cm程度までの間で、測定区の中央部北寄りに東西3m、南北1mほどの範囲に反射の大きな構造がみえる。これはまた、平面形が東で北に傾いているとみられること、東の方では浅い位置で反射が大きく、西では深いと判断される。

さらに深くなって、20～24ns の0.6～0.7mほどの深さになると、いま見た大きな反射がある位置から、南へ広がる構造を読みとることができる。これは墓壇の範囲を表していると理解した。すなわち、主体部は墓壇の内では北側寄りにあり、南側には空間があると見られた。また、24～28ns までの平面図からは、この空間は北側では浅く、南の方が深いように思われた。

また、この深さで南へ延びる構造が読みとれる。後に判明したところでは、これが主体部であった。

900MHz の結果では、30cm程度までの深さでは反射の大きな範囲が各所に散在しているようにみえる。これは周波数が高いので、それだけ500MHz よりも小さな土壤変化を捉えているためといえる。0.5m近い深さと思われる12～15ns では、500MHz と類似する反射の形態、すなわち測定区のやや北寄りと同じ方向に大きな反射位置がある。これよりも少し深い15～18ns では、大きな反射位置は測定区の中央にある。そして、この部分が東北方向へ延びる点は、500MHz の結果と同じといえる。

これらレーダー探査の結果からは、主体部は測定区のやや北寄りで、平面形では東で北に偏した方向にあり、それは墓壇の中では北側に位置すると推定した。そして、深さは約0.5m程度から存在すると考えられた。

なお、500MHz の結果では、12-16ns で顕著なように、測定区東南隅に大きな反射の箇所のあることが注意された。

磁気探査 市販の装置である FM18フラックスゲート型グラジオメーターを用いた探査では、東西6m、南北6.5mの範囲をタテ、ヨコともに0.5m間隔で測定した。

結果を見ると、測定区の中央部分に大きな磁気異常があり、その北にも規模は小さいながらもやはり異常のあることが判る。中央部の異常は、その位置から見て副葬品の中でも鉄製品に起因するものと理解した。この異常を詳細に検討すると、中央の大きな範囲は東西に二分できそうである。

すなわち、西側ではやや南北方向に広がり、東ではそれとは分離して円形に異常があるとみられるのである。これらの位置は地中レーダー探査の結果と比較すると、南側の異常がちょうど反射の大きな範囲の南に位置している。そして、東側の規模の小さな異常も、墓壇と推定した範囲内にある。これらのことから、磁気の異常を示す箇所は、それぞれ主体部と共に副葬された鉄製遺物に起因するものと推定できるのである。

これらとは別に、測定区の北でやや小規模な異常があるが、この位置については、レーダー探査や後に述べる電気探査の結果と照合すると、主体部や墓壇の範囲から外れていると思われたので、古墳とは関係のない鉄製品が示す可能性が大きいと判断した。その位置が小さな祠に近接することからも、近世あるいは現代の鉄製品を捉えた可能性も考えられた。

これ以外には顕著な磁気異常はない。しかし、測定区の東南端には、探査範囲外へ及ぶために全体の形態や規模が不明ではあるが、異常が認められることが注意された。

3 軸グラジオメーター この装置でも FM18フラックスゲート型グラジオメーターと同じ範囲を、同じ密度すなわちタテ、ヨコともに0.5m間隔で測定した。

FM18フラックスゲート型グラジオメーターと同じ成分である地磁気の鉛直成分(z)を求めた結果では、測定区の中央部分や北側で同様の異常を認めることができる。しかし、FM18装置とは違い、測定区内の各所に小さな異常の散見することに気がつく。同様の成分を測定しているにもかかわらず、このような違いが生じたのは、FM18装置では測定時にデータを平均する機能を有しているが、それを活用したために小さな変化は現れなくなってしまったためと考えられる。しかしながら、これら小さな変化にも注意しておく必要があると思われた。特に中央部の東側にある小さな異常地点は、その形態が他とは違うので、遺物である可能性があると考えられた。

東西成分(y)の結果では、異常は東西の方向に現れるはずであるが、中央部の大きな磁気異常の地点での形態が、西北方向に延びているのが注意される。北に似た異常地点でも同様の傾向がある。異常をもたらす原因となっている対象物が東西南北ではなくやや傾いた方位にあることを示しているであろう。他で散見される小規模な異常地点の位置も、基本的には鉛直成分(z)にみる箇所と同じであるが、変化の大きさとしては、小さいのが注意される。

南北成分(x)では、中央にある大きな異常の地点で明瞭のように、異常の形態としては南北方向に現れる。この結果の中では、中央地点の北側に大きなマイナスの異常があることに注意される。もしかすると、この中央の対象物は南北に二分されるのではないかと考えられた。他の地点にみる小さな異常は、それぞれ鉛直成分(z)、東西成分(y)の位置とよく対応しているといえる。

この3軸グラジオメーターによる測定では、市販のFM18装置と比較すると、異常の詳細が明らかにできるという成果があった。例えば、中央部にみる大きな磁気異常では、東西だけではなく南北にも分離できる。鉄製品などの遺物があるとすれば、それは単体ではなく複数であると推定できるのである。

また、FM18装置では測定区の東南端にある異常が顕著であるが、この方法によれば異常としては大きくない。何らかの遺物が存在するとしても小さい可能性が推定できる。なお、FM18装置では測定区の西南端にも異常の地点を認めているが、3軸グラジオメーターではそれを捉えていない。これは、両測定は異なる時間帯に実施しているが、この対象物はFM18装置の測定後に移動されて無くなったものと想像される。すなわち、3軸グラジオメーターで測定した時点では、釘など調査に関連する何らかの鉄製品が除去されたと思われるのである。

電気探査 この測定では、2極法により移動電極間隔0.5mと1mの2種類を採用して、いずれでも測定間隔をタテ、ヨコともに0.5m間隔で探査した。これらでは、経験的にそれぞれ0.25mと0.5m程度を中心とした深さの土壌情報を、最も反映すると考えられている。測定に際しては、電極を枠に固定する方法を採用した。この枠では、それぞれの移動電極は0.5mあるいは1mの間隔で固定しており、測定装置はその枠の上に載せる。電極が固定してあるので、電極を手動で別個に移動させる際の間隔異同は生じないという利点がある。

測定の結果の内0.5m間隔では、測定区の全体が南北に二分され、北が比抵抗の高い範囲、南では低いという傾向にある。緩やかな変化ということができる。その中では、磁気探査でみた測定区東南部分で範囲外へ広がる異常箇所において、比抵抗が高くしかも完結するようにみえる点が注意される。磁気探査、電気探査ともに同一地点で異常応答があるのである。

地中レーダー探査と磁気探査でみた中央部の異常地点は、比抵抗の低い範囲として現れている。しかし、その形態はレーダー探査でみるようには完結していない。わずかに、南側で比抵抗の低い部分が、幅1m、長さ2mばかりで西北西へ傾いているとみられる点が、類似しているといえるにとどまる。

しかしながら、レーダー探査の結果を参考にすれば、これの北側のやや比抵抗の高い部分も含めて、類似する形態と範囲をパターンとして読みとることができない訳ではない。もしこの範囲を一体のものとする場合には、北で比抵抗が高く、南で低い点についての説明が必要である。つまり、主体部を構成する材質に差があると推定しなくてはならない。

移動電極間隔1mの結果では、レーダー探査でみた中央部の異常の北半部が比抵抗が高く、南では低いという結果になっている。また、これらは0.5mの間隔による結果で、やや強引に推定した主体部が示すと思われる南北方向の構造は、読みとることができない。しかし、レーダー探査で推定した範囲が比抵抗でみると高低の部分として現れていることが注目された。

また、0.5m間隔の結果とは違い、全体の比抵抗分布の傾向としては東西方向の変化であるという点も注意される。これは、深さ0.3～0.5m程度までと、それよりも深い層位では土壌が違い、それを反映しているのかも知れないと考えた。

なお、磁気探査と電気探査の0.5mの間隔でみた測定区東南部の異常応答の箇所は、この間隔では十分に範囲を限定できず、したがって遺構などは推定できない。もし、遺構が存在するとしても、0.5mよりも浅いのではないかと思われた。

4 おわりに

本古墳における探査の結果は以上のようなものである。これを発掘調査の成果と照合しながら検討してみることとする。調査で明らかになったところによると、ここでは主体部が2基あった。それらは東西に分かれているが、探査をした範囲は西の主体部を中心にしており、東の主体部はそれ

のごく一部が測定区の東南端に含まれるのみである。

地中レーダー探査では、中央の反射の大きな箇所は主体部で、その南に広がる範囲は墓壇ではないかと考えた。発掘結果によれば、この位置にある西主体部と主軸の方向が類似している。しかしながら、この主体部の中央から北にかけては、後世に破壊を受けた部分であることが明らかにになっている。

レーダー探査で主体部とみた部分の少なくとも北半部は攪乱されており、周囲とは大きく異なる土壌からなるものであった。墓壇と主体部と区分して考えた範囲の土壌変化は、遺構と攪乱との両者を捉えていたと解釈できる。これら土壌変化の詳細は、500MHzのアンテナによる平面図では、正確に表現できているとはいえない。それは、平面図を作成する際に、データ平均の範囲を大きくとり過ぎたため、細部変化が欠落したためと考えた。これ以後の探査における教訓となった。しかし、900MHzの15-18nsでは主体部と攪乱部分とが分離できそうである。

このような遺構の遺存状況を探査では推定するのは困難である。もし、あらゆる遺存形態やその規模を考慮するにしても、その変化の可能性は無限にある訳で、的確に指摘するのは不可能かもしれない。しかし、結果判読に際して攪乱の可能性を考慮しなかったのは反省点である。

それよりも、レーダー探査では反射をもたらす原因としては、土壌変化の差異の大きさに依存するので、探査で主体部を捉えていたとしても、それを構成する材質までは推定するのが困難なことを注意しておくことが重要であろう。しかし、電気探査によればこの主体部の範囲は比抵抗の低い部分として捉えられているが、それに基づいて考えると、粘土などで構成されており、石材などではないと推定できるのである。

磁気探査では、採用したそれぞれの装置で、鉄製遺物がもたらすと思われる大きな磁気異常を認めた。その中でも、測定区の中央部でみた異常は、馬具や短甲など多量の鉄からなる遺物からもたらされたものといえる。したがって、探査で主体部はやや北寄りにあるとみたのは間違いであるが、南に副葬品を埋納していると考え、遺物の存在を推定したのは適切であったといえよう。

採用した市販の装置と新たな3軸グラジオメーターとの比較では、後者の方が異常を分離できるという点で、従来よりも詳細な形態や遺物の数も推定できる可能性を提示できたと考えている。このようなここでの実験測定の結果により、本装置の有効性が確認できたので、以後はこれら独立した3成分を活用した遺構、遺物の推定法の開発研究に取り組んだところである。

なお、磁気探査で認めた測定区東南端にある異常は、東主体部の西端部分に位置しており、鏡などが発見された箇所にあたっている。しかしながら、検出された遺物の主体は青銅製品である。磁気探査では鉄製品以外は捉えられないのが一般的であるので、遺物の中に鉄製品があったものと推定した。

電気探査では、上に述べたレーダー探査の結果と照合することにより、主体部を構成する材質が推定できた。すなわち、比抵抗が低いことから、石室ではなく木棺直葬や粘土槨ではないかと考えられたのである。

しかしながら、全体的な比抵抗分布からは、電極間隔0.5、1 mともに主体部を推定できるような構造は読みとることができない。発掘調査によって遺構の存在状態が明らかになって、それと照合することにより、はじめてその存在が考えられるという程度である。

探査としては、このような結果が事前に推定できることが望ましいわけで、有効ではなかったといわなくてはならない。有効な結果を導き出せなかった原因については現状では不明であるが、検出された遺構の深さなどを考えると、より広い電極間隔の測定が必要であったと考えている。

以上の3種類の方法を用いた探査においては、磁気探査による鉄製遺物の存在位置推定以外では、地中レーダーによる結果が遺構の実際に近いが、それでも攪乱と主体部とは区別して理解できなかった。主体部や墓壇の位置と範囲は、後世の攪乱土壌の存在もあり、正確に指摘できなかったのである。

しかしながら、地中レーダー探査と電気探査の結果を照合したように、異なる測定原理による方法を採用することにより、主体部の材質を推定できたことは重要である。これに磁気探査の結果すなわち鉄製品の存在位置をもとに、主体部の位置や形態を推定することができた。

このように、異なる測定原理の探査方法を同一範囲に採用すれば、それぞれは違う物理的要素から土や「異物」、すなわち土とは材質的に大きく異なるものの存在が指摘でき、材質の種類を推定できる可能性がある。遺跡探査では、一つとして同一の土壌構成、形態、規模の遺構や遺物を対象とする事はなく、遺跡が異なればそれは全く未知の局面に臨むことになるといえる。できる限り多数の測定方法を採用して、それらによって得られる結果を照合することが望ましい。

【参考文献】

「ベクトル磁気探査法の開発」(『遺跡探査』第2回研究成果検討会議論文集、重点領域研究『遺跡探査法の開発研究』総括班、p.28-35、1994)

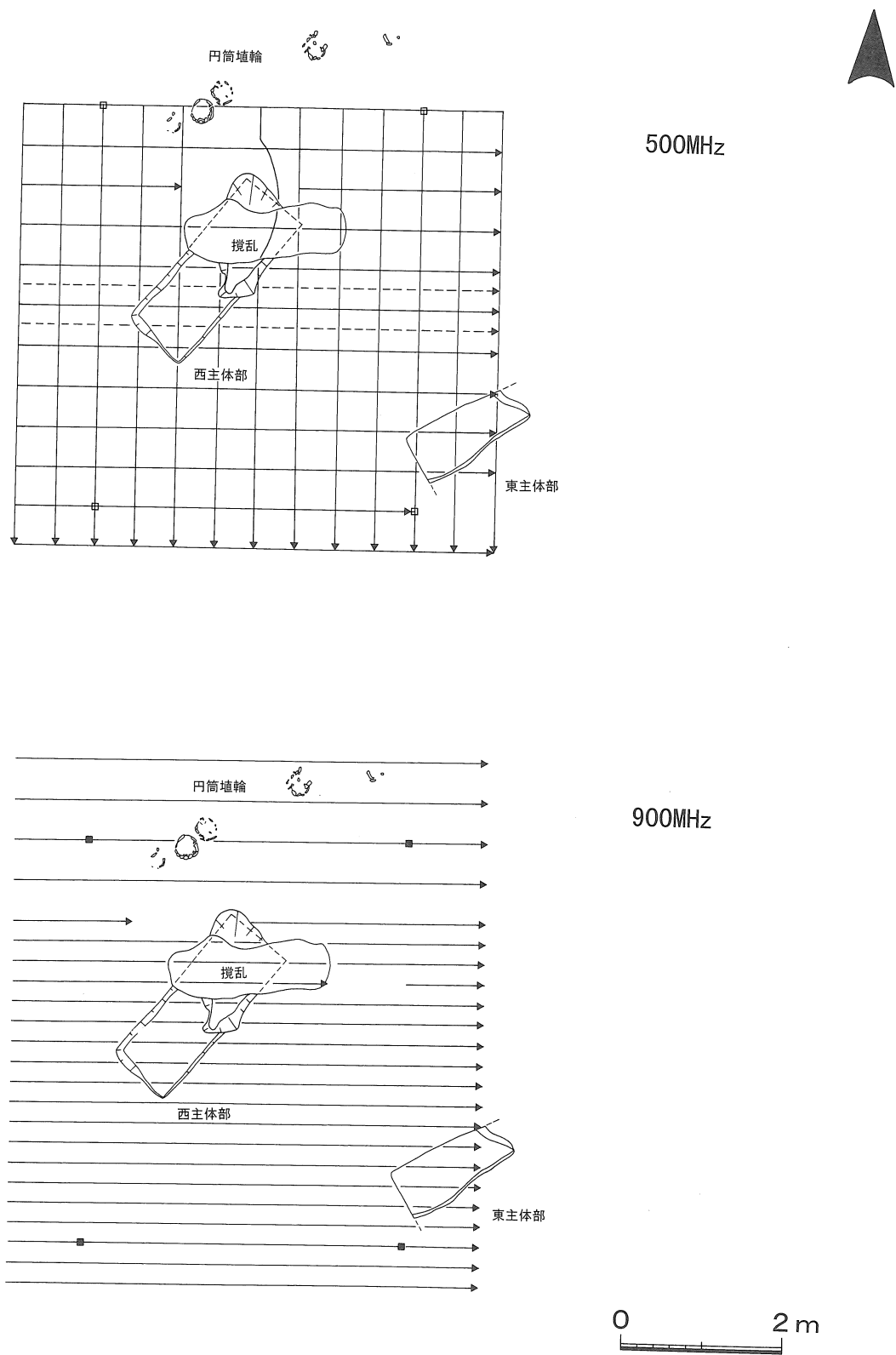


Fig. 80 レーダー探査測線配置図

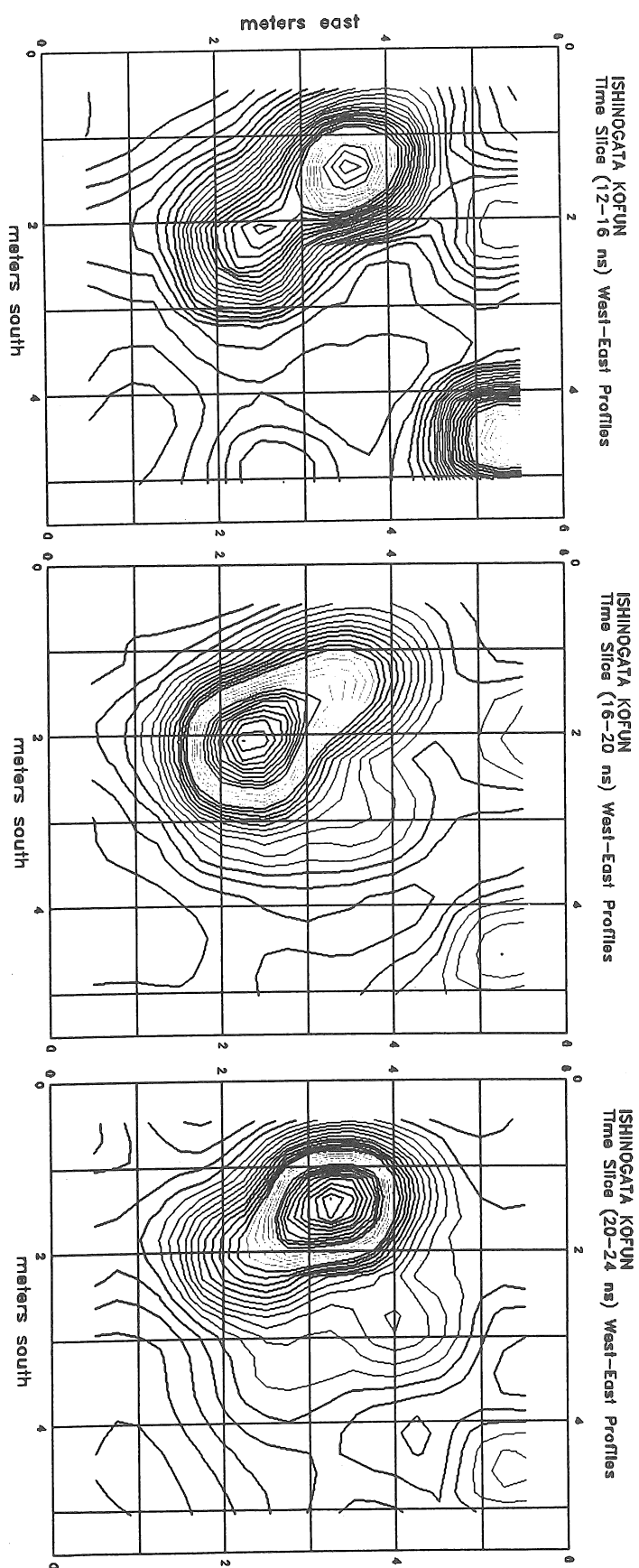
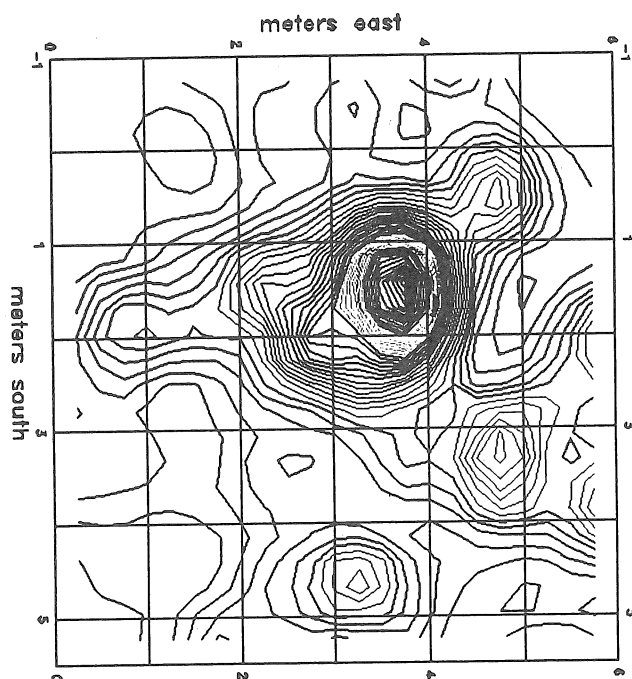


Fig. 81 地中レーダー平面図(500MHz)



ISHINOGATA KOFUN (900 MHz)
Time Slice (12-15 ns) West-East Profiles
(smoothing 3x3 matrix - minimal)



ISHINOGATA KOFUN (900 MHz)
Time Slice (15-18 ns) West-East Profiles
(smoothing 3x3 matrix - minimal)

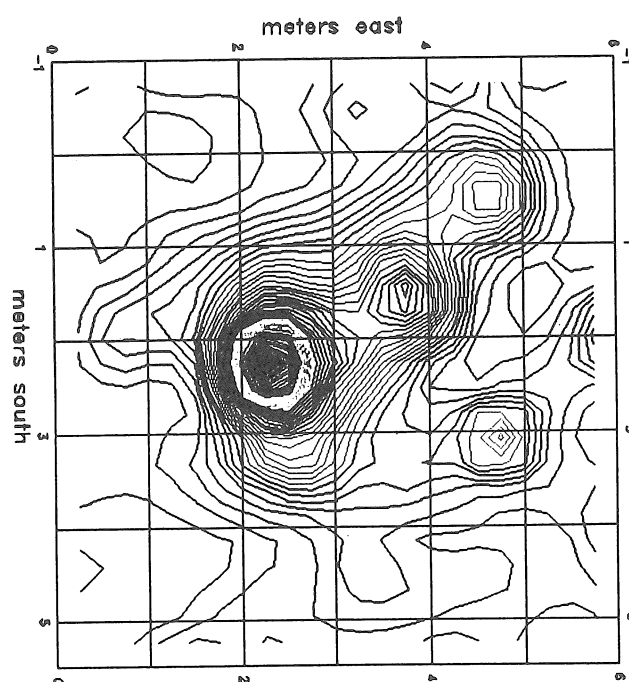
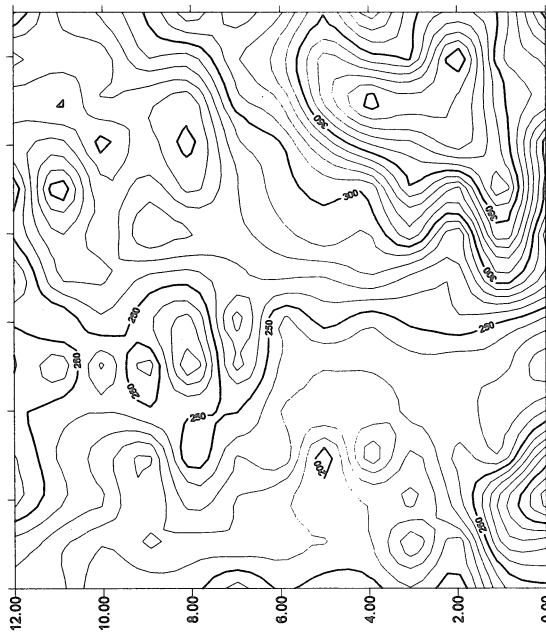
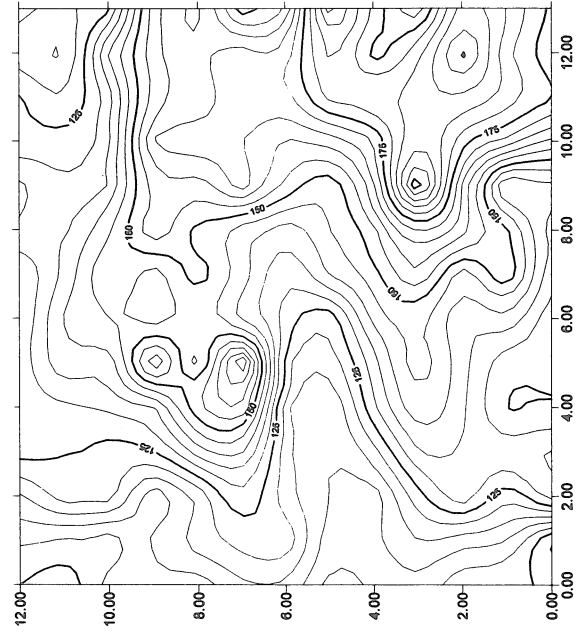


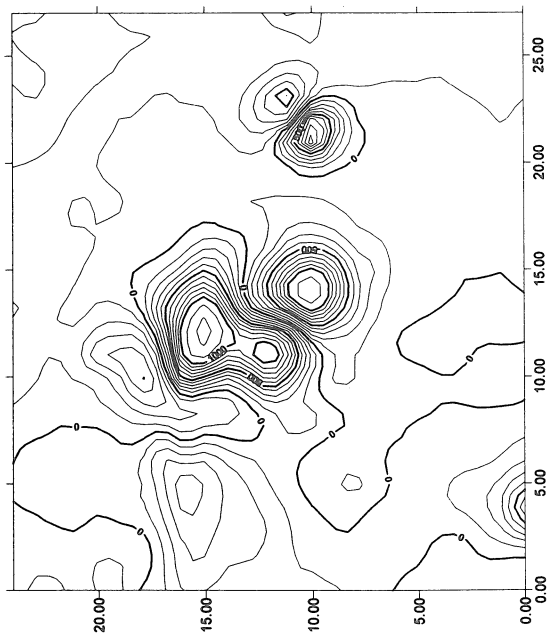
Fig. 82 地中レーダー平面図(900MHz)



(1) 電気探査〈移動間隔 0.5m〉



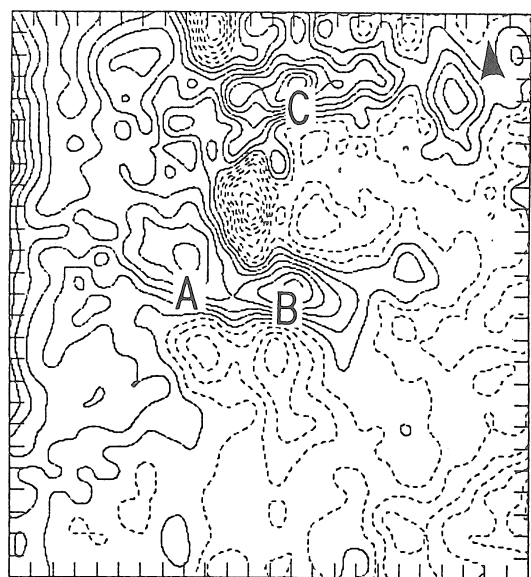
(2) 電気探査〈移動間隔 1.0m〉



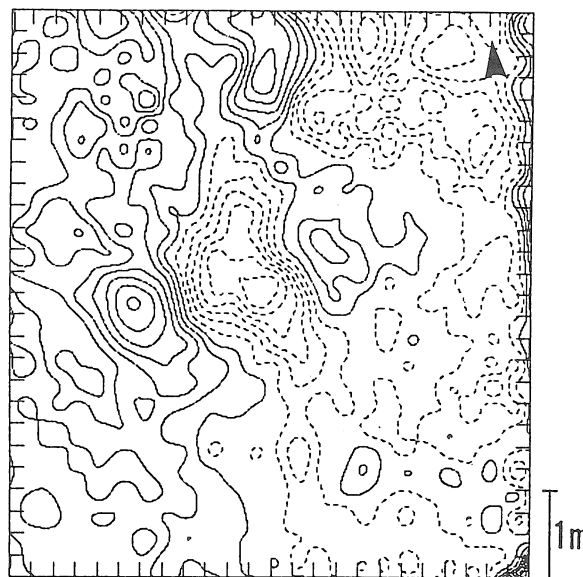
(3) 磁気探査〈FM18〉



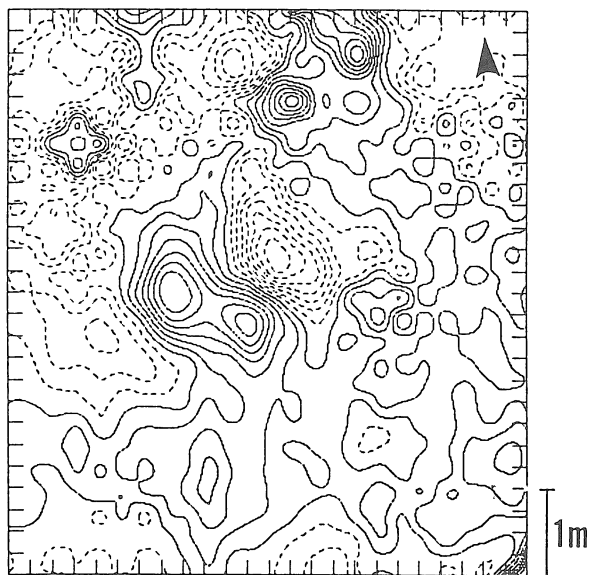
Fig. 83 磁気探査(FM18)・電気探査結果



(a) 南北方向成分



(b) 東西方向成分



(c) 垂直方向成分

Fig. 84 磁気探査(3軸グラジオメーター)結果

3 遺跡の磁気・レーダ探査

東京工業大学 亀井 宏行

1 墳頂部の磁気探査

磁気探査は、地磁気の異常を検出して地下の遺構や埋蔵物を探査する手法である。地磁気の異常を生じさせるものとしては、その強度の大きい順で挙げれば、強磁性体である鉄製品、被熱により熱残留磁気を帯びたり磁化率の上昇した遺構・遺物(例えば窯跡・炉跡や土器類)、土壌の磁化率の差(例えば火山灰と沖積土)などがある。今回この石ノ形古墳では、鉄製の短甲の一部が露頭していることから他にも鉄製の副葬品の存在が推定されることから、磁気探査を試みた。従来金属製品の探査には、金属が電気伝導度が極端に高い(抵抗率が小さい)ことから電磁誘導探査や電気探査が用いられることが多かった。鉄は錆びてばらばらになってしまうと電気伝導度は下がってしまうが、鉄は大きな磁化率を有していることから、錆びてばらばらになってしまった遺物でも少しでも純鉄部分が残っていれば磁気探査では発見できる可能性は高い。

探査に使用した装置は、新たに開発された3軸グラジオメータである。グラジオメータとは、一定の間隔で置かれた2台の磁気センサで測定される値の差を出力する装置で、磁場の傾き(空間差分, gradient)を測定することができるのでこの名がある。差を計測することで、地球磁場の時間変動や背景雑音を除去することができるので、精度を上げることができる。従来用いられているグラジオメータは、磁気センサとしてフラックスゲートを使用し、地磁気の垂直方向成分の磁気勾配のみを測定するものである。フラックスゲートは、強磁性体の磁気飽和特性を利用した磁気センサで、センサの向きを変えることにより、地磁気のその方向成分の大きさのみを測定できる。地磁気はベクトル量(大きさと方向を持つ量)であるので、垂直方向成分ばかりでなく水平方向成分も測定できれば、さらに探査精度が向上することが期待できる。その目的で開発したものが、3軸グラジオメータで、3方向成分を同時に測定できるフラックスゲート型磁力計を垂直方向に50cm離して固定したもので、磁場の垂直方向成分と水平方向2成分(南北方向と東西方向)の磁気勾配を同時に測定することができる。

探査領域は、Fig. 85に示すように石ノ形古墳墳頂部東西6 m×南北6.5mの長方形領域で、25 cm×25cmのメッシュをきって測定を行った。Fig. 86に測定の様子を示す。Fig. 87に探査結果を示す。Fig. 87(a)は水平面内南北方向成分、(b)は水平面内東西方向成分、(c)は垂直方向成分の磁気勾配を示す。すべての図の等値線間隔は15nT(nT:磁場の強さの単位でナノテスラと読む。参考までに調査地点の地磁気の大きさは46,600nT程度であった)。図中、実線が正、破線が負の磁気異常を表す。

これらの図から鉄製品の埋納が想定される磁気異常点を判読する訳だが、判読を容易ならしめ

るために、地磁気の方向に磁化した直方体物体による磁気異常(磁気勾配)をシミュレートしたのが、Fig. 88である。Fig. 88からわかるように、水平成分においては、南北方向成分では物体を中心に北側に正の異常、南側に負の異常というダイポールパターンが現れ、東西方向成分では西に正、東に負というダイポールパターンが現れる。垂直方向成分は物体の上方やや南に大きな正の異常、物体をとりまくように北側に負の異常が現れる。実際の探査では物体の形状も不定かつ不明であり、また雑音も多いのでシミュレーションどおりの結果は得られないが、3成分の図からこれらの傾向を持つ磁気異常点を探しだす。1成分の図だけに現れる異常パターンは雑音と判断する。

Fig. 87の探査結果から、磁気異常点を探し出すと、Fig. 87(a)に示したA、B、C、の3点が鉄製品の埋納が推定される大きな磁気異常点として検出される。

発掘結果の上に探査領域を重ねたものをFig. 89に示すが、A地点は西主体部棺内の短甲・馬具、B地点は同棺外の刀剣類、C地点は鉄斧の位置に重なる。

2 地中レーダによる範囲確認調査

石ノ形古墳の墳形を推定するために地中レーダ探査を行った。探査範囲はFig. 90の測線配置図に示すように家屋のある東側を除く3面で、間隔1mで可能な限り東西、南北の直行する2方向に測線を配置した。総測線数は65本となった。使用した地中レーダは光電製作所製KSD-3AM型レーダで、アンテナ中心周波数は166MHzのパルスレーダである。

Fig. 91に南側道路上の測線①(Fig. 90参照)の地中レーダ像を示す。この像は横軸が地表面上の測線に沿った距離、縦軸は電波の往復伝搬時間で地下の深さ方向に対応するので、地下垂直断面を表している。往復伝搬時間を実際の深さに対応させるためには、地中の電波速度が必要であるがこれは不明であるので、1 ns(= 1×10^{-9} 秒)あたり2～3 cm程度として換算すれば、およそその目安となる。

さてFig. 91では、西端から4 mの地点に、地表面近くから強い反射パターンが見られるが、これは西側道路との境にあるコンクリート製側溝によるものである。古墳に係わるものとしては、矢印A、Bで示す地点の間が、周濠部と読める。周濠底までの深さは、1 nsあたり2.5 cm換算で約75 cmである。周濠内CD地点間の部分に高まりがある。この南側道路上の4測線の内、南側3測線には連続して同様のパターンが見られるので、この高まりは周濠をわたる陸橋(渡り土手)のようなものではないかと考えられる。最も北側の測線は平成2年度調査時のトレンチ部分に重なるので、他の3本の測線とは異なるレーダ像が得られており、この陸橋状のパターンは見られない。

北側の道路上の測線②(Fig. 90参照)のレーダ像をFig. 92に示すが、東端から7 mあたりの深さ25 nsあたりから西側へ向かって落ち込んでいく地層のパターンが見られるが、これが古墳北

側の周濠の落ち込みを捕らえているものと考えられる。周濠の反対側の立ち上がりを判読するのは難しいが、隣接する測線のデータなどから判断するに、東端から13m近辺で新たに水平な層が現れてくるところあたりと判断するのが妥当ではないかと考えられる。

さらに北側の領域内では、東西測線③ (Fig. 90参照) のレーダ像を一例としてFig. 93に示すが、西端から4m地点から11m地点の間が周濠として読み取れる。この測線では、深さ30nsあたりと40～45nsの2層に周濠底と思われる反射が見られるが、深い方を周濠底と判断する。

西側の畑地内では、Fig. 94に示すようなレーダ像が得られている。Fig. 94は南北に走る測線④ (Fig. 90参照) のデータであるが、浅いところ15nsの深さに南端から6～9mの地点と、深いところ40nsあたり南端から5～12mにわたり少し盛り上がった強い反射像が得られている。Fig. 91、Fig. 92に見られる周濠の深さから判断するに、深いところの盛り上がりは周濠の底からの盛り上がりと考えられ、さらにその上に構造を持つことからこの部分に造りだしのような構造があるのではないかと考えられる。

地中レーダ探査で得られた上述の構造特徴を測線上に記した図が、Fig. 95である。Fig. 95中の三角印は、頂点に向かって深い方へ傾斜していることを表す。これらすべての特徴が、石ノ形古墳に由来するものかどうかは断定できないが、それらすべてを石ノ形古墳のものと仮定して、その特徴点をつなぎ合わせて石ノ形古墳の墳形を推定したものが、Fig. 95上の復元推定線で、東西に主軸を持つ前方後円墳か帆立貝式の墳形で、南側周溝内に造りだしか陸橋(渡り土手)を持つという形、あるいは円墳で西と南面に陸橋または造りだしを持つ(北と東は不明)形と考えられる。

レーダ探査結果は発掘結果と異なる部分もあるが、これは地中レーダ探査で得られた構造と思われるものは、周囲と異なる土質であることしか反映していないので、土壌観察からの時代判別などはできないからである。今回すべての特徴を石ノ形古墳に由来すると仮定して判読したもので、このような結果となった。

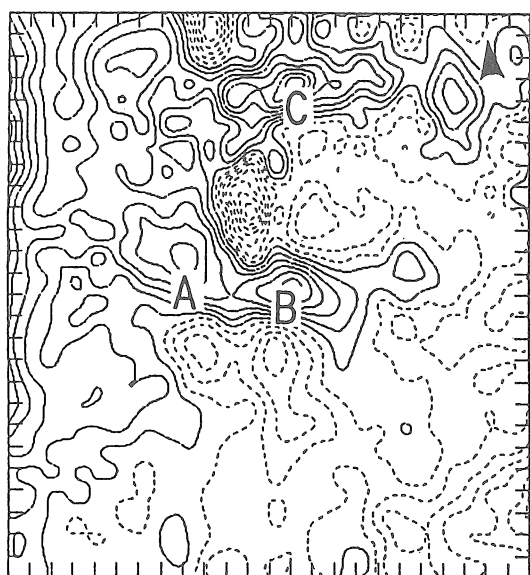
石ノ形古墳



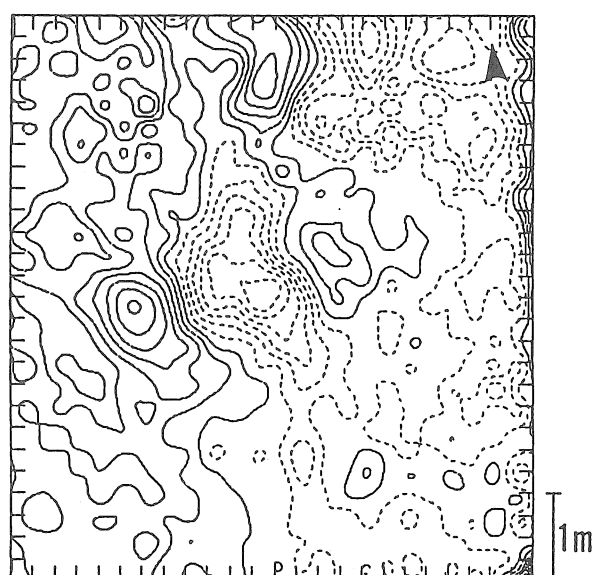
Fig. 85 石ノ形古墳磁気調査領域



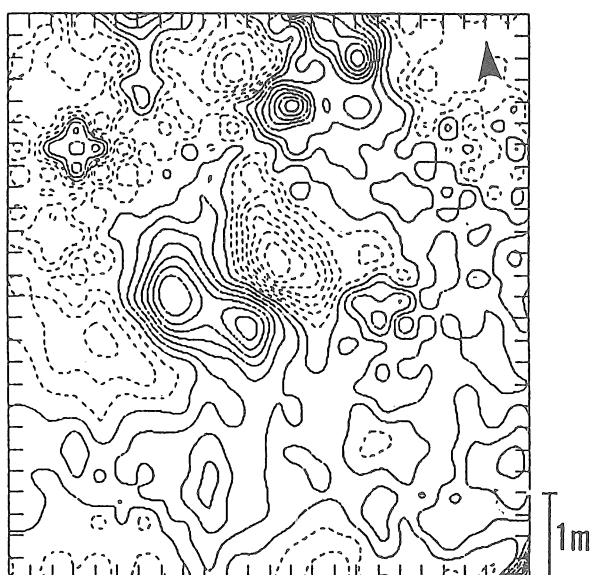
Fig. 86 3軸グラジオメータによる磁気調査風景



(a) 南北方向成分



(b) 東西方向成分



(c) 垂直方向成分

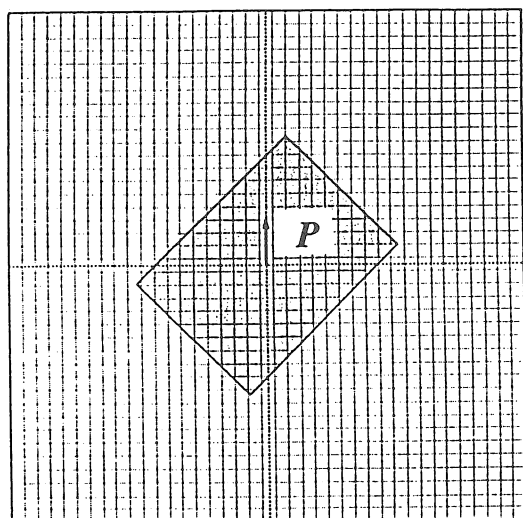
Fig. 87 磁気勾配探査結果(等値線間隔15nT)

(a) 水平面内南北方向成分

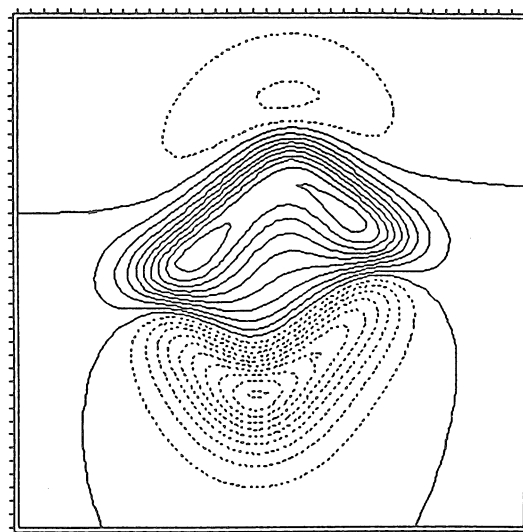
(b) 水平面内東西方向成分

(c) 垂直方向成分

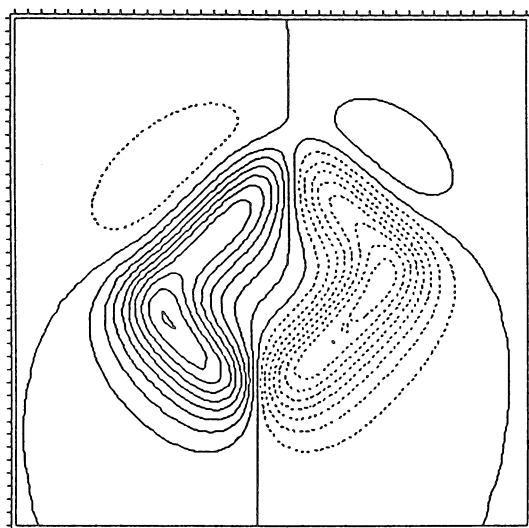
4



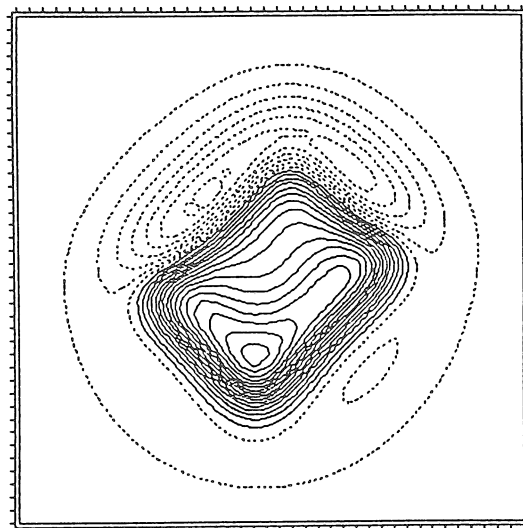
(a) 直方体モデル (平面図)



(b) 南北方向成分



(c) 東西方向成分



(d) 垂直方向成分

Fig. 88 地磁気方向に磁化した直方体物体による磁気異常(磁気勾配)パターン
(等値線間隔は任意単位)

(a) 直方体モデル(平面図)

(b) 磁気勾配水平面内南北方向成分

(c) 磁気勾配水平面内東西方向成分

(d) 磁気勾配垂直方向成分

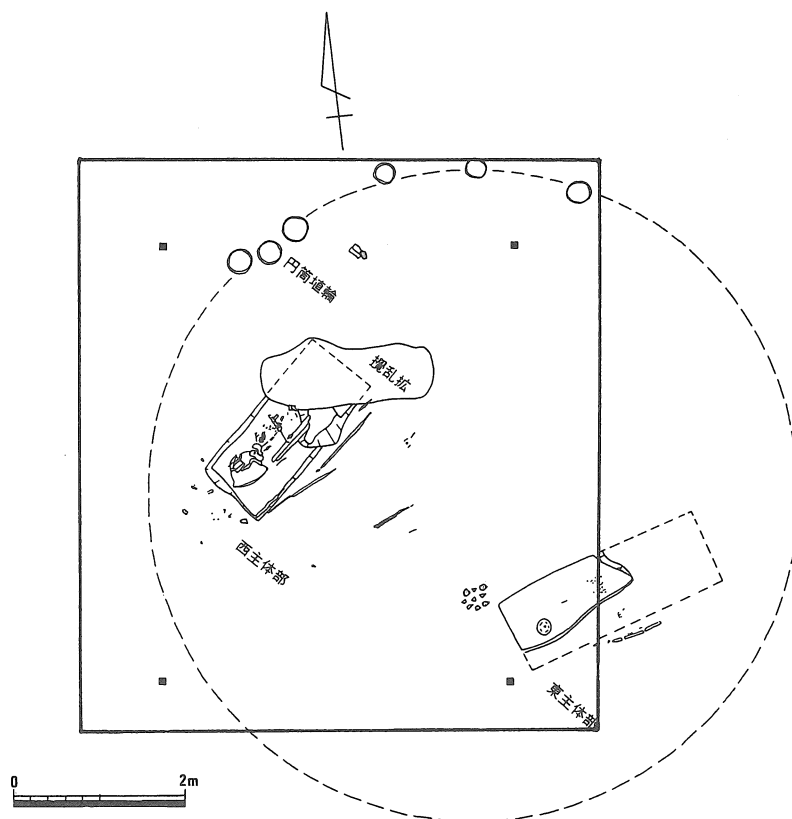


Fig. 89 磁気探査領域と発掘調査〔袋井市教委1994『石ノ形古墳』より作成〕

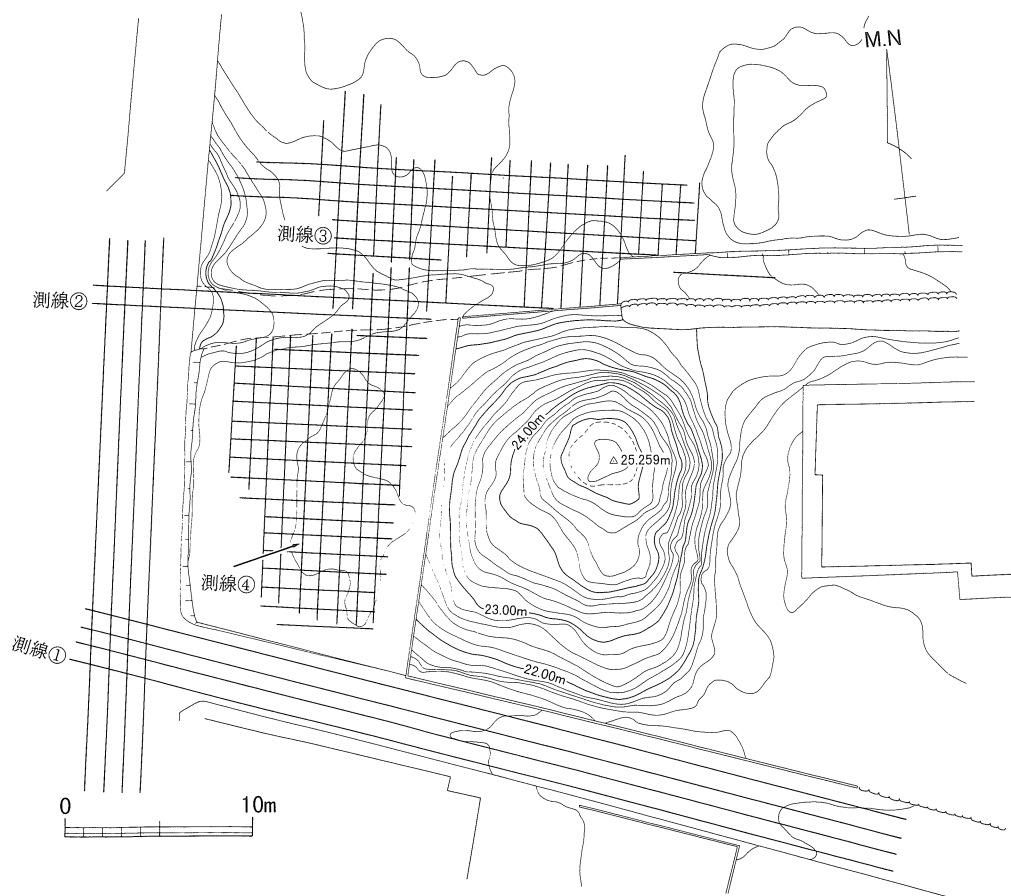


Fig. 90 地中レーダ探査測線配置図

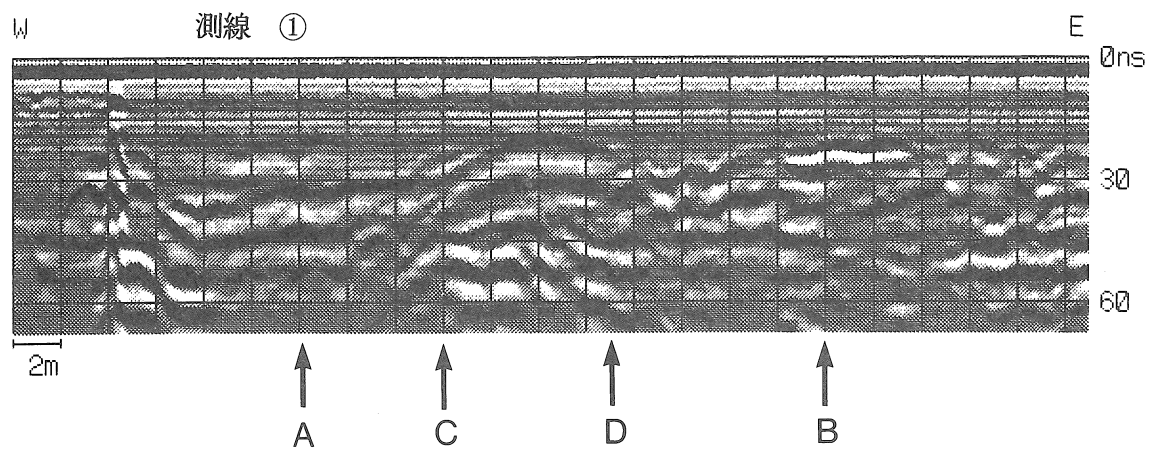


Fig. 91 南側道路測線①の地中レーダ像

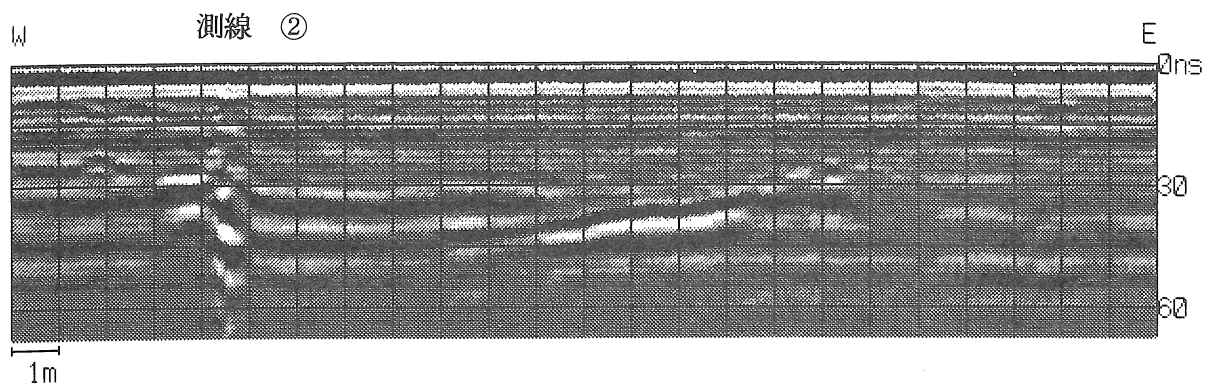


Fig. 92 北側道路測線②の地中レーダ像

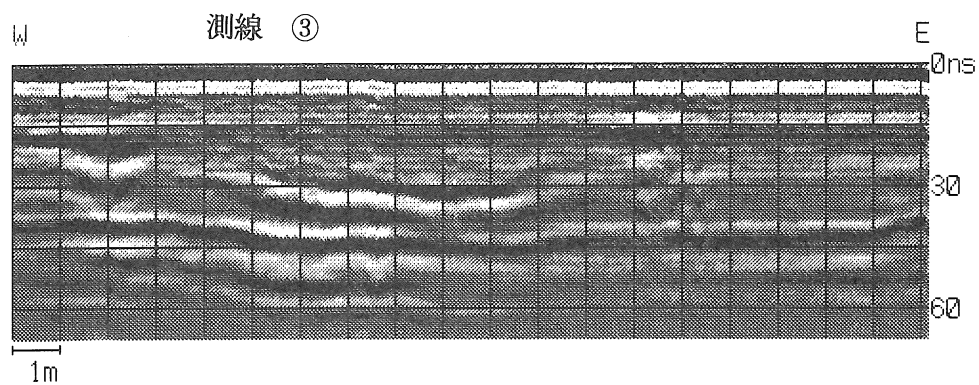


Fig. 93 北側道路北領域内の東西測線③の地中レーダ像

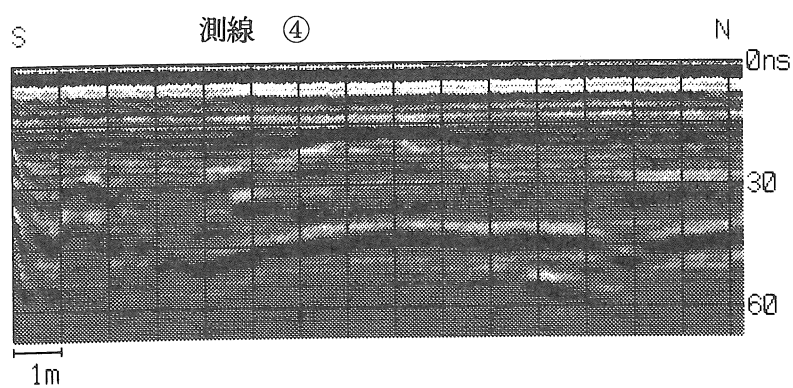


Fig. 94 西側畑地内の南北測線④の地中レーダ像

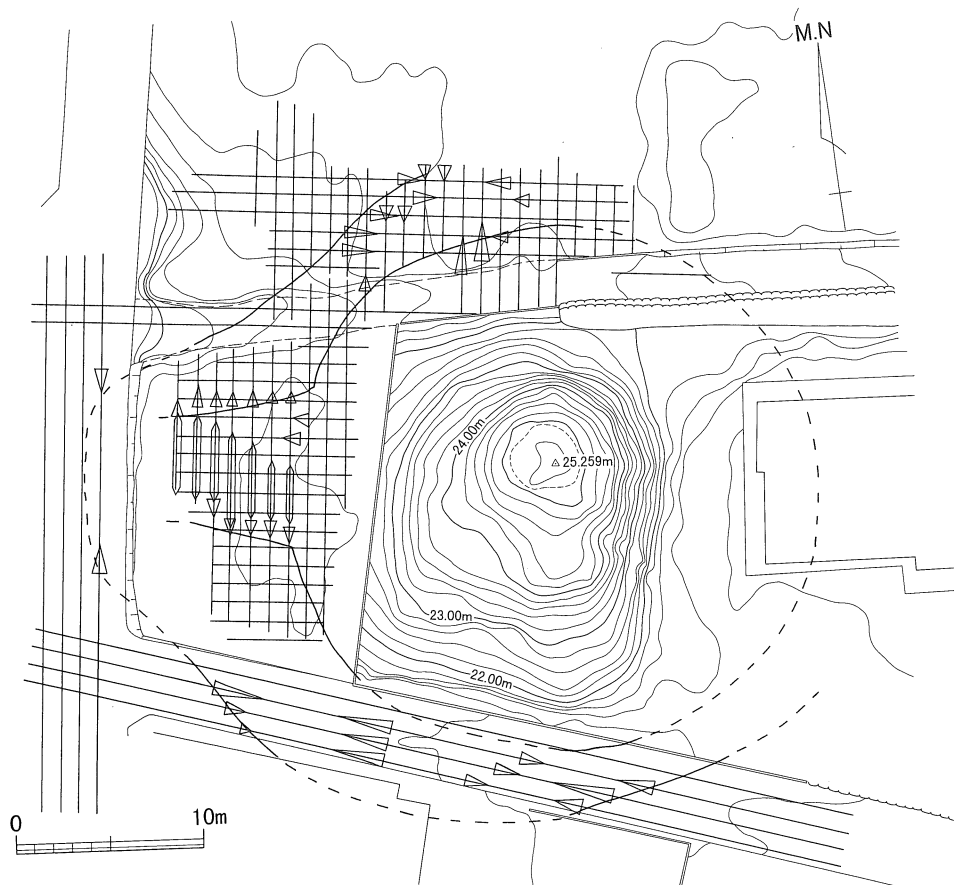


Fig. 95 地中レーダ探査による特徴分布と墳形推定図

4 埴輪の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

埴輪は、古墳時代研究において重要な資料である。近年では、土師器・須恵器と円筒埴輪の編年研究を軸に、墳形や内部構造と副葬品の型式や組成を含め、古墳の編年が編まれている。埴輪の編年は、その形態や製作技法、地域性などにに基づき進められているが、埴輪製作址の調査例が必ずしも多くないため、それらを製作した工人の実態や埴輪の生産・流通などについてはわかっていないことが多い。

埴輪の製作地や流通に関する情報を得る方法として、埴輪の特徴を指標として捉える胎土分析がある。胎土分析では、土器胎土の岩石学的特徴を捉え、既存の地質学的情報との比較を行うことにより、素地に用いられた原材料の地域性や採取地について、検討を行うことができる。当社では、静岡県西部地域を中心に分布する古墳、あるいは窯跡より出土した埴輪53点の分析を行ったので、以下に報告する。

2 試料

試料は、静岡県西部地域に分布する古墳または窯跡から出土した埴輪53点である。試料番号1～39の中で、試料番号4・10・12・22・24・34・35の7点については、同一古墳または窯出土の試料がそれぞれ2点ずつあるため、枝番号が付されている。試料が出土した古墳の所在地は、西は湖西市から東は小笠町にまでわたるが、2点は愛知県東部の豊川市の古墳および豊橋市の窯跡から出土したものである。また、その時期は4世紀後半～6世紀前半である。各試料が出土した古墳または窯跡の所在市町村、遺跡名、古墳の時期などは、結果とともに図に示す。

3 分析方法

土器の胎土分析の方法には、蛍光X線分析や放射化分析などの分析機器を用いて胎土の元素組成を求める方法や、偏光顕微鏡を用いて胎土の鉱物組成を求める方法など、様々な方法が用いられている。対象とする土器の質(例えば焼成温度や砂の含量など)によって、分析方法の選択が制限されるということもあるが、多数のデータを集めてその相互の比較から考察するという手順は、どの分析方法も同じである。当社では、これまでに関東地方や愛知県下の遺跡から出土した様々な土器について、主に胎土中に含まれる砂分の重鉱物組成を胎土の特徴とみなす方法で胎土分析

を行ってきた。今回試料とする埴輪は、当社では分析例が比較的少ないが、試料の質と前回の分析例や関東での分析例から、同様の方法で行うことが適当である。以下に分析処理手順を示す。

埴輪片約10～40gをアルミ製乳鉢を用いて粉碎し、水を加えて超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。ただし試料番号45については、約2gと試料の量が非常に少なかった。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm～1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉱物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定不可能な粒子は、「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数%を算出し、グラフに示す。グラフでは、同定粒数が100個未満の試料については粒数%を求めずに、代表的な鉱物がある場合には、それを呈示するにとどめる。

4 結果

結果をTab.16・17とFig.96・97に示す。53点の試料のうち、同定粒数100個未満であった試料は16点であった。試料番号45を除いては、これまでの分析と比べて、今回の試料の分量が特に少なかったということはない。したがって、これらの試料は、重鉱物の含量が少ないということが胎土の特徴となる。また、他の試料も、そのほとんどは「その他」が多く、同定できた重鉱物粒は少ない。これは、静岡県西部の埴輪の胎土の全体的な特徴になる。以下、市町村ごとに結果を述べる。

(1) 愛知県豊川市および豊橋市(試料番号1および2)

各市1点ずつの試料であるが、どちらも同定粒数100個未満である。このうち豊川市の試料は、特徴を捉えることはできない。豊橋市の試料番号2は、斜方輝石と角閃石がやや多く認められる。

(2) 湖西市(試料番号3、4-1、4-2)

3点のうち同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号4-1のみである。試料番号4-1は、ほとんど「その他」ばかりで、微量の斜方輝石、角閃石、ジルゴンを含む。試料番号3は特徴を捉えることはできない。試料番号4-2は、ジルゴンが特徴である。

(3) 細江町(試料番号5～9)

5点のうち同定粒数100個以上の試料は、試料番号8を除く4点である。4点のうち試料番号5は「その他」がほとんどであり、微量の斜方輝石とジルゴンを含む。試料番号6は、角閃石が非常に多い。試料番号7と9は、酸化角閃石が多く、少量の緑レン石を伴うことが特徴である。試料番号8は、角閃石が特徴といえるが、ジルゴンやザクロ石も含む。

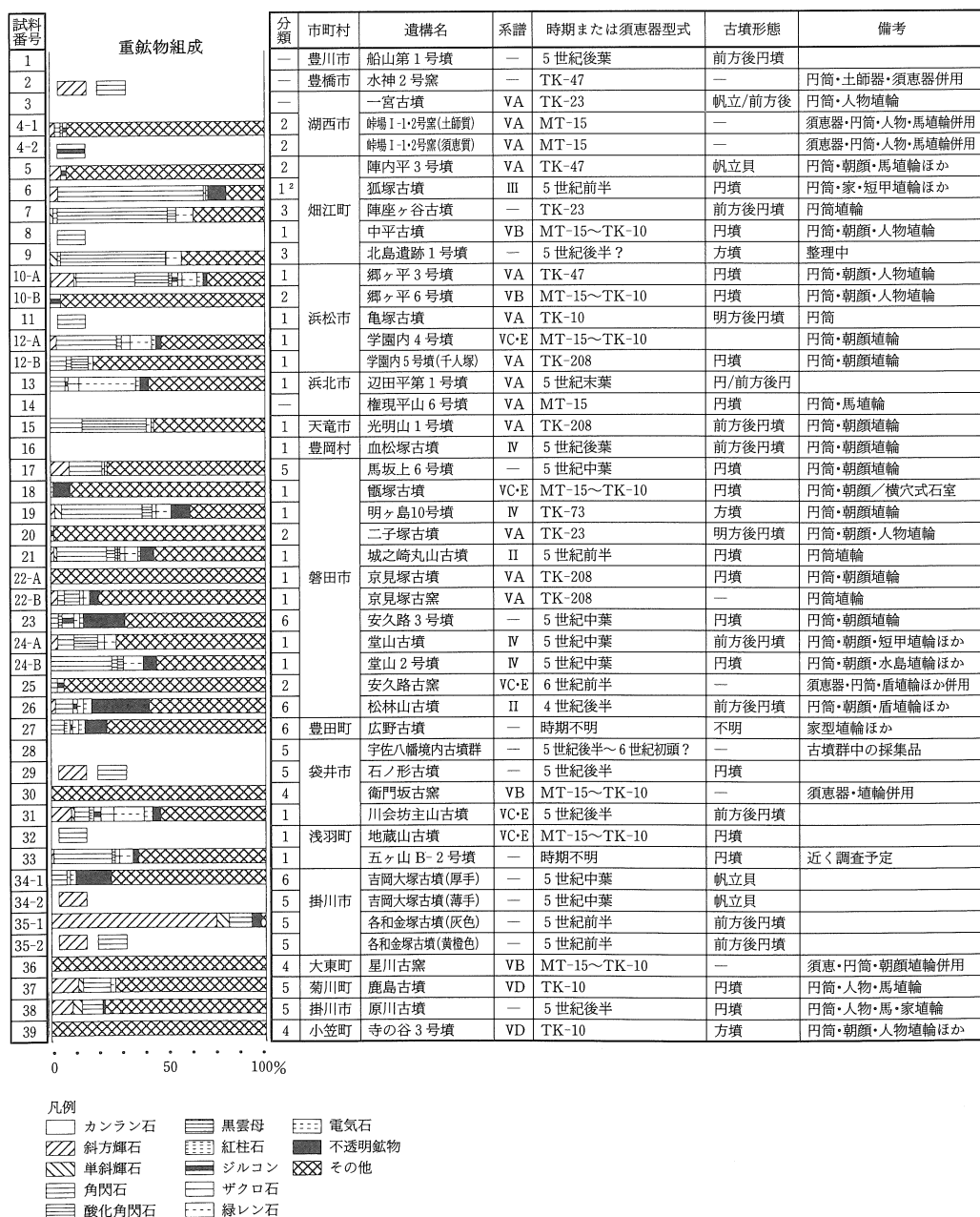


Fig. 96 試料の胎土重鉱物組成 1

(4) 浜松市および浜北市(試料番号10~14、ただ試料番号10と12はそれぞれAとBがある)

7点の試料のうち同定粒数100個以上の試料は、試料番号11と14を除く5点である。このうち、試料番号10-A、12-A、12-B、13の4点は、「その他」を除けばともに角閃石と緑レン石が比較的多く、微量~少量の鉱物も考慮すればジルゴン、ザクロ石、電気石を含むことで共通する。ただし、各鉱物の量比は各試料ごとに異なる。同定粒数100個未満の試料番号11も角閃石が特徴ではあるが、ザクロ石や緑レン石を含むことで、これら4点に近い組成といえるかもしれない。これらに対して試料番号10-Bは、「その他」がほとんどであり、少量のジルゴンを含む。試料番号14は、特徴が捉えられない。

Tab. 16 胎土重鉱物分析結果 1

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	同定鉱物粒数
1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	26	27
2	1	8	0	10	5	0	0	1	2	0	1	1	58	87
3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	9
4-1	0	6	2	6	3	0	1	5	1	0	2	0	224	250
4-2	0	3	0	1	0	0	0	11	2	0	0	1	21	39
5	0	6	1	0	1	0	0	3	1	0	0	1	101	114
6	0	4	0	71	0	0	0	0	1	0	1	9	19	105
7	0	1	4	5	127	10	0	0	0	20	0	1	82	250
8	0	2	0	8	1	1	0	4	2	1	0	3	20	42
9	0	0	9	3	122	1	0	0	0	18	0	0	97	250
10-A	1	15	2	39	23	0	2	4	3	10	4	3	39	145
10-B	0	0	0	1	0	0	0	12	2	0	0	0	235	250
11	0	1	0	10	0	0	0	0	1	1	0	0	8	21
12-A	0	7	0	70	6	1	0	0	10	25	5	6	120	250
12-B	0	1	0	19	6	19	0	0	1	6	0	0	198	250
13	0	1	0	17	2	2	2	3	13	64	5	10	126	245
14	1	2	0	3	0	2	0	0	0	2	2	2	10	24
15	0	1	0	37	1	74	0	0	1	6	3	0	127	250
16	1	3	0	3	2	0	0	1	0	1	1	2	39	53
17	0	22	0	38	0	0	1	1	2	3	3	1	179	250
18	0	1	0	2	1	2	2	1	0	2	3	20	216	250
19	0	5	8	93	1	12	0	1	5	17	2	22	84	250
20	0	1	0	0	0	1	1	4	0	1	0	0	242	250
21	0	4	3	58	10	3	3	2	5	15	3	16	128	250
22-A	0	0	0	2	2	0	2	1	0	0	0	0	243	250
22-B	0	8	0	8	18	0	0	0	4	7	2	11	192	250
23	0	1	0	9	0	1	4	14	2	7	4	48	160	250
24-A	0	8	0	19	2	27	0	2	8	14	1	0	169	250
24-B	0	0	0	71	6	7	0	0	1	23	1	16	125	250
25	0	1	0	7	0	0	0	8	0	1	0	0	233	250
26	0	5	0	21	0	2	1	5	1	7	9	67	132	250
27	0	2	0	15	0	2	7	3	0	7	7	26	181	250
28	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7
29	0	6	0	9	0	0	0	1	1	0	0	0	7	24
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250	250
31	0	24	3	17	2	2	5	9	15	35	10	9	119	250
32	0	2	0	21	0	1	1	0	3	0	0	0	23	51
33	0	3	1	68	2	3	0	0	5	16	0	6	146	250
34-1	0	1	1	18	0	0	1	2	1	4	7	41	174	250
34-2	0	24	1	9	0	1	0	1	2	0	0	1	7	46
35-1	0	129	10	18	0	0	0	1	0	0	1	7	2	168
35-2	0	7	1	18	0	0	0	2	1	2	0	1	12	44
36	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	113	114
37	0	17	3	17	1	0	0	0	0	3	0	1	93	135
38	0	25	11	23	2	2	0	1	1	2	0	3	180	250
39	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	249	250

(5) 天竜市および豊岡村(試料番号15、16)

天竜市の試料番号15は、黒雲母が多く、少量の角閃石と微量の緑レン石を伴う。豊岡村の試料番号16は、同定粒数100個未満であり、特徴が捉えられない。

(6) 磐田市(試料番号17~26、41、42、ただし試料番号22と24はそれぞれ A と B がある)および豊田町(試料番号27、40)

16点の試料の中で、試料番号40を除く15点の試料において同定粒数100個以上を得られた。15点の試料のうち、試料番号19、21、22-B、24-A、24-Bの5点は、角閃石が比較的多く、これに、少量または微量の緑レン石と不透明鉱物、微量の黒雲母、ザクロ石、電気石などを含むことで共通する。ただし、各鉱物の比量は、各試料によりやや異なる。また、試料番号23、26、27、41、42の5点は、上記の5点と含まれる重鉱物は類似するが、不透明鉱物が比較的多く、微量の角閃石、ジルゴン、緑レン石、電気石などを含むことで、比量がやや異なる。試料番号20と25は、「その他」がほとんどであり、これに微量のジルゴンを伴うことで共通する。一方、試料番号18もほとんど「その他」であるが、不透明鉱物が特徴となる。さらに試料番号22-A も「その他」がほとんどであるが、それ以外の鉱物についてはどれも極めて微量であり、特徴とすることはできない。試料番号40については、試料は10g ほどであったが重鉱物がほとんど認められないため、その特徴は捉えられない。

(7) 袋井市(試料番号28~31、43、44)

6点の試料のなかで、同定粒数100個未満の試料は試料番号28、29、43の3点であった。この中で試料番号28、29の特徴となる鉱物は、斜方輝石である。どちらの斜方輝石も非常に新鮮であり、ガラスの付着した粒も認められる。また、試料番号44についても斜方輝石はやや風化しているが、ガラスの付着した粒も認められる。試料番号30は、「その他」しか含まない。試料番号31は、斜方輝石、角閃石、紅柱石、ジルゴン、ザクロ石、緑レン石、電気石、不透明鉱物を少量ずつ含む。また、試料番号43も同定粒数は100個未満であったが、試料番号31に類似する重鉱物組成を示す。

(8) 浅羽町(試料番号32、33)

2点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは試料番号33である。試料番号33は角閃石が多く、少量の緑レン石を伴い、微量のザクロ石や不透明鉱物を含む。試料番号32は、角閃石が特徴である。

(9) 掛川市(試料番号34、35、38、45、46、ただし試料番号34と35はそれぞれ 1 と 2 がある)

7点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号34-1、35-1、38、46の4点

石ノ形古墳



Fig. 97 試料の胎土重鉱物組成 2

Tab. 17 胎土重鉱物分析結果 2

試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	同定鉱物粒数
40	51	1	4	0	0	0	0	0	1	0	37	6	100
41	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5	0	13
42	3	1	4	0	0	0	6	2	2	13	162	54	250
43	1	0	2	0	23	2	6	1	1	8	145	61	250
44	1	1	13	0	1	1	2	2	1	3	9	14	48
45	69	1	6	15	2	0	1	0	0	0	36	64	194
46	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2

である。このうち、試料番号34-1は「その他」が多いが、それを除けば角閃石と不透明鉱物を少量含み、微量の緑レン石と電気石を含む。これに対して、試料番号35-1、46は斜方輝石が非常に多く、単斜輝石と角閃石、不透明鉱物を伴う組成である。試料番号38は、「その他」が多いが、これを除けば、試料番号35-1、46に類似する組成となる。いずれの試料の斜方輝石も非常に新鮮であり、ガラスの付着が認められる。また、同定粒数100個未満の試料番号34-2、35-2も斜方輝石が特徴であり、その斜方輝石の特徴も上記3点の試料と同様である。さらに、試料番号45では、同定粒数が少なく斜方輝石にガラスの付着はみとめられないが、斜方輝石と角閃石が含まれることで、上記の5点の試料の重鉱物組成と類似する可能性がある。さらに、本試料の軽鉱物中には、無色透明の軽石型および中間型火山ガラスが少量含まれることに特徴がある。

(10)大東町、菊川町、小笠町(試料番号36、37、39)

3点の試料のうち、大東町の試料番号36と小笠町の試料番号39は、ほとんど「その他」からなる。一方、菊川町の試料番号37は、「その他」が多いが、それを除けば斜方輝石と角閃石が少量あり、微量の単斜輝石と緑レン石が含まれる。斜方輝石は新鮮であり、ガラスの付着が認められる。

5 考察

前述のように、本分析結果の全体的な特徴として、重鉱物の含有量そのものが少ないことがあげられ、そのために、試料間の組成の類似性や異質性の判断がやや困難となっている。したがって、出現する鉱物の組合せに着目して本分析結果の分類整理を行い、本地域の地質学的背景との比較、地域と鉱物組成の傾向、埴輪の時期・編年と鉱物組成などについての検討を試みる。

今回の分析では、以下の6種類の胎土に分類することができる。各試料間の分類はFig.96・97に示すが、特徴が捉えられず分類不能な試料が、試料番号1～3、14、40の5点ある。なお、埴輪の編年は、〔鈴木1994〕の編年表に従った。

a)第1類(20点)

本分析試料中、最も多くみられた胎土である。角閃石、ジルゴン、ザクロ石、緑レン石、電気石が主要な鉱物で、試料によっては黒雲母や紅柱石、不透明鉱物なども構成要素となる。浜松市や磐田市の試料に多い胎土である。なお、細江町の試料番号6は、鉱物の組合せは本類に近いようにもみえるが、角閃石の量比が非常に高いこととジルゴン、緑レン石が認められないことから1'とした。

本類の設定基準自体が非常に幅広くとってあることにもよるが、その分布はほぼ静岡県西部地域全域にわたる。おそらく、今後試料が増えたとしても本類は、静岡県西部地域の埴輪胎土に最も多くみられることになると考えられる。また、Ⅱ群、Ⅳ群、ⅤA、ⅤB、ⅤC、Eの各類に認められ、5世紀前半から6世紀前半のほぼ全時代にわたる胎土である。

b)第2類(6点)

「その他」が非常に多く、少量のジルゴンを伴うことが特徴である。地域的には、湖西市、細江町、浜松市、磐田市の広い範囲にわたって認められるが、少量である。また、埴輪の編年では、TK23以降のⅤA類とⅤB類、ⅤC・E類に認められ、他の群や類には認められないことから、ある時代・時期(5世紀末頃?)に限って出現する胎土かもしれない。

重鉱物粒がほとんど含まれないことから、天竜川中上流域の左岸側に広がる四万十帯や秩父帯などの堆積岩を主体とする地質が推定されるが、今の段階では特定できない。

c)第3類(2点)

本分析結果では、細江町の試料番号7と8に認められる胎土である。重鉱物の組合せは第1類に近いが、角閃石が酸化角閃石であることとジルゴン、ザクロ石が含まれないことで区別した。

点数が少ないことから、地域的あるいは編年的な相関を推定することはできない。ただし、重鉱物の由来は、第1類と同様に考えてよい。

d)第4類(3点)

ほとんど「その他」のみからなる胎土である。袋井市、大東町、小笠町の各試料に1点ずつ認められ、地域的には袋井市南部から小笠郡にかけての地域に限られる。また、編年にもVB、VC、E、VD(6世紀前半頃)の各類にしか認められない。これらのことから、本類は東遠江地域の在地の指標になり、東遠江での埴輪生産の開始に対応するかもしれない。なお、磐田市の試料番号22-Aは、量比的には本類に近いが、微量ながらも第1類の鉱物がほぼ揃っているので、ここでは第1類に入れた。第4類の重鉱物の由来については、第2類と同様のことが考えられる。

e)第5類(11点)

新鮮な斜方輝石を特徴とする胎土である。本分析では、掛川市の試料に多くみられる。また、磐田市や袋井市、菊川町の試料にも、ごく少数ではあるがこの第5類が認められる。さらに、その時代は、5世紀前半から6世紀前半までの広い範囲にわたっている。この状況から、本類は明らかに掛川市を中心とする地域性を持っていると考えられる。また、試料番号44は、ガラスが付着したやや風化した斜方輝石が認められることに加え、800°C以上で普通角閃石が変化して生成する〔黒田・諏訪1983〕酸化角閃石が比較的多い。したがって、試料番号44の素地は、本来第5類の特徴と類似していたが、焼成状況が異なっていた可能性がある。したがって、5'とした。

本類の特徴である新鮮な斜方輝石は、第四紀の中でも比較的新しい後期更新世の安山岩系のテフラに由来する可能性が高い。また、試料番号45に含まれる火山ガラスも、同様のテフラに由来する可能性がある。しかし、現時点では、掛川市周辺の地質からはその由来するテフラを求めることはできない。今後は、まず掛川市周辺の表層堆積物中の重鉱物組成やテフラの産状を確かめ、由来を求めることができれば、何か特殊な事情、例えば特定の地域と掛川市周辺との関係を表していることになる。いずれにしても、今後の調査が注目される胎土である。

f)第6類(6点)

不透明鉱物が比較的多く、微量の角閃石、ジルゴン、緑レン石、電気石などを含む胎土である。第1類は静岡県西部全体にわたるが、第6類より分布域が限られ、磐田市、豊田町の試料に多く認められる胎土である。また、II群(2点の試料)に認められ、4世紀後半～5世紀中葉にわたる。これらのことから、第6類の胎土は磐田市周辺の在地を示し、時代性をもつ可能性がある。磐田

原台地を中心とした古墳の築造および埴輪生産の開始に、対応しているかもしれない。その由来として、第1類と同様に天竜川中～上流の右岸域に広がる領家帯のカコウ岩類と変成岩類、および三波川帯の変成岩類という地質学的背景が考えられる。磐田原台地周辺の崖線や低地などに分布する粘土や砂には、天竜川によって運ばれた上記の岩石に由来する碎屑物が含まれていると考えられる。

6 まとめ

今回の分析によって6種の分類を設定することができた。静岡県西部地域の埴輪胎土の傾向として、以下のことが考えられる。

- 1) 市町村単位程度の地域性はそれほど強くはないが、第4類の東遠江地域、第5類の掛川市周辺、第6類の磐田市周辺というように地域性がある胎土も存在することがわかってきた。
- 2) 時代的な変遷はあまりないが、第2類の5世紀末頃?、第6類の4世紀後半～5世紀中葉というように時代性をもつ可能性があるものも認められた。
- 3) 技法的な分類と胎土の分類は、それほど相関性がない。
- 4) 概ね静岡県西部地域の地質学的背景を反映しているが、第5類のように現時点では由来が特定できない胎土も存在する。

〔鈴木1994〕では、静岡県西部の埴輪生産体制について六つの画期が考えられているが、第1の画期(松林山古墳にみられるような埴輪生産の開始)と第6類の胎土、第5の画期(東遠江・駿河での埴輪生産の開始)と第4類の胎土の対応が示唆される。

今後は、さらに分析例(特に窯跡試料や地域的・時代的にこれまでの分析例を補充する試料など)を増やすことで、胎土の分類をより確かなものにしたい。あわせて静岡県西部地域各地の自然堆積物である粘土や砂の重鉍物組成を調べ、胎土の重鉍物組成と比較することも必要である。それらにより、静岡県西部地域の埴輪生産や流通などの解明につながるものと期待される。

【引用・参考文献】

- 鈴木敏則 1994「静岡県における埴輪生産」『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』,
P.301-334. 向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会

石ノ形古墳



Fig. 98 分析試料出土地分布図(1:400000)